

三育学院大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）  
設置の趣旨等を記載した書類

目次

1. 設置の趣旨及び必要性	………… 2
2. 修士課程までの構想か、又は、博士課程の設置を目指した構想か	…………10
3. 研究科、専攻等の名称及び学位の名称	…………11
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	…………11
5. 教員組織の編成の考え方及び特色	…………16
6. 教育方法、履修指導、研究指導の方法および修了要件	…………20
7. 施設・設備等の整備計画	…………24
8. 既設学部との関係	…………26
9. 入学者選抜の概要	…………26
10. 大学院設置基準第14条による教育方法の実施	…………28
11. 管理運営	…………28
12. 自己点検・評価	…………29
13. 情報の公表	…………30
14. 教育内容等の改善のための組織的な研修等	…………31

## 1. 設置の趣旨及び必要性

### 1) 三育学院大学の沿革

三育学院大学は、明治31年(1898年)に、セブンスデー・アドベンチスト教団(プロテスタント系キリスト教)の宣教師ウィリアム・C・グレンジャーが創立した「芝和英聖書学校」の開設に遡る。以来、その教育は120年にわたって一貫して聖書の福音を教育の理念の根底に据え、「人間にとって最も大切なものは何か」の探求を主眼としてきた。

それは「三育教育」と称され、その目的は、聖書の示す愛を土台とし、神と隣人に対して十分な奉仕をするため、人間の備える身体(corpus)と知性(mens)と霊性(spiritus)の全ての面を最大限に発達させ、全人的に円満な人間形成を実現すること(To Make People Whole Through Christ's Love)である。

一方、看護師養成教育は、1928年に同じ教団の宣教師が医師や看護師として来日し、東京都杉並区天沼の現東京校舎に東京衛生病院看護婦学校を開設したことに始まり2018年に90年目を迎えた。1952年に各種学校、1974年に千葉県袖ヶ浦にある三育学院カレッジに移管し、「三育学院カレッジ看護学科」と改称した。1976年に専修学校、1987年に短期大学、2008年に四年制大学に改組して10年目を迎えた。その間、1978年に三育学院は千葉県夷隅郡大多喜町に移転し、現在に至っている。

現在、学校法人三育学院は、大学1校、カレッジ(専門学校;神学科)1校、高等学校1校、中学校3校、小学校10校、幼稚園4園、学生・生徒・児童の総数は1,281人であり、海外にも系列校を多数擁している。個々の学生に行き届く教育を行うために少人数制教育を大切に、各教育機関は小規模ながら総合学園に発展している。大学は看護学部の単科大学であるが、過去90年間に2000余名の看護職者を輩出し、系列病院をはじめ、国内はもとより広く世界各地で活躍している。

### 2) 本学における大学院看護学研究科設置の背景と経緯

近年わが国の少子超高齢化、医療の高度化、医療費の財政圧迫など、医療を取り巻く状況が急激に変化している。これと相まって国民生活水準の向上、家族構成や関係性の変化、権利意識の向上など、受け手側の意識や状況も変わってきている。これらがさらに絡み合うことで問題をより複雑かつ困難にしている。そのために看護職者は、複雑・困難な事例に遭遇することが増え、看護職者はより高度な実践力が求められている。

昭和56年以来、がんによる死亡率が第1位を占めている。また、脳血管障害の死亡率は昭和56年にピークを迎え、その後減少傾向をたどり、平成23年に第4位にまで減少した。しかし、罹患率は減少していないため、患者は一命をとりとめたものの、障害が後遺症として残り、障がい者として不自由な生活を余儀なく過ごすことが多い。これに加え、高齢化社会が加速し、多死社会に直面している。このように看護実践の場では病气や障がい者さらには老衰などで死に対する不安に直面している患者により多く遭遇するようになった。ひとは健康な時はあまり意識しないが、病气や障が

いをもち、死などで存在が脅かされるような危機的状态に陥った時、生きている意味を見失い、過去の出来事に対する後悔、不安などの苦悩にさいなまれる、いわばスピリチュアル・ペインを経験するとことがある。

WHOは、1998年に健康の定義について改定議案を提出した。それは「健康とは、単に病気や弱さがないだけではなく、身体的、心理的、社会的、スピリチュアルにおいても完全に良好な状態である」とし、スピリチュアリティが健康の概念に加えられたのは画期的である。また、2016年に日本看護協会から出された、基準・指針・ガイドライン集には、看護実践の基準として「看護を必要とする人を、身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から支援する」ことが含まれている。わが国において、スピリチュアルケアを看護支援として明確に打ち出されたことは画期的であり意義深い。

本学は90年前に創設された当初からすでにキリスト教の教えにより、身体、心理、社会の側面だけでなく、スピリチュアルな側面も包含した、全人的回復をめざすホリスティック・ナーシングを実践できる看護職者の育成をめざしてきた。本学の卒業生は系列病院で実践しており、地域で高く評価されている。しかし、スピリチュアルな側面をも包含した、全人的回復をめざすホリスティック・ナーシングについて、実践知は蓄積されてきたが学術的な取り組みはまだ浅い。

そのために、実践の場ではますます必要とされるホリスティック・ナーシングをさらに充実させるために、スピリチュアルケアをも包含した看護学をより学術的に取り組むことは重要と考え、90年の歴史を鑑み、次のステップへの発展を期して大学院教育の開設に取り組むことにした。

### 3) 設置の必要性

#### (1) 社会的背景

##### 1) 指導的看護実践者の育成の必要性

わが国の少子高齢化の加速、医療の高度化、医療費の財政圧迫など、保健医療福祉を取り巻く状況が急激に変化している。これに対して、受け手側の状況の変化として、保健医療福祉へのニーズの多様化・複雑化などにより、医療・介護へのニーズは量的増大だけでなく、質的にも多様化・複雑化しているため、実践の場における対応困難状況が増加している。このために、学術的基盤に基づく高度な知見と多職種との連携を牽引できる指導的看護実践者の育成が求められている。

まずは、対象を特定した小児、成人、高齢者の看護学領域、次に場を特定した地域看護学領域における指導的看護実践者が求められている。

小児・周産期医療の進歩に伴い、救命率が上がる一方で、超低出生体重児や重症児などの生涯疾患を抱えながら生活を余儀なくされる子どもが増加している。これらに核家族化が加速することに関連して育児のストレスなどから子どもの虐待が増えている。また、近年ノーマライゼーション概念の普及に伴い、障がい児・医療的ケア児が健常児と同様通常の社会環境で生活するようになった。

しかし、小児の在宅医療の整備、学校における支援体制など、これらの子どもたちをサポートするシステムが十分に整備されていない。小児の在宅医療における支援、学校でのサポート、虐待や育児不安へのアプローチなど、成育看護学として取り組むべき課題が喫緊である。

成人期では難病や生活習慣病などに関連する脳血管障害などが多発している。難病者は病状が不安定であることや機能障害などの後遺症により、症状コントロールが困難であることや就業にも困難をきたすことがある。そのため、疾患による慢性疾患の慢性性や不確かさのなかで生活することの大変さを理解し、個別性に適した高度な看護支援が求められている。

また、脳血管障害については、医療の高度化により死亡率は低下したが後遺症が残ることが多く、寝たきりの40%をも占めている。これらは、リハビリテーションなどによりいったん機能が改善されても、退院後家庭内や地域でのサポートが十分でない場合にADLや精神的活性が低下し、寝たきりの原因として報告されている。病院などにおける急性期や回復期の看護支援はもとより、退院後地域における継続的なサポートシステムが重要である。そのためにリハビリテーションの専門的知見をもとに多職種との連携を牽引できる指導的看護実践者が必要である。

高齢者は加齢による嚥下機能低下による誤嚥性肺炎が原因で入院することが増えている。また、身体的に健康であるにもかかわらず、生きがいをなくたり、フレイルや栄養不良による不健康な状態に陥るなど、高齢者のQOLを高めるアプローチの必要性が広く認識されるようになってきた。さらに、認知症者が増え、病状の悪化予防や改善するための看護ケアの開発に対する期待も高まっている。高齢者に関する医療・福祉施設や生活の場におけるこれらの課題を改善するための看護ケアの開発が喫緊な課題である。

地域看護では、あらゆる健康レベル、あらゆる発達段階の人々を対象にしている。そのために地域の健康診断と対策、また内部・外部障がい児や発達障がいをもつ子どもと家族、子どもの虐待、様々な疾病や障がいを抱えて療養生活をしている成人、また、地域の高齢化が加速するなかで、家族や地域の住民の関係性の希薄化から、介護力を期待することが困難であるため、地域全体の健康を支えることに困難さが増している。これらの課題を改善に導くために、保健師や看護師をはじめ、関係する多職種と連携協働し、高度な知見をもとにした指導的看護実践者が求められている。

次に、上述した対象や場を特定しないが、むしろ対象や場を問わずに普遍的にこれらの看護実践に存在する看護実践について指導的看護実践者が求められている。

人は特に生命が脅かされた危機的状況や悲嘆状態にあるときに、不安・恐怖・苦悩を抱き、スピリチュアル・ペインを経験するとされている。今日病気や死、障がいが告知されることにより、自らが自分の問題として直面しなければならなくなる。このような危機・悲嘆の状態にある患者・家族に対して全人的に理解し、生きることの充実感に関わるスピリチュアルケアは重要である。しかしその取り組みはまだ緒についたばかりである。実践の場において、学術的根拠に基づくケアを提供し、スピリチュアルケアのレベルアップを図るために、高度な看護実践者の活躍が期待される。

看護は実践の学問であり、技術を介して対象を援助する特性を有するため、看護における技術の向上やその教育は実践の質の向上にとって不可欠である。そのために、実践の場から看護技術の課題を見出し、それを研究的に発展させる能力を有する高度な看護実践者の活躍は重要である。また、技術の学修方法は知識の学修方法と異なり、技術に特化した教育方法の開発が必要である。このように看護の質の向上には、看護技術自体の向上及びその教育方法の向上の双方が必要である。そのために研究を通して技術開発できる看護実践者と教育者の養成は喫緊な課題である。

感染症は近年再び猛威を振るい、医療・福祉施設に限らず、広域に社会全体にも広がっている。特に近年新たな感染源の発現や感染経路が多様化かつ複雑化の様相を呈し、その予防や対策、さらには免疫力の向上には高度の専門知識が必要となっている。そのために、問題を研究的発展させる素養を有する指導的実践者や教育者・研究者の活躍が期待される。

## 2) 看護学教育者・研究者の育成の必要性

看護系大学の急速な増設により教員不足が深刻さを増し、看護系大学の教育の質の担保が問題となっている。そのために各専攻分野の看護学を精進し、臨床経験による実践知をより高度の知識で知見を高め、看護現象にある本質を見出し、課題を研究的に発展させる能力を看護学教育者・研究者の育成が喫緊な課題である。

平成4年の「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の施行等を契機に看護系大学が急激に増加したことで（平成3年度11課程、平成30年度276課程）、大学教員が大幅に不足し、看護系大学教育の質の担保が社会的に問題となっている。また、平成23年3月11日に報告された「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会（最終報告）」には、「大学院で養成が期待される人材としては、教育者、研究者、高度専門職業人、そして、知識基盤社会を支える、高度で知的な素養のある人材の養成」が挙げられている。

これらより、知識基盤社会を支えるために、看護学の豊富な実践経験を持ち、看護学に関する課題を実践・教育・研究から見出し、研究的に発展させる学術的に素養を持つ看護学教育者・研究者の育成が喫緊の課題である。

## (2) 近隣地域からみた社会的必要性

杉並区は、東京都23区の西側に位置し、全域にわたり市街地が広がっている。平成30年1月1日の統計によると、人口は約56万で微増している。その内訳は、15歳未満人口は約10.3%である。一方で、65歳以上人口は118,784人で21.0%である。このうち、75歳未満の前期高齢者と75歳以上の後期高齢者の割合では後期高齢者の方が若干高い傾向にある。しかし、令和17年には約168,000人に達し、約1.6倍増になると予測されている。このことから後期高齢者数の増加とともに要介護等認定者数も増加することが予測される。平成28年度に実施された杉並区の高齢者実態調査では、

約約3割が将来的には施設入所を希望しているが、約6割が現在の住まいで介護サービスを受けながら住み続けたいと回答しており、高齢者の大半は住み慣れた場所で最後を過ごしたいと考えている。

区内の医療体制についてみると、大学病院や特定機能病院などの大規模病院がなく、一次、二次救急病院を中心に、300余床以下の中小規模病院と診療所で医療を支えており、地域密着型の医療体制をなしていることが特徴的といえる。

本学の学部生の実習病院など、本学と深い関わりのある近隣の9病院の主任以上の看護管理者を対象に調査を行い、51人（100%）から次の回答が得られた。

看護管理者が要望している人材として、「優れたマネジメント能力を有する看護管理者；38件（74.5%）」、「高度な専門的知識と実践力を有する指導的看護実践者；48件（94.1%）」、「優れた教育能力を有する看護教育者；36件（70.6%）」、「優れた研究能力を有する看護研究者；32件（62.7%）」の結果が得られた。各病院ともに管理能力、教育能力、研究能力、高度な実践力を有する看護職者を必要としており、実践の場における需要の高さがうかがわれる（資料3 近隣病院の看護管理者を対象とした修士課程修了者採用に関する意向調査結果）。これらの近隣病院を代表して、東京都第4医療圏看護管理者連絡会議幹事役員から本大学院の開設に要望が寄せられている（資料1 三育学院大学大学院看護学研究科設置に対する要望書（東京都第4医療圏看護管理者連絡会議））。

また、同じ施設の看護職者を対象に大学院への進学ニーズを調査したところ、238人（100%）より次の回答が得られた。（資料4 近隣病院に勤務する看護師の進学意向調査結果）。近隣病院の看護職者が「進学したいと思う；8件（3.4%）」「条件が合えば進学したいと思う；36件（15.1%）」で、計44件（18.5%）と高い進学意向を示した。さらに、将来の選択肢の一つとして考えたい；89件（37.4%）」を合わせると133件（55.9%）と半数以上が進学に肯定的であった。その内訳として、在宅看護学と地域看護学で計103名（30.3%）、成人看護学68名（20.0%）、基礎看護学36名（10.6%）、看護教育学34名（10.0%）、次いで母性看護学、小児看護学の順であった。これらの結果より、各看護領域への進学希望者数の多寡の違いはあるが、どの領域にも進学希望者がいることが示され、高度な実践力を身に着けたいと考えている看護職者はどの看護領域にも存在し、日ごろの実践から地域住民から高い看護への期待がよせられていることが推察される。

### （3）系列病院からの要請、本学卒業生からの要請

本学の卒業生の多くは、系列の3病院（東京衛生病院、神戸アドベンチスト病院、沖縄アドベンチストメディカルセンター）でホリスティック・ナーシングを実践し、患者に寄り添う看護を提供することで地域住民に高く評価されている。医療を取り巻く状況については、系列病院においても例外ではなく、看護職者がより高度な実践力が求められている。そのために、系列の3病院から本学

に大学院設置の要望が寄せられている。(資料2 三育学院大学大学院看護学研究科設置に対する要望書(系列病院：東京衛生病院、神戸アドベンチスト病院、沖縄アドベンチストメディカルセンター))

また、本学の卒業生を対象に進学へのニーズを調査した結果、進学に肯定的な返答が得られたのは約半数であった。(資料5 本学卒業生の看護学研究科への進学意向調査結果)

このように、本学関連の系列病院、卒業生及び在校生からも今後のキャリアラダーを検討するうえで本研究科の設置を要望していることが示された。

#### 4) 大学院看護学研究科看護学専攻の教育上の理念と目的

三育学院大学は、プロテスタント・キリスト教の精神、とりわけその潮流のもとにあるセブンスデー・アドベンチスト教団の理念と実践に基づく教育共同体である。そのめざすところは、聖書に示されている本来の人間すなわち霊性 (spiritus)、知性 (mens)、身体 (corpus) の統合体としての人間の全体的な回復である。本学の使命は、この目的のもと、神をすべての価値の源として真理を探究し、自己と他者の尊厳を重んじ、より良い社会の形成をめざして、それに貢献し得る人物を育成することである。

看護学部は、上述した建学の精神に則り、次の教育目標の基に教育課程を編成実施している。

##### 【看護学部の教育目標】

1. 神の愛を学ぶことにより、自己と他者の価値と尊厳を認める。
2. 自己、他者、そして神との対話を通し、自分を見つめ、成長させる。
3. 人間関係を円滑に保つコミュニケーション能力を身につける。
4. 物事を論理的に考えるクリティカルな思考力と、問題と主体的に取り組む姿勢を持つ。
5. 看護専門職者として高い倫理観を備え、適切で安全な看護を実践する基礎的能力を身につける。
6. 自己の行動に責任を持ち、他職種と連携して働くことができる。
7. 自己研鑽に努め、看護学の発展に寄与する。
8. アドベンチスト・ライフスタイルに基づいた健康的な生活の実践と啓発に努める。
9. 国際性を養い、人種・文化・心情を超えた看護を実践できるとともに、国際交流や国際協力に貢献できる。
10. 神に仕えるように人に仕える精神を持ち、喜びと意義ある天職として看護の働きを実践する。

### (1) 大学院看護学研究科の教育目的

本学の大学院は看護学部を基礎にさらに発展させるものである。三育学院大学大学院は、キリスト教精神を基にした建学の理念に則り、看護学の深奥を究めるために、学術の理論並びに応用を教授研究し、もって人類の保健医療福祉分野に貢献する人材育成を目的とする。

### (2) 大学院看護学研究科の教育目標

看護学部では、ジェネラリストの看護職者の育成を目標としているが、研究科看護学専攻(修士課程)では、学部で育成することが困難な高度な能力を有する人材を育成する。教育目標は、ホリスティック・ナーシングの視点を持ち、実践の場で抱いた問題意識や実践の根拠について、研究的に発展させ、実践と研究が融和する高度の実践能力を修得し、指導的看護実践ができる人材と専攻分野の各看護学を精深し、研究能力を有する教育者・研究者を育成する。

上記の教育目標を達成するために、次のディプロマ・ポリシーで挙げる能力を有することが必要である。これを基に後述の教育課程を編成する。

#### 【ディプロマ・ポリシー】

1. 専攻した専門性において、ホリスティック・ナーシングの視点で理論や最新の知見を論理的・倫理的に看護に活用する能力
2. 多職種との連携協働を牽引し、看護実践の質向上に指導的役割を果たせる能力
3. 看護の実践や研究における課題解決に向けて、科学的根拠に基づき多角的に取り組む能力
4. 看護現象に高い関心を持ち、看護学の発展に寄与する教育・研究能力
5. 高度看護専門職者として、生涯自己研鑽を継続し、社会に貢献する能力

### (3) 育成する人材と修了後の進路

ケアの質の向上を図るうえで、実践の場で抱いた問題意識や実践の根拠について、研究的に発展させ、実践と研究が融和する高度の実践能力を有し、高度なケアを牽引する指導的看護実践者が実践の場に必要である。また、臨床経験豊かな実践知を持ち、これらを学術的な素養により各専攻分野の看護学を精深し、看護現象(実践、教育、研究)にある本質を見出し、課題を研究的に発展させる能力を有する教育者・研究者が必要である。

看護は実践の学問であるため、実践と研究は乖離するのではなく、むしろ教育も含めて、3者間で行き来することで理論や研究が実践の質の向上に寄与し、実践からは研究課題が提供される。そしてこれらを教育に反映させることにより、看護の実践や教育の実践が学術的に裏打ちされた看護教育とすることが可能となる。そのために、実践者、教育者、研究者ともに研究的素養をもつことは重要である。しかし、それぞれがおかれている状況から、研究活動にかけられる時

間や労力、予算が異なるため自ずと取り組める研究の量や質も異なる。そのために、それぞれの背景や指向の違いを視野に育成する人材像を次のように考える。

指導的看護実践者は、実践の場におけるケアの質の向上に向けて、ケアの根拠を明確にすることや問題解決は重要である。そのために、特に問題解決能力を育成すると同時に、研究テーマも精深してきた看護学の実践に沿って指導する。一方で、大学などで教育者・研究者としてのキャリアを積むことを指向する看護職者は、問題現象をより深く掘り下げ、本質に迫るテーマに取り組み、将来概念、理論、ケアシステムなどの開発に必要な基礎的な学修にウエイトを置き、育成する。

本研究科では、学部教育はもとより、修士課程及び博士後期課程の教育研究経験が豊かな教員を多数有しているため、学生の多様な教育背景や関心に合わせて教育指導をすることで、めざす人材像を育成することが可能と考える。

### ① 指導的看護実践者の育成の必要性

わが国の少子高齢化の進展、医療の高度化、医療費の財政圧迫など、保健医療福祉を取り巻く状況が急激に変化している。これに対して、受け手側の状況の変化として、保健医療福祉へのニーズの多様化・複雑化などにより、医療・介護へのニーズは量的増大だけでなく、質的にも多様化・複雑化し、実践の場における対応困難状況が増加している。このために、学術的基盤に基づく高度な知見と多職種との連携を牽引できる指導的看護実践者の育成が求められている。

まずは、対象を特定した成育、成人、高齢者の看護学領域、また場を特定した地域看護学領域における指導的看護実践者を育成する。

次に、上述した対象や場を特定しないでむしろ対象や場を問わずに普遍的にどの看護実践にも存在する、スピリチュアルケア、看護教育学、看護技術、感染看護学についての指導的看護実践者を育成する。

### ② 看護学教育者・研究者の育成の必要性

看護系大学の急速な増設により教員不足が深刻さを増し、看護系大学の教育の質担保が問題となっている。そのために各専攻分野の看護学を精深し、臨床経験による実践知をより高度な知識で知見を高め、看護現象にある本質を見出し、課題を研究的に発展させる能力を看護学教育者・研究者の育成が喫緊な課題である。

平成4年の「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の施行等を契機に看護系大学が急激に増加したことで（平成3年度11課程、平成30年度276課程）、大学教員が大幅に不足し、看護系大学教育の質の担保が社会的に問題となっている。また、平成23年3月11日に報告された「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会（最終報告）」には、「大学院で養成が期待される人材と

しては、教育者、研究者、高度専門職業人、そして、知識基盤社会を支える、高度で知的な素養のある人材の養成」が挙げられている。

これらより、本研究科では、知識基盤社会を支えるために、看護学の豊富な実践経験を持ち、実践・教育・研究を問わず、看護学に関する課題を研究的に発展させ、学術的研究的素養を持つ看護学教育者・研究者を育成する。

### ③ 修了後の進路

本研究科で育成する人材は、①指導的看護実践者、②看護学教育者・研究者であるために、本研究科に特化したディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを設定し、修了後のキャリアパスとの対応は次のことが期待できる。

#### a. 指導的看護実践者としての進路

##### < 普遍実践看護学 >

修学前に勤務していた病棟におけるスピリチュアルケア、看護技術、感染看護学領域における高度の専門的知見をもとに多職種連携を牽引する指導的役割を發揮できる看護師としての活躍が期待される。また看護部に所属し、病院全体のコンサルタントとして指導的実践が期待される。

##### < 特定実践看護学 >

特定実践看護分野において、保健医療福祉施設などにおいて、成育看護学、成人看護学、高齢者看護学、地域看護学領域における高度の専門的知見をもとに多職種連携を牽引する指導的役割を發揮できる看護師、地域の保健師としての活躍が期待される。

#### b. 教育者・研究者育成としての進路

医療や福祉施設では、看護学生に対する臨床実習指導、看護師に対する教育的役割を果たす看護師として、または、継続教育として院内教育プログラムの企画運営の担当者として、さらには、看護系大学で基礎教育を担当する教育者としての活躍が期待できる。博士後期課程への進学を通して、より高い研究能力を修得し、研究者としてのキャリアを発達させることが期待できる。

『資料9-③ 看護学研究科看護学専攻（修士課程）履修モデル』で4パターンのキャリアパスを示した。（『資料9-① 育成する人材像と3ポリシー』）

## 2. 修士課程までの構想か、又は、博士課程の設置を目指した構想か

本学は単科大学であり、既設は学部までである。この度の申請ははじめての大学院を設置するものである。そのために、修士課程修了者には、高度な学術的理論の学修や応用を研究し、その深奥を究めたい者は、さらに博士後期課程に進学することを薦める。本研究科においては、完成

年度を迎えた後は、学部及び研究科の実績を評価したうえで、社会的ニーズを鑑み、博士後期課程の開設については慎重に検討していく。

### 3. 研究科、専攻等の名称及び学位の名称

本研究科、看護学部看護学科を基礎として設置する。専攻等の名称及び学位は次の通りとする。

大学院名	三育学院大学大学院	Saniku Gakuin College Graduate School
研究科名	看護学研究科	Graduate School of Nursing
専攻名	看護学専攻	Master's Course in Nursing
課程	修士課程	Master Course
学位	修士（看護学）	Master of Science in Nursing

### 4. 教育課程の編成の考え方及び特色

#### 1) 教育課程の編成

本研究科の教育課程は、教育目的・目標を達成するために、ディプロマ・ポリシーに基づき編成する。

#### 【カリキュラム・ポリシー】

1. 看護実践・教育・研究にホリスティック・ナーシングの視点を備えた人材を育成するために、共通科目に「キリスト教人間学」、専門科目に「スピリチュアルケア」を置く。
2. 専攻する看護学の専門性や看護教育能力を高める理論・概念・最新の知見等の基礎的及び高度な知識を修得するために、共通科目及び専門科目に講義として「特論」科目を置く。
3. 多職種との連携協働に関する基礎知識の学修と多元的にその必要性を理解するために「保健医療福祉連携特論」、また「成育看護学特論」、「成人看護学特論」、「高齢者看護学特論」、「地域看護学特論」科目の学修を通して対象に適した連携協働の在り方や可能性を探求する。
4. 「普遍実践看護学演習ⅠAとⅠB」、「特定実践看護学演習ⅠAとⅠB」を置き、「特論」などの講義科目で学修した知識を活用応用レベルまで深化し、課題解決に取り組む能力を育成する。
5. 研究の基礎的知識「看護研究方法論ⅠとⅡ」、研究論文のクリティーク「普遍実践看護学演習Ⅱ」、特定実践看護学演習Ⅱ」、研究の一連のプロセスを踏む「特別研究ⅠとⅡ」の科目を置き、研究能力を育成する。
6. 修了後のキャリア・デザインに基づき、各自の専門性に沿って引き続き探究し、社会に貢献することを可能にするために、2つの研究分野8つの特論科目を配置する。

教育課程の構造は、＜共通科目＞、＜専門科目＞、＜研究科目＞の3つの区分で編成する。

＜共通科目＞には、必修科目として「キリスト教人間学」、「保健医療福祉連携特論」、「看護研究方法論Ⅰ（総論）」、「看護研究方法論Ⅱ（量的研究・質的研究）」の4科目を配置する。また選択科目として「看護理論」、「看護管理学」、「実験的行動分析学特論」の3科目、計7科目を配置する。

＜専門科目＞には、＜普遍実践看護学分野＞及び＜特定実践看護学分野＞の2分野を配置する。

＜普遍実践看護学分野＞には、「スピリチュアルケア特論」、「看護教育学特論」、「看護技術特論」、「感染看護学特論」の4講義科目として特論科目（専攻領域）を配置する。

＜特定実践看護学分野＞には、「成育看護学特論」、「成人看護学特論」、「高齢者看護学特論」「地域看護学特論」の講義科目として4特論科目（専攻領域）を配置する。

「演習科目」については、＜普遍実践看護学分野＞及び＜特定実践看護学分野＞の各分野にそれぞれに3つの演習科目を配置する。＜普遍実践看護学分野＞には「普遍実践看護学演習ⅠA」、「普遍実践看護学演習ⅠB」、「普遍実践看護学演習Ⅱ」、また、＜特定実践看護学分野＞には、「特定実践看護学演習ⅠA」、「普遍実践看護学演習ⅠB」、「特定実践看護学演習Ⅱ」を配置する。したがって、＜普遍実践看護学分野＞には4つの特論科目と3つの演習科目、計7科目を配置する。＜特定実践看護学分野＞についても同様な科目数を配置する。

＜研究科目＞には、「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」を各学年に配置する。

## 2) 共通科目

＜共通科目＞については、専攻する看護学の基礎的素養を修得ために7科目を配置し、必修4科目、選択3科目を配置する。

必修科目として、「キリスト教人間学」は、ホリスティック・ナーシングを展開するためにコアとなるキリスト教の考え方に基づき人間理解を学修するためであり、スピリチュアルケアの専攻に繋げるための科目である。「保健医療福祉連携特論」は、わが国の保健医療福祉、年金制度や政策の動向をふまえて、変動する現代社会における保健・医療・福祉に関する問題を社会学的視点から把握するとともに、国・都道府県・市町村の各レベルにおける健康に関する行政課題・対策および連携を学修するための科目である。また、「看護研究方法論Ⅰ（総論）」は、修士論文を取り組むための研究プロセスに関する基礎的知識を学修する科目である。また、「看護研究方法論Ⅱ（量的研究・質的研究）」は、看護研究で多用されている量的研究と質的研究方法論について学修する科目である。これらの4科目はホリスティック・ナーシングの視点を涵養し、多職種との連携協力の理解を深め、修士論文に取り組むための研究に関する基礎的知識の学修である。これらはディプロマ・ポリシーで挙げている能力の育成にとって不可欠であり、必修科目として設定する。

また選択科目については、「看護理論」は、看護実践のエビデンスを演繹的に理解し、実践に活

用するための基礎知識を学修ための科目である。「看護管理学」は、ケアの人的・物的環境の運用、システムの構築、組織や連携協働関係を築く上でリーダーシップやメンバーシップの理解、人材育成に関連する理解を深めるための科目である。「実験的行動分析学特論」は、人と環境（人的・物的）の相互作用を科学的に解明する学問であり、看護への応用として、慢性疾患における療養行動の形成と維持や子どもの問題行動の改善や生活行動の形成などの行動変容を図る方法として有効である。

### 3) 専門科目

① < 普遍実践看護学分野 > および < 特定実践看護学分野 > の2つの分野を配置する考え方

専門科目は看護の専門性が異なることに基づき2つの分野により編成する。

「普遍実践看護学分野」は、どの看護実践にも普遍的に包括されている重要不可欠な「看護実践」であるため、【スピリチュアルケア特論】、【看護教育学特論】、【看護技術特論】、【感染看護学特論】の4科目を配置する。これらの科目は、どの看護実践にも普遍的に包括され、「普遍的に存在する看護実践」である特徴をもち、この分野に配置する4つの科目はともにそれぞれ独自の専門性をもつ普遍的看護の実践であるため、分野名にも「実践」を加えて「普遍実践看護学分野」とする。

「特定実践看護学分野」は、対象または場を特定した、対象に対する健康の維持増進や療養支援に関わる4つの科目を配置する。これらの4つの科目のうち3科目を対象の発達の段階により【成育看護学特論】、【成人看護学特論】、【高齢者看護学特論】、また、1科目は看護実践の場を特定した【地域看護学特論】を配置する。

このように、「特定実践看護学分野」は、対象または場を特定した看護の実践であるのに対して、「普遍実践看護学」は対照的に対象や場を特定せずに、あらゆる看護実践に存在することにおいて異なるために、分野の名称も対照的であるように設定する。

② < 普遍実践看護学分野 > に配置する4つの科目【スピリチュアルケア特論】、【看護教育学特論】、【看護技術特論】、【感染看護学特論】を設置する考え方

「スピリチュアルケア特論」は、全人的回復を目指す看護（ホリスティック・ナーシング）の一環を学修するための科目である。ここでの全人的とは、人間を身体的、心理的、社会的のほか、スピリチュアルな側面をも持つ存在としてとらえている。スピリチュアルケアが特に必要とされる看護場面として、がん患者や終末期にある患者の看護、高齢者看護、障がい者看護、難病者、死産や奇形児などの家族看護、災害看護など、どの看護領域にも普遍的に必要とされる看護である。しかし、スピリチュアルケアは今まで見過ごされがちであったため、その学問的取り組みもまだ初期的段階である。そのため、本科目では、ホリスティック・ナーシングとスピリチュアルケア関係、

スピリチュアリティに関する内外の研究の動向、スピリチュアリティの概念や構造、機能、また危機や悲嘆の事例などの学修を通して、エビデンスに裏打ちされたスピリチュアルケアの提供や研究に繋げる。

「看護教育学特論」は、看護学における人材育成に必要な教育学について学修する科目であり、看護学における実践、教育、研究のいずれにも普遍的に存在する教育的実践である。本科目では、看護教育制度および看護基礎・卒後、継続教育の現状を分析し、課題を明らかにすること、また、成人である看護職を対象としているので成人に関する学習理論、教育的機能発揮に必要な知識・技術を修得する。さらに、教育評価および看護継続教育の充実に向け、「院内教育」の計画立案・実施・評価・改善に必要な知識・技術などを探求する。

「看護技術特論」については、看護は実践の学問であり、五感をはじめ、器具や機器なども用いて技術を介して健康問題にアプローチすることを特徴とし、どの看護実践領域にとっても普遍的に存在し、実践に不可欠な要素である。看護技術の向上は実践の質の向上に直結する。本科目では、看護技術の基本的概念や理論を理解し、様々な看護技術開発のための方法論を学ぶとともに、看護技術提供に潜む倫理的問題と配慮について考察する。看護基礎教育における技術教育の課題について現状を分析し、看護学生の看護技術能力の向上のための教材開発とその有効性と課題について検討する。さらに、看護を支援する工学機器に関する検証結果や、療養環境における臭いの研究結果をもとに、看護技術ケアプログラムを開発する研究方法を探求する。

「感染看護学特論」については、感染は近年猛威を振り医療や福祉施設内のように限定的であることはもとより、地域全体に広がることで社会問題にもなっている。感染が再び人類に甚大な影響を及ぼしている今日では、医療、福祉や人々が生活する場においてどの看護実践においても普遍的に必要不可欠である。本科目では、近代医療における感染の歴史的変遷と今日的課題、及びその対策や今後の展望について学ぶ。また、感染の予防策として、生体側の防御機能や自己治癒力の活性化に関する心身の相関を探求する。さらに、易感染宿主、特にがん患者など、免疫機能が破綻した患者や高齢者の感染防御の看護支援について探求する。

以上のように、「普遍実践看護学分野」に配置する各科目は、看護の対象や場、人数などを問わず、どのような看護実践にも普遍的に重要不可欠である特徴を有している。そのために、これらの看護実践に関する基礎的な知見は学部教育でも学修している。修士課程のレベルでは、これらを土台にさらに高い知見を修得し、次に述べる対象や場が特定される特定実践看護の質の向上が期待される。

### ③ <特定実践看護学>に配置する4つの科目【成育看護学特論】、【成人看護学特論】、【高齢者看護学特論】、【地域看護学特論】を設置する考え方

「成育看護学特論」は、成育医療の対象である子どもと家族、さらには支援する関係者を特定した看護支援について学修する科目である。これらの対象に関連する理論・概念・モデルの検討及び国内外の研究成果の吟味を通じて、先天性心疾患などの内部障がいをもつ子どもや発達障がいをもつ子どもとその家族、さらには保育士や学校教諭などの関係者に対する支援を学修するために、これらの人々が抱える複雑多様課題状況の概念化および支援者に対する支援の事例や研究を通して、子どもと家族のQOLを高める援助方法を探求する研究に繋げる。

「成人看護学特論」は、成人期にある対象を特定して、その健康維持増進、療養支援に関する看護について学修する科目である。成人期に多発する難病や脳血管障害などによる中途障がい者に対する対象理解と支援について、慢性疾患の慢性性や不確かさの概念や理論を学修し、病者と家族の療養生活の支援を探究する。また、リハビリテーション各期の看護や急性期看護に携る看護師の卓越性について先行研究での学修を通して、研究テーマへと繋げる。

「高齢者看護学特論」は、高齢者とその家族を対象として特定し、その看護支援について学修する科目である。高齢者とその家族の健康と生活に関わる基本概念および関連する諸理論を学ぶことを通して、高齢者の生活や健康を包括的に理解し、実践に還元するために必要な知識を修得する。また高齢者の介護予防や認知症ケア、高齢者施設における看護等、高齢者ケアプログラムの開発について探究する。さらには、自己の看護実践を理論や先行研究の成果を活用して分析・評価することを通して、より質の高い看護実践に向けた課題を考察する。

「地域看護学特論」は、地域という場を特定し、そこで生活する地域住民の健康維持増進や療養生活を送っている病者に対する看護支援について学修する科目である。地域の保健医療福祉制度の変遷や看護活動の歴史的発展などを理解し、各発達段階の対象者が生活や療養している地域全体の健康課題に向けてのケアシステムの開発、事業化、施策化に関する学修をする。また、地域における精神保健活動の実態として、精神科療養病棟の長期在院の退院支援や就労支援、さらには、在宅看護については、地域包括ケアシステムの在り方、介護予防と在宅ケアとの連携を探究する。

以上の4つの特論科目は、特定の発達段階にある対象、または場を特定した対象に対して、看護支援を行うという専門性に着目し、「特定実践看護学分野」に配置する。

演習科目については、「普遍実践看護学演習ⅠA・ⅠB」、「特定実践看護学演習ⅠA・ⅠB」、「普遍実践看護学演習Ⅱ」、「特定実践看護学演習Ⅱ」を配置する。

「演習Ⅰ」科目は、「普遍実践看護学演習ⅠA・ⅠB」、「特定実践看護学演習ⅠA・ⅠB」である。これらは、事例分析を通して、特論科目等の講義で学修した理論・概念、最新の知識を活用・応用し、事象を演繹的に分析する能力や実践を評価する能力を身に着けるために学修することに加え、帰納的に実践から自己の課題を見だし、ケアのエビデンスを明確にするために学修する。

「演習Ⅱ」科目は、「普遍実践看護学演習Ⅱ」、「特定実践看護学演習Ⅱ」である。これらは、学習者が各自の関心に沿って論文を選定し、それらのクリティークを通して、研究論文を批評的に読み、研究内容や方法論についての理解を深化するために学修する。

#### 4) 研究科目

<研究科目>には、「特別研究Ⅰ」、「特別研究Ⅱ」の2科目を設け、通年科目として各年に履修する。研究プロセスに沿って、テーマの焦点化に始まり、一連の研究ステップを経て、修士論文を作成し、完成へと導くために置く。

修士論文を計画的に取り組むよう、主指導教員1名、副指導教員1名の複数指導体制で修士論文の作成プロセスに沿って2年間に分けて計画的に指導する。「特別研究Ⅰ」は研究テーマの焦点化に始まり、研究計画書を作成し、研究倫理委員会への提出準備までとする。「特別研究Ⅱ」は、研究倫理委員会へ審査申請し、修士論文の完成、発表までとする。

##### (資料7 修士論文作成・審査までのプロセス)

#### 5. 教員組織の編成の考え方及び特色

##### 1) 教員組織の編成の考え方

看護学研究科の教員構成は16名を配置し、専任の教授12名、准教授4名とする。共通科目、専門科目である普遍実践看護学分野、特定実践看護学分野にそれぞれ実績のある教授を配置し、教授を中心に教員組織を編成する。その内訳は、共通科目2名(教授2名)、普遍実践看護学分野5名(教授4名、准教授1名)、特定実践看護学分野9名(教授6名、准教授3名)である。

学位の保有状況については、博士を有する教員が12名、修士を有する教員が4名である。各教員共に担当する内容に関しての専門性に適する教育・研究業績を有している。

##### 2) 専任教員の年齢構成と定年規程の扱い

完成年度の教員の年齢構成については、年齢別の職位では、51～60歳の教授2名、准教授4名、計6名、また61～65歳の教授2名、66歳以上の教授8名である。完成年度において65歳を超える教員が8名いる。これに対応するために、研究科の完成年度において規程に定める定年(65歳)(三育学院就業規則第13条(資料17))を超え、「三育学院大学高齢者の採用に関する内規」(資料18)により78歳まで延長する教員8名を配置する結果となっている。

本研究科の教育研究活動の継続性や活性化を図るため、完成年度以降の教員補充にあたって、年齢バランス及び各分野の専門性の確保及び継承を十分に配慮する。具体的には、令和4年度に准教授2名(50～59歳代)及び講師1名(40～49歳代)を内部昇格又は外部から補充する予定である。

本学の「高齢者の採用に関する内規」により、最長で満78歳に達した年度末までは就業可能であるため、これに該当する3名が令和4年度で退職となる予定である。しかしそれ以降、定年が65歳であり、若手を育成することも重要であるため、65歳を超える教員については、教育の質を担保しつつ段階的に定年退職を進め、内部昇格や外部採用による教員の編成を図っていく。

完成年度の令和4年3月31日時点の専任教員の職位別年齢構成表

	41～50 歳	51～60 歳	61～65 歳	66～78 歳	計
教授	—	2	2	8	12
准教授	—	4	—	—	4
専任講師	—	—	—	—	—
助教	—	—	—	—	—
計	0	6	2	8	16

### 3) 教員組織の特色

#### (1) 共通科目

＜共通科目＞は、専門科目全般を深く追究していくための基礎能力を育成することを目指す科目と専門科目を学際的な視野から理解し、看護実践や看護教育で応用することを目指す科目として配置する。

「キリスト教人間学」は、神学を専門とし、牧師としての豊かな実践経験に加え、短大、大学や大学院での豊富な教育研究実績のある教授1名を配置する。

「保健医療福祉連携特論」は、看護職は行政をはじめ、多職種と連携協働していくうえで関連知識を多角的に理解するために、保健医療福祉の基礎的理論を教授する社会学の教授1名、地方自治体の行政実務に携わり、地域や行政の実態と課題を掌握しているゲストスピーカー2名、地域における医療機関の役割と課題を実践的立場から教授する系列病院長を非常勤講師として1名、地域における保健師の役割と活動について教授する地域看護学の教授1名、計5名の教員を配置する。

「看護研究方法論Ⅰ」は、研究についての豊富な教育研究の実績のある教授2名を配置する。「看護研究方法論Ⅱ」は、量的・質的研究方法論の基礎を学修するために、各々の研究方法論に精通する教授2名、非常勤講師2名、計4名の教員を配置する。

「看護理論」は、看護理論に精通し、日本の看護界を学術の面から牽引してきて、大学院教育においても経験豊富な非常勤講師1名と専門における大学院教育の経験が豊富な教授1名を配置する。

「看護管理学」は、日本の看護管理学分野のリーダーとして認知され、大学院において看護管理学の教育研究の実績を有する教授1名を配置する。加えて、病院などで看護管理の経験豊富な看護部長の経験も有する准教授1名と非常勤講師1名、計3名の教員を配置する。

「実験的行動分析学特論」は、大学及び大学院の心理学分野で長年教育研究を行い、看護系大学や大学院での非常勤講師としての経験を有する非常勤講師1名を配置する。

## (2) 専門科目

### < 普遍実践看護学分野 >

< 普遍実践看護学分野 >には、「スピリチュアルケア特論」、「看護教育学特論」、「看護技術特論」、「感染看護学特論」の4科目を配置する。

「スピリチュアルケア特論」には、スピリチュアルケアを専門とし、学部教育での豊かな教育研究歴を有する教授1名、このほか、看護教育学での豊かな教育研究歴を背景に、看護においてはまだ開拓的であるスピリチュアリティの概念を分析・実証し、博士の学位論文を完成させた後、スピリチュアルケアの実践を深めるために、専門のクリニックでの実践と複数の大学の非常勤講師として活躍している、非常勤講師1名、また系列病院で病院牧師として20余年あまり勤務している豊かな実践歴を有し、学部とその前身である専門学校時代から本学の看護学生の講義と牧師室実習を担い、全国各地の職場や学校での講義や講演を行い、実践的にスピリチュアルケアについての造詣の深い、非常勤講師1名、このほか本学の系列大学で医学部を擁している米国の大学の看護学でスピリチュアルケアについて取り組み、その著書が本邦で翻訳され、スピリチュアル看護におけるパイオニア的な存在である、非常勤講師1名、計4名の教員を配置する。

「看護教育学特論」には、学部及び大学院の修士課程で看護教育学に関する教育研究歴を有する教授1名の教員を配置する。

「看護技術特論」には、豊かな実務経験を経験した後、大学の学部教育では一貫して基礎看護学に所属し、技術教育に力を注いできた教育研究歴を有する教授1名、看護師、看護師長そして看護部長としても十数年の実務経験を積み、その間、米国で修士課程を終え、博士課程では、技術の精度を上げるための装置開発や看護・介護職の活動負担を軽減するための補助具を開発するなど、実践とその管理に精通し、実践の場に有用な用具や装置の開発研究に取り組む准教授1名、計2名の教員を配置する。

「感染看護学特論」には、感染は感染予防と免疫力の向上といったように双方からの視点でアプローチすることが重要である。そのため、大学や大学院での感染看護と免疫力を高めるための癒しの環境づくりやその効果について取り組んでいる教育研究歴の豊かな教授1名、免疫力に関する薬学部や大学院での豊かな教育研究歴を有する教授1名、計2名の教員を配置する。

### < 特定実践看護学分野 >

< 特定実践看護学分野 >には、「成育看護学特論」、「成人看護学特論」、「高齢者看護学特論」、「地域看護学特論」の4科目を配置する。

「成育看護学特論」には、小児看護学を専門とし、修士・博士課程での豊富な教育研究指導歴を有する教授1名、このほか、海外留学し、自閉症児をはじめとする発達障がい児とその親に対

する支援の経験が豊富で、大学院では研究員としての経験を有する准教授1名、計2名の教員を配置する。

「成人看護学特論」には、大学及び大学院の修士・博士課程において、成人看護学領域では慢性期看護に関する教育研究指導の経験豊富な教授1名、リハビリテーション看護学に関する造詣が深く、日本のリハビリテーション看護界を牽引し、この分野における第一人者であり、大学における成人看護学領域でのリハビリテーション看護の教育研究指導歴豊富な教授1名、米国で修士課程を終え、学部教育では成人看護学領域で教育研究し、急性期についての教育研究歴を有し、急性期看護師のエキスパート性に関する研究に取り組んでいる准教授1名、計3名の教員を配置する。

「高齢者看護学特論」には、大学において修士・博士課程における教育研究指導歴が豊富な高齢者看護学の教授1名、福祉施設における実務経験が豊かで、特に軽費老人ホームでのケアに精通し、充実した過ごし方に関するユニークな取り組みを行い、学部教育では高齢者看護学の講義や実習を専門としている教授1名、計2名の教員を配置する。

「地域看護学特論」は、地域看護に関わる医療・看護ニーズは多義にわたることから、公衆衛生の行政及び教育研究歴豊かな教授1名、また、在宅ケアについては、学部や大学院教育研究業績豊かな非常勤講師1名、地域における精神障がい者の退院後や就業支援についての教育研究に取り組んでいる准教授1名、計3名の教員を配置する。

#### 専門科目の教員組織

< 普遍実践看護学分野 >				< 特定実践看護学分野 >			
スピリチュアル ケア特論	看護教育学 特論	看護技術特論	感染看護学特論	成育看護学特論	成人看護学特論	高齢者看護学特 論	地域看護学特論
教授 修士 (看護学)	教授 博士 (看護学)	教授 修士 (看護学) 修士 (教育学)	教授 博士 (医学)	教授 博士 (ヒューマ ン・ケア科学)	教授 博士 (看護学)	教授 博士 (看護学)	教授 博士 (医学)
		准教授 博士 (保健学)		准教授 博士 (心理学)	教授 博士 (医学)	教授 博士 (医療福祉 学)	
					准教授 博士 (看護学)		准教授 修士 (社会学)

#### 4) 2校地において教育を行う教員の勤務状況

本学は、本校である大多喜キャンパスと東京校舎の2校地を有しており、一部の教員は学部の授業で2校地を往来する。本研究科は東京校舎のみで授業が行われるため、学部の授業で2校地を往来する教員は、研究科の授業のためでも、2校地を往来することになる。このような学部と兼担し2校地を往来する教員の負担軽減のため、往来の時間や回数を最小限にするよう、大多喜キャンパスで学部の授業のある木曜日・金曜日を避けて大学院の授業を設定する。実習指導については、大学院教育に携らない学部教員との役割分担や臨床とのユニフィケーション体制を一層推進し、より互恵的に協力が得られるなどの体制の整備・充実をはかる。学部の卒業研究では、担当の学生と教員が直接面接指導ができない場合は適宜、スカイプやメール等を活用し遠隔指導を行っている。研究科の研究指導においては、研究科の授業は全て東京校舎であり、学位の質を担保するためには直接面接指導を原則としている。したがって、やむを得ず直接指導できない場合のみスカイプやメール等を活用する。

(資料 10 看護学研究科看護学専攻時間割、2校地で教育を行う教員別の時間割)

## 6. 教育方法、履修指導・研究指導の方法及び修了要件

### 1) 教育方法

本研究科では、カリキュラム・ポリシーに則り、次の教育方法でカリキュラムを運用する。

学修方法は、学修の自律性を培うために、予習を基に授業では学生のプレゼンテーションやディスカッションを通して、主体的学修の態度を養い、復習によりさらに理解を深め、知識の定着を図る。

専門に特化した教員を配置するために、オムニバス方式による授業方法を積極的に取り入れる。オムニバス方式をとることから、各科目に責任教員を置き、授業の到達目標及びテーマに沿って一貫性を持たせて授業を展開する。科目内の内容の重複・欠落の防止に努める。また、責任教員は各授業担当教員から提出された評価を総合的に判断し、単位認定を行う。なお、科目の概要や教員に関する事項は、学期初めのオリエンテーション及び履修要項や初回の授業で学生の説明を行う。

また、共同で行われる授業は、専攻する特論科目の専門性により編成しており、当該科目の各担当教員が一堂に会して多角的に助言をする。単位認定は科目責任者がとりまとめ、連絡の窓口となる。

研究指導において、1年次が終了するまでに、「共通科目」や「専門科目」から必要な単位数を履修し、単位を取得させ、2年次は研究のデータ収集、分析に専念できるように、修士論文の作成をより円滑に進めるように図る。

## 2) 履修指導の方法

看護学研究科への入学を希望する者に対しては、希望する指導教員に事前相談し、希望者の入学動機、実務経験などの背景を鑑み、希望する特論科目と指導教員の専門及びカリキュラムの趣旨との齟齬の有無を確認する。

研究指導については、入学後主指導教員及び副指導教員1名を決定する。副指導教員は学生の希望と研究課題に適する教員を選定し、研究科教授会で決定する。2名の指導教員による複数指導体制をとる。

主指導教員は学生が取り組みたい研究課題や修了後のキャリアパスを考慮し、履修科目の選定、履修方法や自己学修の方法を指導し、さらには社会人学生に対しては仕事と学業の両立についても個別相談に対応し、細やかな配慮を行う。

(資料6 履修指導・研究指導計画・資料9 看護学研究科看護学専攻(修士課程)履修モデル)

## 3) 研究指導の方法

研究指導については、入学後主担当教員及び副指導教員1名を決定する。副指導教員は学生の希望と研究課題により教員を選定し、研究科教授会で決定し、複数指導体制とする。研究は学生の関心あるテーマについて取り組み、研究テーマの焦点化、文献検討、研究方法の選定、研究計画書の作成、倫理委員会審査の申請、データ収集、データ分析、論文の作成、発表など、以下のスケジュールに則り一連の研究プロセスを経て完成させる。

- 1年次 4月末 主指導教員と副指導教員の決定
- 7月 第1回研究計画書提出(テーマと方向性)
- 3月下旬 第2回研究計画書提出(指導教員指導計画書添付)

- 2年次 4月 研究倫理委員会審査申請
- 5月末 中間発表会
- 12月 修士論文提出
- 1月上旬 口頭試問(主査1名と副査2名)
- 1月末 修正版修士論文提出
- 2月中旬 修士論文発表会
- 3月 学位授与
- 3月末 修士論文保存版提出

(資料7 修士論文作成・審査までのプロセス)

## (1) 倫理審査体制

特別研究の実施は、倫理委員会の承認を必要とする。看護学研究科の倫理審査は、「三育学院大学研究倫理審査委員会手順」により、「人を対象として研究を行う教職員は、研究倫理審査委員会の審査を受けなければならない」にあるように、同手順に定めている手続きを経て、研究倫理申請書を作成し、研究倫理審査を受ける。

同委員会は、学部の教員、学外有識者、学外の一般の立場を代表する者、学長が必要と定める者から選出された者5名から構成されており、研究協力者となる対象の人権擁護、研究の理解を求め同意を得る方法、研究等によって生じる個人への不利益と危険及びその対応、情報管理等について審査している。

(資料8 「三育学院大学研究倫理審査規程」「三育学院大学研究倫理審査委員会内規」「三育学院大学研究倫理審査委員会手順書」)

## (2) 修了までのスケジュール

### ① 主指導教員の決定 (入学時)

学生は入学時に、専門科目の2分野にある特論科目の中から希望する1つの特論科目を選択する。希望した特論科目の担当教員の中から主指導教員を選択決定する。

### ② 履修計画の指導 (1年次5月)

主指導教員及び副指導教員の指導の下、各分野に設けられた科目(共通科目を含む)を選定及び履修する。

### ③ 修士論文計画書の提出 (1年次7月末)

この計画書は、テーマと方向性までとする。なお、特別の事情等により、やむを得ず指導教員を変更する必要がある場合は、当該「修士論文計画書」によりその旨申し出を行うこととし、変更の可否とともに主指導教員及び副指導教員の決定を研究科教授会で審議する。

### ④ 研究計画書の完成・提出 (1年次3月)

修士論文の「研究計画書」を研究科教授会で提出し、引き続き倫理審査申請書の作成に取り組む。

### ⑤ 倫理審査申請書の提出 (2年次4月)

倫理委員会よりの指摘を修正し、承認を得るまでこのプロセスを繰り返す。

### ⑥ 修士論文中間報告会 (2年次7月)

修士論文の中間発表は、最低研究計画までの内容を含める。進捗の早い者は進めた内容まで発表する。研究科教授会は中間報告会に出席し、中間報告での発表に対してより良い研究として進めるうえで有用な指摘を行う。研究科教授会はこの中間発表会の内容に対する評価は行わない。

⑦ 修士論文の提出 (2年次12月下旬)

修士論文の審査を受けようとする者は指導教員の下承を得て、所定の用紙に必要事項を記入し、所定の期日までに提出する。修士論文の提出は締め切り日までに提出する。

⑧ 修士論文の審査(口頭試問; 2年次1月上旬)と最終試験(修士論文発表会; 2年次2月中旬)

論文を提出した者は、1月に論文審査委員会が指定した主査1名と副査2名の体制で口頭試問を受ける。学生は指摘を受けた論文の個所を修正し、主査と副査に提出し、修正の可否について確認する。また、口頭試問に合格した者は、修士論文発表会で完成した論文を発表する。(2月中旬)。本発表会には、学内関係者に公開し、質疑応答を受けることができる。

⑨ 修士課程修了の合否判定 (2年次2月下旬)

⑩ 修士課程の修了及び学位の授与 (2年次3月)

研究科教授会の判定結果に基づき、学長が学生の修士課程の修了を確認し、修士(看護学)の学位を授与する。

(資料6 履修指導・特別研究指導計画(図)、資料9 看護学研究科看護学専攻(修士課程)履修モデル)

(3) 修士論文審査並びに公表方法

① 修士論文審査

修士論文は、各専攻特論科目の看護の向上に繋がるテーマを追究し、その内容は実践の分析、改善・改革のプロセスを含み、成果を論理的かつ系統的に記述・考察されていることを重視する。

修士論文の審査は、本学学位規程により行う。なお、本研究科における審査委員会は、主指導教員以外の指導教員を主査とし、他2名以上の指導教員の副査(異なる専門分野から1名以上とする)をもって構成する。審査の決定は、委員会の審査結果を受けて、研究科教授会において決定する。

また、審査委員会における審査は、修士論文としての水準や倫理的側面等から審査を行うが、別途審査内規を設け、審査の基準・評価方法等は下表のとおりとする。(論文審査の基準とする項目については、研究テーマの目的の明確性、研究の発展性、看護実践への応用性、研究方法の妥当性、引用文献の適切性、論旨の一貫性等)これらを明記し学生にも周知する。

## 修士論文審査基準

1. 看護学的価値・有用性
2. 文献検討の適切性
3. キーワードや概念の定義の適切性
4. 概念枠組みの適切性
5. 研究方法の適切性
6. 倫理性の確保
7. データ収集・分析・解釈の妥当性
8. 論文の構成と形式・表現の適切性
9. 研究発表と質疑応答の適切性

### ② 公表方法

学位授与が決定された修士論文の公表については、論文の全文を冊子にし、本学図書館に配架する。また論文概要は、学内機関誌、三育学院大学紀要に掲載し広く外部に公開する。

### 4) 修了要件

- ・標準修業年限2年以上在学
- ・「共通科目」において、必修科目8単位を含め、選択科目から2単位以上、計10単位以上
- ・「専門科目」において、主として専攻する特論2単位
- ・主として専攻する特論に関する演習ⅠA、演習ⅠBと演習Ⅱ、計8単位
- ・主として専攻する特論が含まれる分野以外の講義科目から2単位以上
- ・特別研究Ⅰと特別研究Ⅱの8単位
- ・合計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

## 7. 施設・設備等の整備計画

### 1) 施設・設備等の整備状況

本学は、千葉県夷隅郡に大多喜キャンパスと東京都杉並区天沼にある東京校舎の2ヶ所に施設を有している。大多喜キャンパスは、看護学部の他、専門学校三育学院カレッジを併設しており、大学の一部の施設は専門学校と共用している。看護学研究科は東京校舎に設置を計画している。

## (1) 大多喜キャンパス

校地敷地面積は27,671㎡、体育館6,429㎡、運動場19,207㎡、他にテニスコート、講堂、課外活動施設、厚生補導施設のための敷地等があり、300㎡は専門学校カレッジ校舎敷地となっている。

## (2) 東京校舎

東京校舎敷地面積は844.46㎡となり、内427.94㎡は借用となっている。

校舎敷地の概要

	専用	共用	共用する他の学校等の専用	合計
校舎敷地(大多喜)		27,671.00㎡		27,671㎡
校舎敷地(東京)	844.46㎡			844.46㎡
体育館敷地		6,429.00㎡		6,429㎡
運動場敷地		19,207.00㎡		19,207㎡
専門学校敷地			300㎡	300㎡
小計	844.46㎡	53,307.00㎡	300㎡	54,451.46㎡
寄宿舎敷地		14,185.00㎡		14,185.00㎡
その他の施設敷地		7,681.00㎡		7,681.00㎡
住宅敷地		28,106.00㎡		28,106.00㎡
合計	844.46㎡	103,279.00㎡	300㎡	104,423.46㎡

## 2) 校舎等施設の整備計画

看護学研究科の設置を計画している東京校舎は、現在、2棟の校舎棟施設を有しており、その総面積は1,236.75㎡となっている。学部教育に必要となる主な教室等の内訳は、講義室2室、演習室2室、シミュレーションルーム、コントロールルーム各1室の他、教員研究室、図書室、リラクシングルーム、事務室などである。

看護学研究科は、既設の看護学部看護学科を基礎として東京校舎に設置することから、校舎等施設は既に整備されているため、新たな整備計画は行わないこととしている。しかし、教員研究室に十分な広さが確保できないため、研究科設置に際し学部を兼ねる教員にあつては大多喜と東京に、また研究科専任教員にあつては東京校舎に1人あたり2室の研究室を確保する等により教育研究環境の質を維持している。

(資料10 看護学研究科看護学専攻時間割、2校地で教育を行う教員別の時間割)

(資料11 看護学研究科看護学専攻専用講義室及び大学院生研究室レイアウト)

設備の整備計画については、これまで看護学部看護学科で使用してきた機械・器具等1,793点、標本101点を有効的に転用するとともに、看護学研究科看護学専攻（修士課程）の学生人数を踏まえた授業科目や授業形態を実施するために新たな設備として、研究科院生室に校具40点（机・椅子・書架など）、備品11点（PC・複合機等）を整備することとしている。

### 3) 図書等の整備計画

看護学研究科の設置計画に伴う図書等の整備計画は、これまで看護学部看護学科において整備してきた専門図書14,456冊を有効に共用するとともに、大学院における看護分野の研究を行うために必要となる図書等の整備計画として専門図書381点、電子ジャーナル11点を計画的に整備することとしている。

(資料12 購入予定図書)

## 8. 既設学部との関係

研究科は看護学部を基礎としている。なかでも、『アドベンチストの信仰と生活』は看護学専攻の「キリスト教人間学」および「スピリチュアルケア特論」に集約され、学部の『健康と環境』および『地域看護学領域』は看護学専攻の「保健医療福祉連携特論」に集約される。学部の『看護の発展科目』から看護学専攻「スピリチュアルケア特論」、「看護教育学特論」「感染看護学特論」に、『小児看護学領域』から「成育看護学特論」に、『成人看護学領域』から「成人看護学特論」に、『老年看護学領域』から「高齢者看護学特論」に、『精神看護学領域』および『地域看護学領域』から「地域看護学特論」に集約される。

(資料13 看護学部と看護学研究科との関連図)

## 9. 入学者選抜の概要

### 1) 入学者受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)

三育学院大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）は、ディプロマ・ポリシーで掲げている指導的役割を果たせる高度看護実践者、教育者・研究者を育成するために、次の能力や態度、資質を備えた入学者を求める。

1. ホリスティック・ナーシング（全人的回復をめざす看護）の実践に関心と学習意欲のある者
2. 看護実践能力の向上に関心と学習意欲のある者
3. 看護教育能力の向上に関心と学習意欲のある者
4. 看護研究能力の修得に学習意欲のある者
5. 看護学の基礎的知識を有する者

## 2) 入学者選抜方法

本研究科は、入学者受入方針を踏まえ、入学者を一般入学試験及び学内推薦入学試験により選抜する。詳細は以下の通りである。

### (1) 出願資格

#### [一般入学試験]

下記のいずれかに該当し、看護師の資格を取得又は、取得見込みの者

- ① 学校教育法に定める大学を卒業した者及び入学年度の前年度末に卒業見込みの者
- ② 学校教育法の規定により学士の学位を授与された者及び入学年度の前年度3月までに授与される見込みの者
- ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び入学年度の前年度3月までに修了見込みの者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目をわが国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び入学年度の前年度3月までに修了見込みの者
- ⑤ わが国において、外国の大学の課程（その修了者か当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされる者に限る）有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び入学年度の前年度3月までに修了見込みの者
- ⑥ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び入学年度の前年度3月までに修了見込みの者
- ⑦ 文部科学大臣の指定した者
- ⑧ 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、入学時（4月1日現在）に22歳に達している者

#### [学内推薦入学試験]

- ① 三育学院大学を入学年度の前年度3月までに卒業見込みの者で、学業成績及び人物ともに優れ、出願に先立って当該学部より推薦され、研究科教授会が出願を認めた者
- ② 本学を卒業後、3年以上経た者で、研究意欲及び人物ともに優れ、出願に先立って学部より推薦され、研究科教授会が出願を認めた者

## (2) 入学者選抜の方法

三育学院大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）は、ディプロマ・ポリシーで掲げている高度看護実践者、教育者・研究者を育成するために、先述のアドミッション・ポリシーに則り選抜する。

### 〔一般入学試験〕

専門科目（志望する分野の特論科目1科目、出願時に選択）、面接（研究計画に基づく口頭試問）を総合的に判定する。

### 〔学内推薦入学試験〕

面接は、アドミッション・ポリシーに則り、研究計画に基づく口頭試問により判定する。

## (3) 入学時期及び入学者選抜の実施時期

- ① 入学時期：4月（開設時：令和2年4月）
- ② 選抜時期：9月及び2月（令和元年入試は12月及び令和2年2月を予定）
- ③ 選抜体制

本研究科の入試区分ごとの募集人数、選抜方法、試験日程、入学試験実施体制については、入試に関する基本事項を審議する研究科教授会で決定する。入学者の合否判定は、看護学研究科開設後は看護学研究科においてこれを行うこととなるが、研究科教授会が設置されていない2019（令和元年）年入試に限り、運営委員会の下に置かれている看護学研究科の設置準備委員会が行う。同委員会は、学長、研究科長予定者及び研究科予定教員若干名より構成される。

## 10. 大学院設置基準第14条による教育方法の実施

本大学院では、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例、すなわち、昼夜開講制を実施する。今回設置する看護学研究科は、学部からの進学者のほか、現職からの看護職者の入学を想定している。修了後、それぞれの職場に戻り、実践現場で指導的な役割を担うことが期待される。そのため、勤務を継続しながら学修できるよう配慮する。具体的には、看護学研究科の教室及び大学院生用の自習室等を配置するとともに、授業時間帯を工夫するなどにより、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例により、社会人の受け入れ、教育及び学生の学修に支障が生じないように運営する。

### 1) 修業年限

三育学院大学大学院学則第6条に定めるとおり、標準修業年限は2年以上とする。

## 11. 管理運営

本学大学院における管理運営体制については、三育学院大学大学院学則第10条「本学大学院看護学研究科を運営するため、看護学研究科教授会を置く。」旨を規定している。また、研究科教

授会における審議事項は同第10条第2項において、「研究教育に関する専門的な観点から審議し、意見を述べるものとする」にあるように、研究科の管理運営に関わる下部組織としての「教学委員会」に関する事項（第4章）、「研究科の教育方法及び授業科目の履修方法等」に関する事項（第6章）、「課程の修了及び学位の授与」に関する事項（第7章）、「入学・休学・復学・退学及び除籍等」に関する事項（第8章）、「科目等履修生、研究生」に関する事項（第10章）を含むものである。「その他学長が必要と認める事項」と規定しており、審議を行うために月1回程度の割合で研究科教授会を開催することとなっている。（目次8 学則、担当教員の任用に関する事項（第3章）については別に定めるとする）

## 12. 自己点検・評価

大学の教育研究活動を含めた全般にわたる活動および自己点検・評価の結果を正確に開示することは、大学の質の保証および大学の質の維持向上という責任を果たすために重要である。また、本学も社会において教育研究活動の成果を社会に提供する公的役割を担っている。

看護学研究科についても、大学全体の実施体制に組み込み、自己点検・評価委員会において既設の学部と同様の実施方法により自己点検・評価を行う。

### 1) 基本方針・目的

本学では、教育研究活動の状況を点検・評価する自己点検・評価を促進していくことが重要であることを踏まえ、「自己点検・評価委員会規程」に基づき自己点検・評価委員会を設置し、点検・評価を実施している。自己点検・評価結果は、教育研究活動並びに管理運営の向上に活用する。

### 2) 自己点検・評価の基本項目

自己点検・評価委員会は自己点検の基本方針・目的を踏まえた上で、下記事項を実施する。

- 1-1. 使命・目的及び教育目的の設定に関する項目
- 1-2. 使命・目的及び教育目的の反映に関する項目
- 2-1. 学生の受入れに関する項目
- 2-2. 学修支援に関する項目
- 2-3. キャリア支援に関する項目
- 2-4. 学生サービスに関する項目
- 2-5. 学修環境の整備に関する項目
- 2-6. 学生の意見・要望への対応に関する項目
- 3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定に関する項目

- 3-2. 教育課程及び教授方法に関する項目
- 3-3. 学修成果の点検・評価に関する項目
- 4-1. 教学マネジメントの機能性に関する項目
- 4-2. 教員の配置・職能開発等に関する項目
- 4-3. 職員の研修に関する項目
- 4-4. 研究支援に関する項目
- 5-1. 経営の規律と誠実性に関する項目
- 5-2. 理事会の機能に関する項目
- 5-3. 管理運営の円滑化と相互チェックに関する項目
- 5-4. 財政基盤と収支に関する項目
- 5-5. 会計に関する項目
- 6-1. 内部質保証の組織体制に関する項目
- 6-2. 内部質保証のための自己点検・評価に関する項目
- 6-3. 内部質保証の機能性に関する項目

本学で実施した自己点検・評価の結果はホームページ上に公表し、社会の評価等を受けることにより、継続的な見直しや改善を図っている。本学では平成28年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を再受審し、同機構が定める大学評価基準を満たしているとの評価を受けている。

### 1 3. 情報の公表

#### 1) 実施方法

本学では、教育研究上の目的、また修学上の情報等について大学のホームページや刊行物等で情報を公開している。大学ホームページによる情報の提供は、迅速にまた広く周知するための最も有効な手段の一つである。大学ホームページでは、自己点検・評価の結果を開示し、学生と社会に対し質の保証に努める。また、大学の理念・教育方針をはじめ、第三者認証評価機構の評価結果、紀要、大学の年間スケジュール、学生生活動の状況、地域におけるボランティア活動、国際ボランティア活動、大学が主催する公開講座、入学試験の結果情報などを開示し、大学のホームページを情報提供の手段として積極的に活用する。

掲載するホームページのアドレスは以下の通り。

「[https://www.saniku.ac.jp/about/about\\_05.html](https://www.saniku.ac.jp/about/about_05.html)」

## 2) 実施項目

教育研究活動等の状況については、以下の内容を公表する。

### (1) 学校法人の概要に関すること

- ①建学の精神・教育理念
- ②沿革
- ③設置学校等
- ④役員に関する情報

### (2) 教育研究上の基礎的な情報

- ①学部学科の名称及び教育研究上の目的
- ②教員及び教育条件に関する情報
- ③校地・校舎等の施設・アクセス
- ④授業料・入学金その他大学が徴収する費用
- ⑤公的研究費等の管理・運営に関するガイドライン

### (3) 修学上の情報等

- ①教員組織
- ②履修要項
- ③学修成果及び卒業認定に関する情報
- ④教育課程の編成と実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）
- ⑤学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）
- ⑥学生支援と奨学金に関する情報

### (4) 入学者受入方針及び入学者数、収容定員、卒業・就職者数等

- ①入学者の受入に関する方針（アドミッション・ポリシー）
- ②収容定員及び学生数に関する情報
- ③卒業・進学・就職者数等の情報

## 1 4. 教育内容等の改善のための組織的な研修等

教育内容等の改善目的で、本学では Faculty Development（以降、FD）および Staff Development（以降、SD）を開催している。FDは教員が主体となって、またSDは職員が主体となって企画運営しているが、教職員はFD、SDの両者に参加できる体制をとっている。

FDについては、2017（平成29）年3月、千葉大学看護学部において開催された、看護系大学教員の能力を行動レベルで示した「看護教育におけるFDマザーマップ」をテーマの研修会に、FD委員のメンバー2名が参加し、その後、学内で研修内容を共有し、実習指導に生かされた。学内における研修については、年2回開催（8月と3月）している。具体的には、下記の通りである。

2017（平成29）年度は、第1回目として、8月に、「学生の多様な問題行動とその対応、そして課題」をテーマにグループ討議を中心に展開した。第2回目では、3月に、第1回目の続編として、「学生を通してみた三育教育の強み」をテーマに実施した。

2018（平成30）年度は、第1回目として、8月に、外部講師を招いて「ルーブリック評価と活用について」のテーマで研修会を開催した。第2回目は、3月に、外部講師を招いて「看護現場学—学びの促進のための内省と概念化」をテーマに実施する。

次に、SDについては、不定期に、職員を学外研修に派遣しているとともに、その時の課題に合わせてSD講習会を開催している。2017（平成29）年度は、接遇、学生募集などについて、年4回シリーズで、学内外の講師による研修を開催している。

研究活動の教育的支援については、研究倫理委員長が講師として、年1回、研究倫理の講習会を開催している。

研究活動の経済的支援については、大学から全教員に研究費として基礎研究費を配分し、さらに、応募制で学長裁量経費を用意している。学長裁量経費は、年間200万円を予算化している。

# 要 望 書

平成 31 年 3 月 7 日

三 育 学 院 大 学  
学 長 東 出 克 己 様

東京都第 4 医療圏看護管理者連絡会議

幹事役員 出口 昌子



三育学院大学における大学院看護学研究科の開設について

臨床と基礎教育の連携及び卒後教育の充実を図るため、貴大学に大学院看護学研究科の開設を要望します。

## 記

1. 高度な臨床看護実践能力のある看護職者を育成し地域医療福祉の充実を図る。
2. 近隣の医療施設、福祉施設等における看護実践指導者を育成する。
3. 近隣の医療施設、福祉施設等における教育能力のある看護職者を育成する。
4. 近隣の医療施設、福祉施設等における臨床看護研究を推進し看護の質の向上を図る。
5. 就業看護職者も学業と両立できるよう配慮する。

以上

## 要 望 書

2019年3月1日

三 育 学 院 大 学  
学 長 東 出 克 己 様

医療法人財団 アドベンチスト会 東京衛生病院  
院 長 西 野 俊 宏



宗教法人 神戸アドベンチスト病院  
院 長 森 経 春



宗教法人 アドベンチストメディカルセンター  
院 長 マツモト ノリス ヨシヒコ



### 三育学院大学大学院における看護学研究科の開設について

臨床と基礎教育の協力連携及び卒後教育の充実を図るため、貴大学に大学院看護学研究科の開設を要望します。

#### 記

1. 高度な看護実践能力を有する看護職者を育成し、地域医療の充実を図る。
2. アドベンチスト関連の医療・福祉施設等における看護指導者を育成する。
3. 臨床看護研究を推進し看護の質の向上を図る。

以上

## 近隣病院の看護管理者を対象とした

### 三育学院大学大学院看護学研究科(修士課程)設置に伴う採用ニーズ調査報告

#### 〔調査概要〕

##### (1) 調査目的

近年の医療の高度化、少子超高齢社会の進展などに伴い、従来にも増して看護は専門性の高い知識や技術をもって、人々の健康ニーズに応じた活動が求められている。このような専門化・高度化する看護の役割に対応し、本学では、高度な専門的知識と実践力を有する指導的看護実践者、ならびに優れた教育研究の基礎的能力を有する看護教育・研究者養成するため、平成32年4月に看護学研究科（修士課程）を開設することを計画している。

それに伴い、看護学研究科（修士課程）の学生確保の見通しについて、系列病院と杉並区の近隣病院に勤務する看護管理者を対象に本学修了生の採用に関するアンケート調査を実施し、採用意向等を把握するものである。

##### (2) 調査対象

系列の2病院と杉並区の近隣の7病院に勤務する看護管理者（部長・師長・主任）を対象にアンケート調査を実施した。

##### (3) 調査方法

系列の2病院と杉並区の近隣の7病院に調査票を送付し、任意に回答があった調査票を本学大学院設置準備室において分析・集計を行った。

##### (4) 調査実施時期

平成30年12月～平成31年1月

##### (5) 回収状況

調査票配布数：82件

回収数：51件

有効回答数：51件

##### (6) 回収率・有効回答率

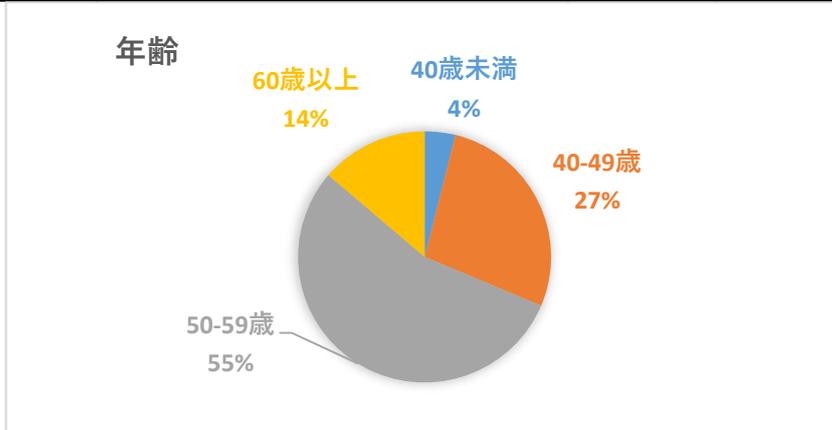
回収率：62.2%

有効回答率：62.2%

系列病院と杉並区内の看護管理者（部長・師長・主任）を対象とした  
 修士課程修了者の採用に関する意向調査結果

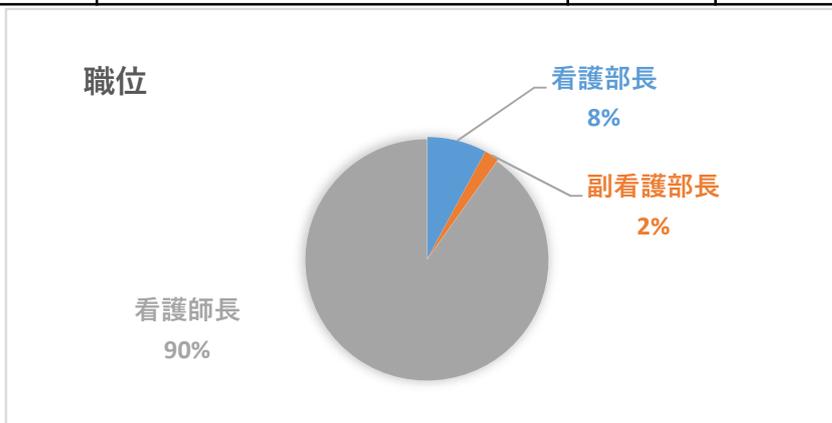
問.1 年齢 N = 51

No.	カテゴリ	件数	%
1	40歳未満	2	3.9%
2	40-49歳	14	27.5%
3	50-59歳	28	54.9%
4	60歳以上	7	13.7%
	無回答	0	0.0%
	合計	51	100.0%



問.2 職位 N = 51

No.	カテゴリ	件数	%
1	看護部長	4	7.8%
2	副看護部長	1	2.0%
3	看護師長	46	90.2%
	合計	51	100.0%



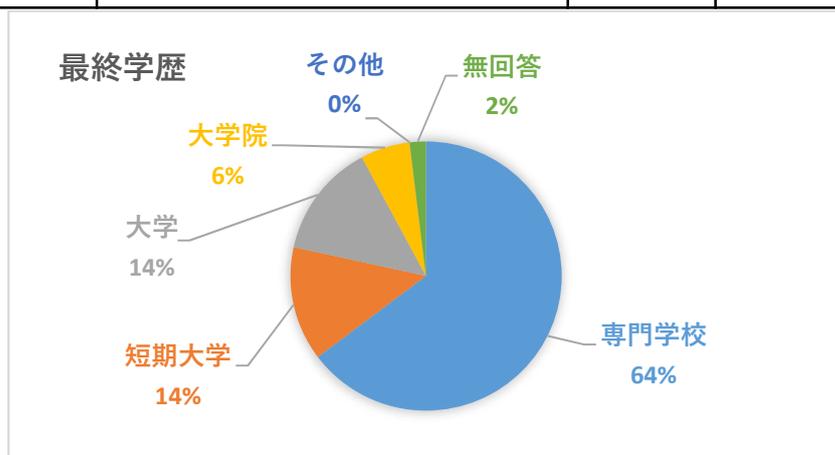
問.3 看護管理者の実務経験年数

平均±標準偏差	:	8.9 ± 6.0
中央値	:	8.0

問.4 最終学歴

N = 51

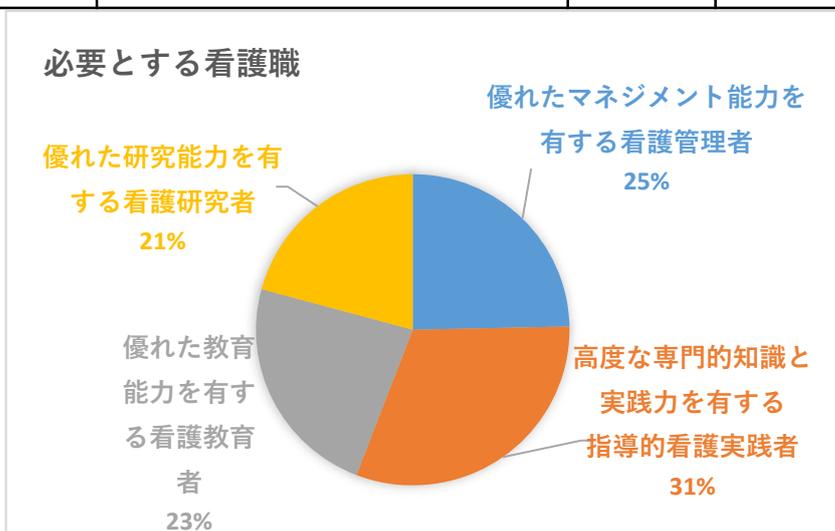
No.	カテゴリ	件数	%
1	専門学校	33	64.7%
2	短期大学	7	13.7%
3	大学	7	13.7%
4	大学院	3	5.9%
5	その他	0	0.0%
	無回答	1	2.0%
	合計	51	100.0%



問.5-1 看護部（病棟）で必要としている看護職

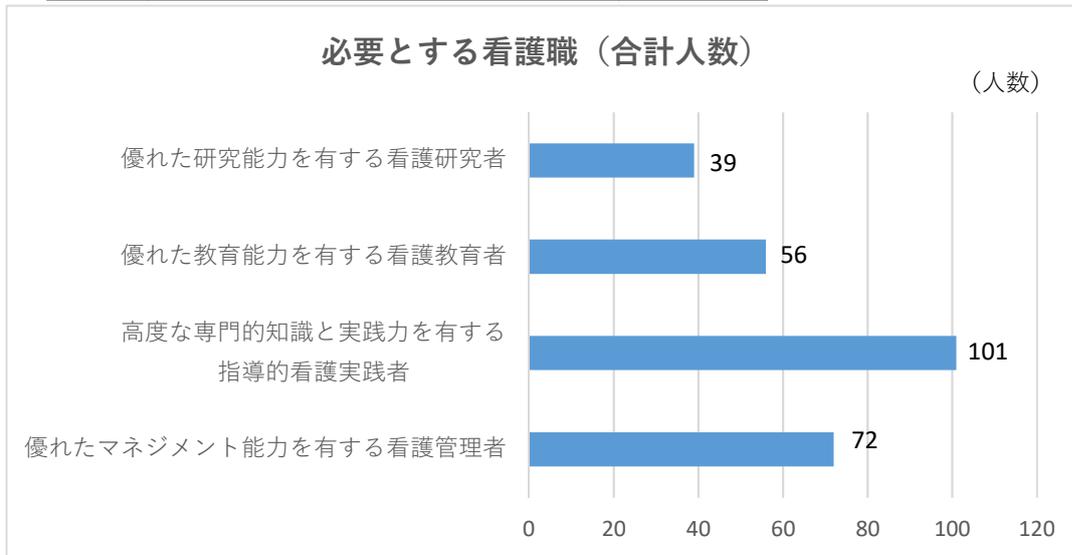
N = 51

No.	カテゴリ	件数	%
1	優れたマネジメント能力を有する看護管理者	38	74.5%
2	高度な専門的知識と実践力を有する指導的看護実践者	48	94.1%
3	優れた教育能力を有する看護教育者	36	70.6%
4	優れた研究能力を有する看護研究者	32	62.7%



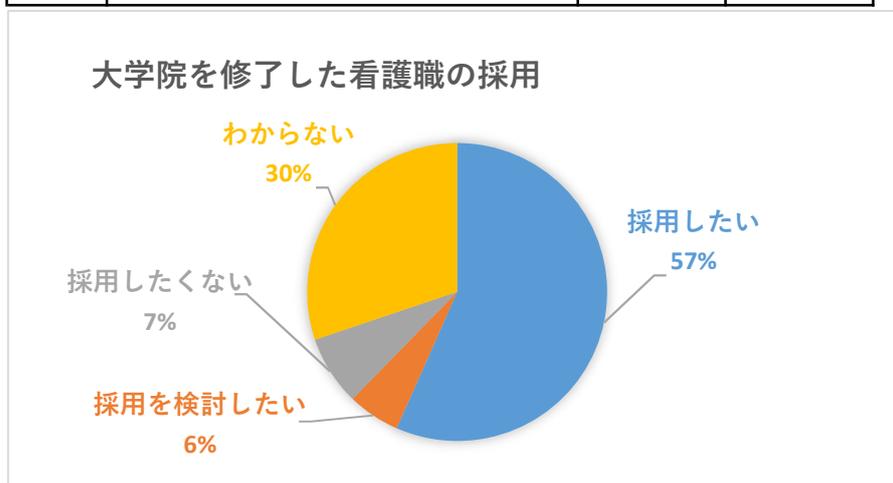
問.5-2 看護部（病棟）で必要としている看護職 カテゴリ別合計人数

No.	カテゴリ	件数
1	優れたマネジメント能力を有する看護管理者	72
2	高度な専門的知識と実践力を有する指導的看護実践者	101
3	優れた教育能力を有する看護教育者	56
4	優れた研究能力を有する看護研究者	39



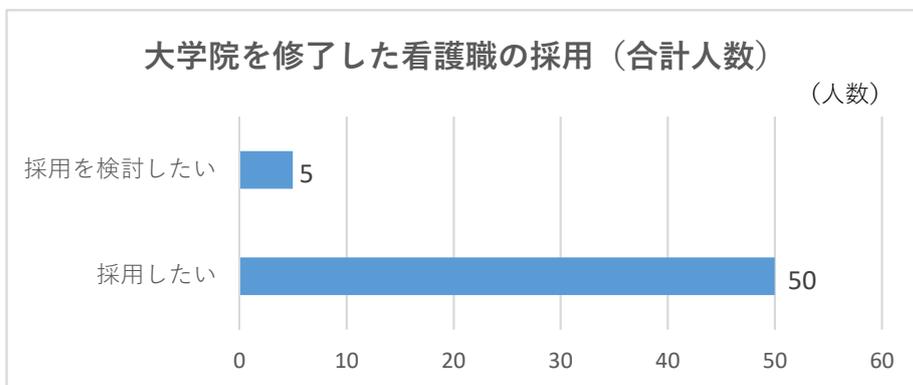
問.6-1 大学院（修士課程）を修了した看護職の採用 N = 51

No.	カテゴリ	件数	%
1	採用したい	30	58.8%
2	採用を検討したい	3	5.9%
3	採用したくない	4	7.8%
4	わからない	16	31.4%



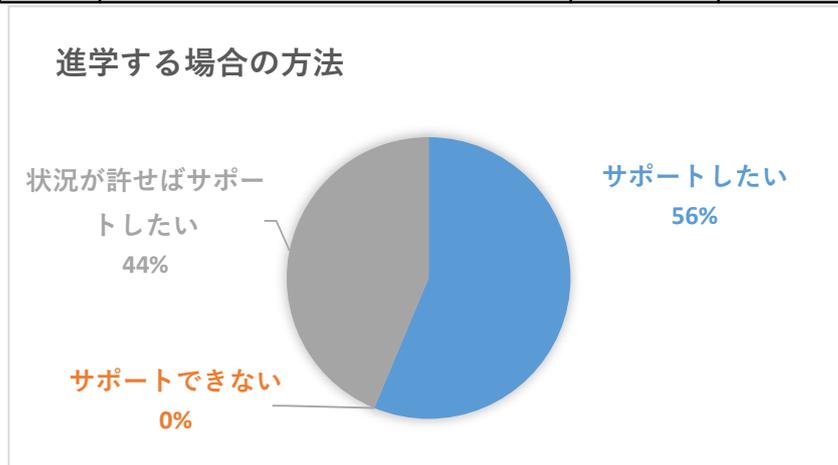
問.6-2 大学院（修士課程）を修了した看護職の採用（カテゴリ別合計人数）

No.	カテゴリ	件数
1	採用したい	50
2	採用を検討したい	5



問.7 スタッフが修士課程に進学した場合のサポート N = 51

No.	カテゴリ	件数	%
1	サポートしたい	27	52.9%
2	サポートできない	0	0.0%
3	状況が許せばサポートしたい	21	41.2%
	無回答	3	5.9%
	合計	51	100.0%



近隣病院に勤務する看護師を対象とした  
三育学院大学大学院看護学研究科(修士課程)設置に伴う進学ニーズ調査報告

〔調査概要〕

(1) 調査目的

近年の医療の高度化、少子超高齢社会の進展などに伴い、従来にも増して看護は専門性の高い知識や技術をもって、人々の健康ニーズに応じた活動が求められている。このような専門化・高度化する看護の役割に対応し、本学では、高度な専門的知識と実践力を有する指導的看護実践者、ならびに優れた教育研究の基礎的能力を有する看護教育・研究者養成するため、平成32年4月に看護学研究科（修士課程）を開設することを計画している。

それに伴い、看護学研究科（修士課程）の学生確保の見通しについて、系列病院と杉並区の近隣病院に勤務する看護師の大学院への進学ニーズに関するアンケート調査を実施し、進学意向を把握するものである。

(2) 調査対象

系列の2病院と杉並区の近隣の7病院に勤務する看護師を対象にアンケート調査を実施した。

(3) 調査方法

系列の2病院と杉並区の近隣の7病院に調査票を送付し、任意に回答があった調査票を本学大学院設置準備室において分析・集計を行った。

(4) 調査実施時期

平成30年12月～平成31年1月

(5) 回収状況

調査票配布数：495件

回収数：240件

有効回答数：238件

(6) 回収率・有効回答率

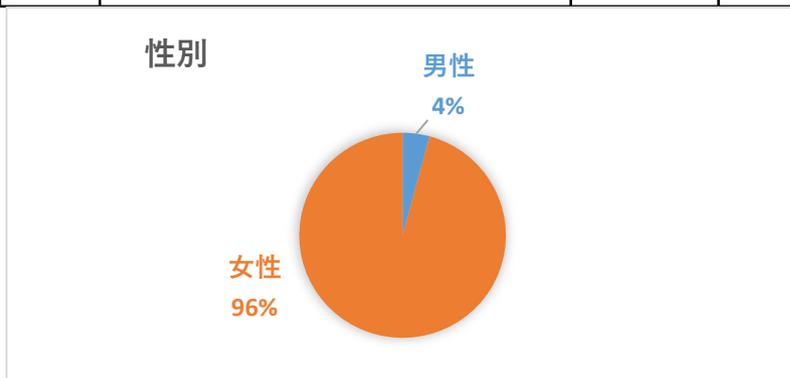
回収率：48.5%

有効回答率：48.1%

系列病院と杉並区内の近隣病院に勤務する看護師の進学意向調査結果

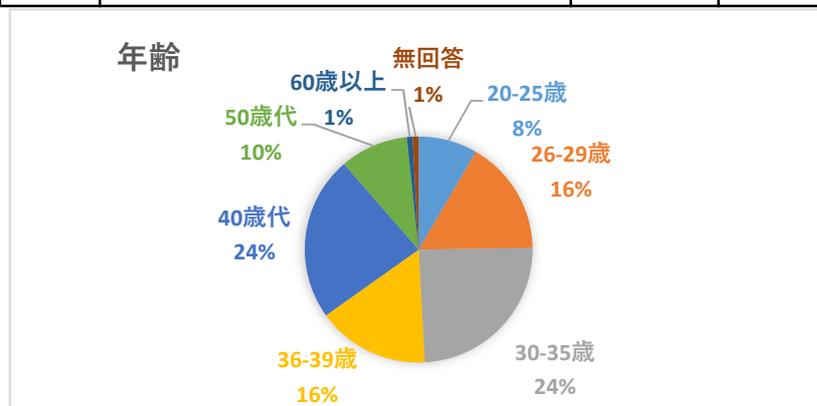
問.1 性別 N = 238

No.	カテゴリ	件数	%
1	男性	10	4.2%
2	女性	228	95.8%
	無回答	0	0.0%
	合計	238	100.0%



問.2 年齢 N = 238

No.	カテゴリ	件数	%
1	20-25歳	20	8.4%
2	26-29歳	39	16.4%
3	30-35歳	58	24.4%
4	36-39歳	38	16.0%
5	40歳代	56	23.5%
6	50歳代	23	9.7%
7	60歳以上	2	0.8%
	無回答	2	0.8%
	合計	238	100.0%



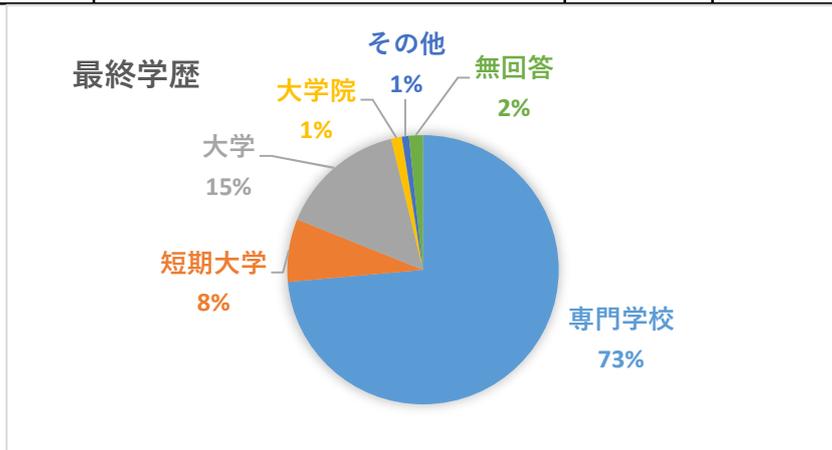
問.3 看護職の経験年数

平均±標準偏差	:	13.2 ± 8.4
中央値	:	12

問.4 最終学歴

N = 238

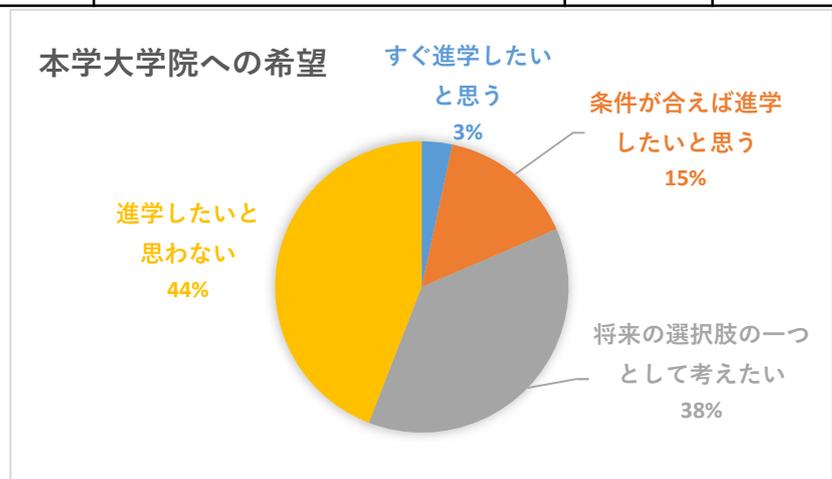
No.	カテゴリ	件数	%
1	専門学校	175	73.5%
2	短期大学	18	7.6%
3	大学	36	15.1%
4	大学院	3	1.3%
5	その他	2	0.8%
	無回答	4	1.7%
	合計	238	100.0%



問.5 本学の修士課程への進学希望

N = 238

No.	カテゴリ	件数	%
1	すぐ進学したいと思う	8	3.4%
2	条件が合えば進学したいと思う	36	15.1%
3	将来の選択肢の一つとして考えたい	89	37.4%
4	進学したいと思わない	105	44.1%
	無回答	0	0.0%
	合計	238	100.0%

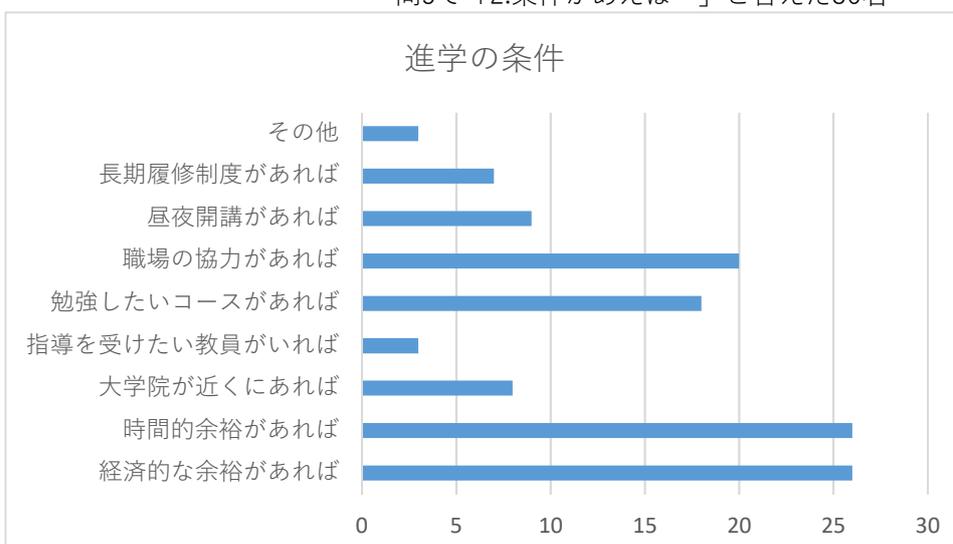


問.6 進学の条件

N=36 (複数回答)

No.	カテゴリ	件数	%
1	経済的な余裕があれば	26	72.2%
2	時間的余裕があれば	26	72.2%
3	大学院が近くにあれば	8	22.2%
4	指導を受けたい教員がいれば	3	8.3%
5	勉強したいコースがあれば	18	50.0%
6	職場の協力があれば	20	55.6%
7	昼夜開講があれば	9	25.0%
8	長期履修制度があれば	7	19.4%
9	その他	3	8.3%

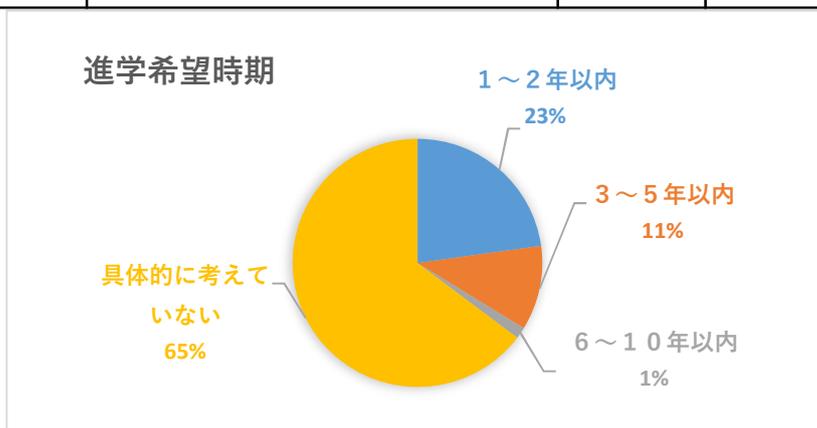
問5で「2.条件があれば…」と答えた36名



問.7 進学希望時期

N = 136

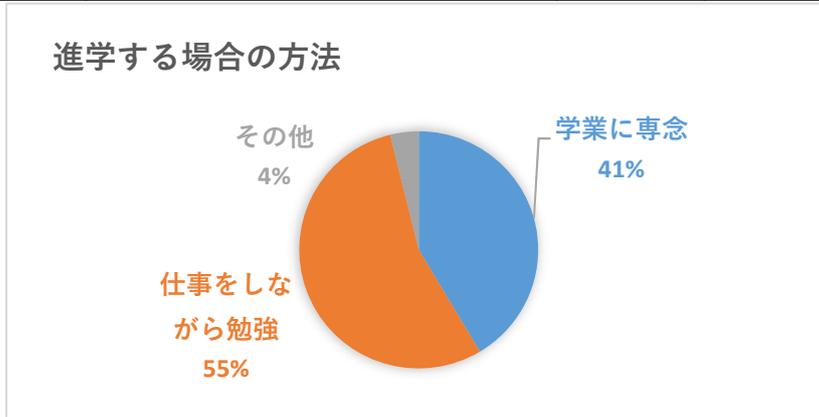
No.	カテゴリ	件数	%
1	1～2年以内	31	22.8%
2	3～5年以内	15	11.0%
3	6～10年以内	2	1.5%
4	具体的に考えていない	88	64.7%
	合計	136	100.0%



問.8 大学院に進学する場合の方法

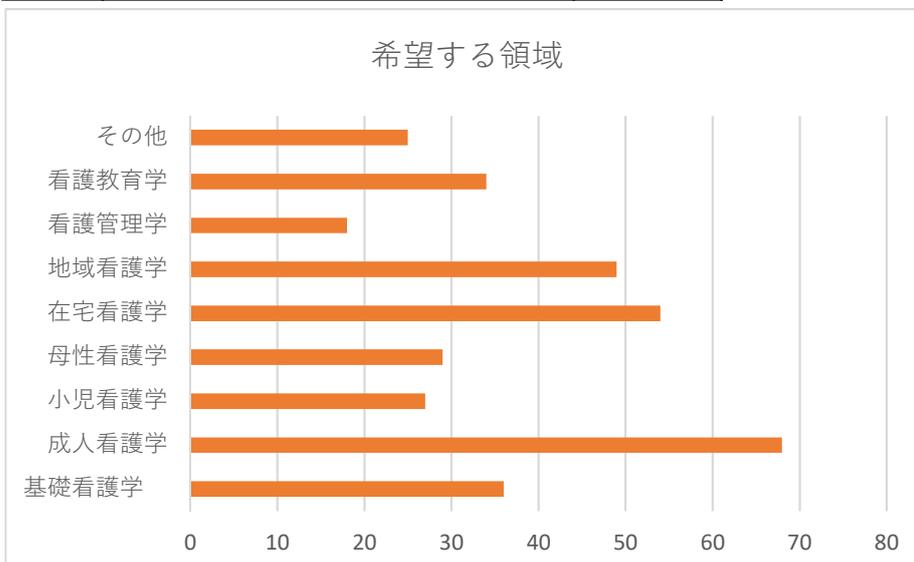
N = 181

No.	カテゴリ	件数	%
1	学業に専念	75	41.4%
2	仕事をしながら勉強	99	54.7%
3	その他	7	3.9%
	合計	181	100.0%



問.9 希望する領域 (複数回答)

No.	カテゴリ	件数
1	基礎看護学	36
2	成人看護学	68
3	小児看護学	27
4	母性看護学	29
5	在宅看護学	54
6	地域看護学	49
7	看護管理学	18
8	看護教育学	34
9	その他	25



本学卒業生を対象とした

三育学院大学大学院看護学研究科(修士課程)設置に伴う進学ニーズ調査報告

〔調査概要〕

(1) 調査目的

近年の医療の高度化、少子超高齢社会の進展などに伴い、従来にも増して看護は専門性の高い知識や技術をもって、人々の健康ニーズに応じた活動が求められている。このような専門化・高度化する看護の役割に対応し、本学では、高度な専門的知識と実践力を有する指導的看護実践者、ならびに優れた教育研究の基礎的能力を有する看護教育・研究者養成するため、平成32年4月に看護学研究科（修士課程）を開設することを計画している。

それに伴い、看護学研究科（修士課程）の学生確保の見通しについて、本学卒業生の大学院への進学ニーズに関するアンケート調査を実施し、進学意向を把握するものである。

(2) 調査対象

平成元年度～平成21年度 三育学院短期大学看護学科卒業生、および平成23年度～平成29年度 三育学院大学看護学部看護学科卒業生を対象にアンケート調査を実施した。

(3) 調査方法

平成元年度～平成21年度 三育学院短期大学看護学科卒業生、および平成23年度～平成29年度 三育学院大学看護学部看護学科卒業生へ調査票を直接発送し、任意に回答があった調査票を本学大学院設置準備室において分析・集計を行った。

(4) 調査実施時期

平成30年12月～平成31年1月

(5) 回収状況

調査票配布数：320件

回収数：98件

有効回答数：98件

(6) 回収率・有効回答率

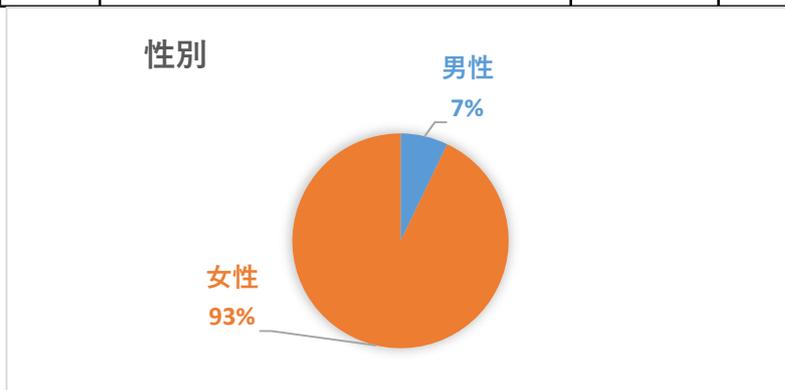
回収率：30.6%

有効回答率：30.6%

## 本学卒業生の看護学研究科への進学意向調査結果

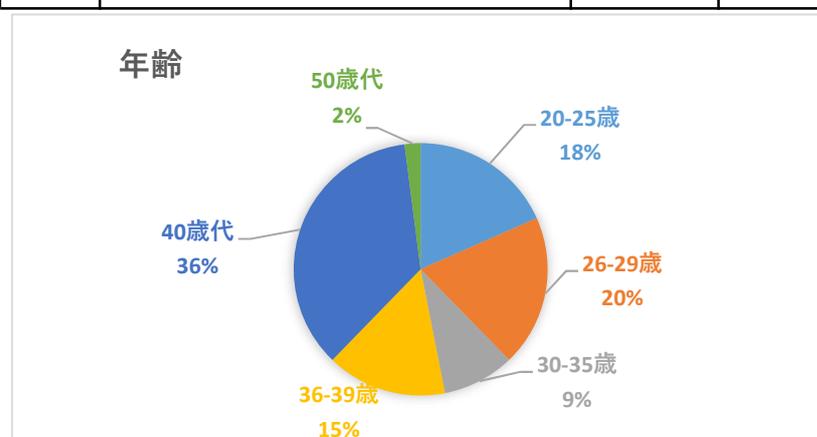
問.1 性別 N = 98

No.	カテゴリ	件数	%
1	男性	7	7.1%
2	女性	91	92.9%
	無回答	0	0.0%
	合計	98	100.0%



問.2 年齢 N = 98

No.	カテゴリ	件数	%
1	20-25歳	18	18.4%
2	26-29歳	19	19.4%
3	30-35歳	9	9.2%
4	36-39歳	15	15.3%
5	40歳代	35	35.7%
6	50歳代	2	2.0%
7	60歳以上	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	98	100.0%



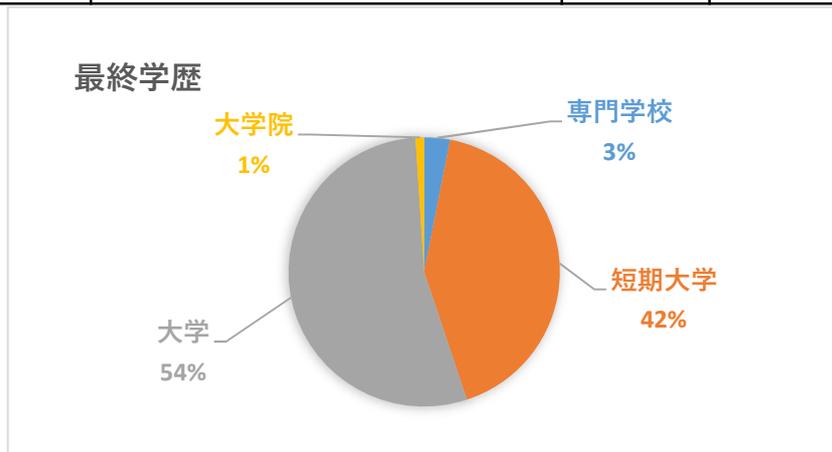
問.3 看護職の経験年数

平均±標準偏差	:	11.2 ± 7.7
中央値	:	10

問.4 最終学歴

N = 98

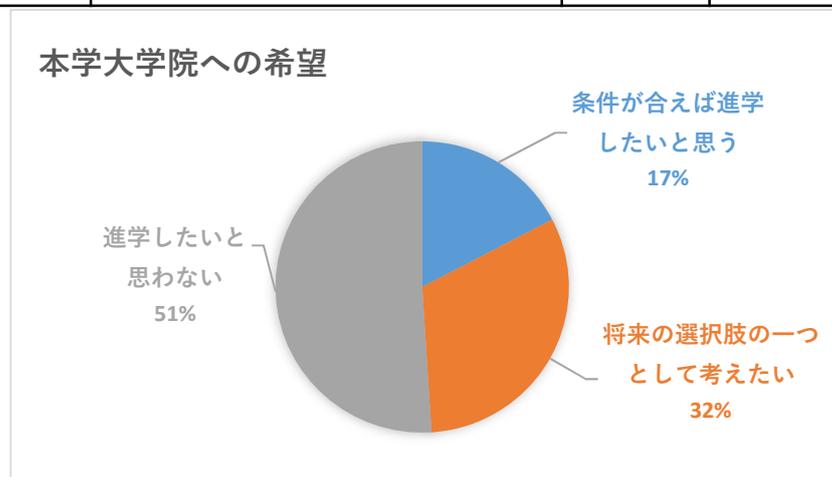
No.	カテゴリ	件数	%
1	専門学校	3	3.1%
2	短期大学	41	41.8%
3	大学	53	54.1%
4	大学院	1	1.0%
5	その他	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	98	100.0%



問.5 本学の修士課程への進学希望

N = 98

No.	カテゴリ	件数	%
1	すぐ進学したいと思う	0	0.0%
2	条件が合えば進学したいと思う	17	17.3%
3	将来の選択肢の一つとして考えたい	31	31.6%
4	進学したいと思わない	50	51.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	98	100.0%

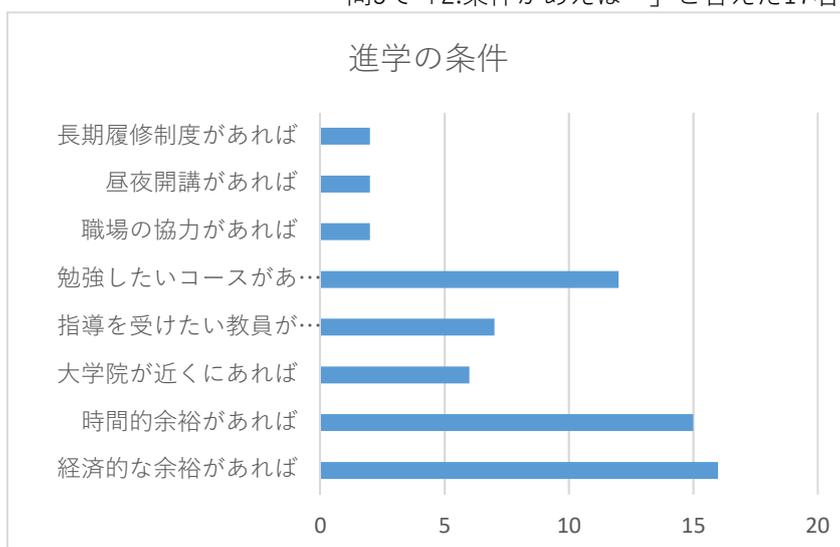


問.6 進学の条件

N=17 (複数回答)

No.	カテゴリ	件数	%
1	経済的な余裕があれば	16	94.1%
2	時間的余裕があれば	15	88.2%
3	大学院が近くにあれば	6	35.3%
4	指導を受けたい教員がいれば	7	41.2%
5	勉強したいコースがあれば	12	70.6%
6	職場の協力があれば	2	11.8%
7	昼夜開講があれば	2	11.8%
8	長期履修制度があれば	2	11.8%
9	その他	0	0.0%

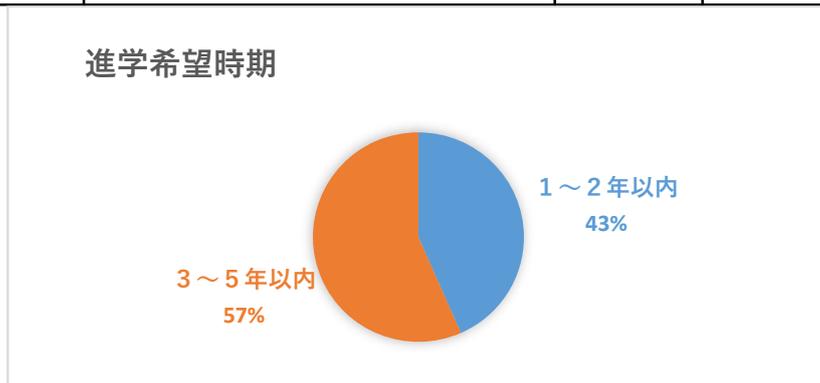
問5で「2.条件があれば…」と答えた17名



問.7 進学希望時期

N = 76

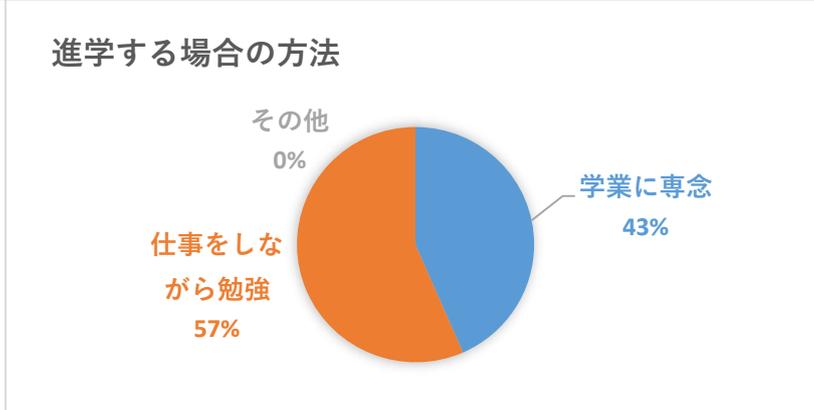
No.	カテゴリ	件数	%
1	1～2年以内	33	43.4%
2	3～5年以内	43	56.6%
3	6～10年以内	0	0.0%
4	具体的に考えていない	0	0.0%
	合計	76	100.0%



問.8 大学院に進学する場合の方法

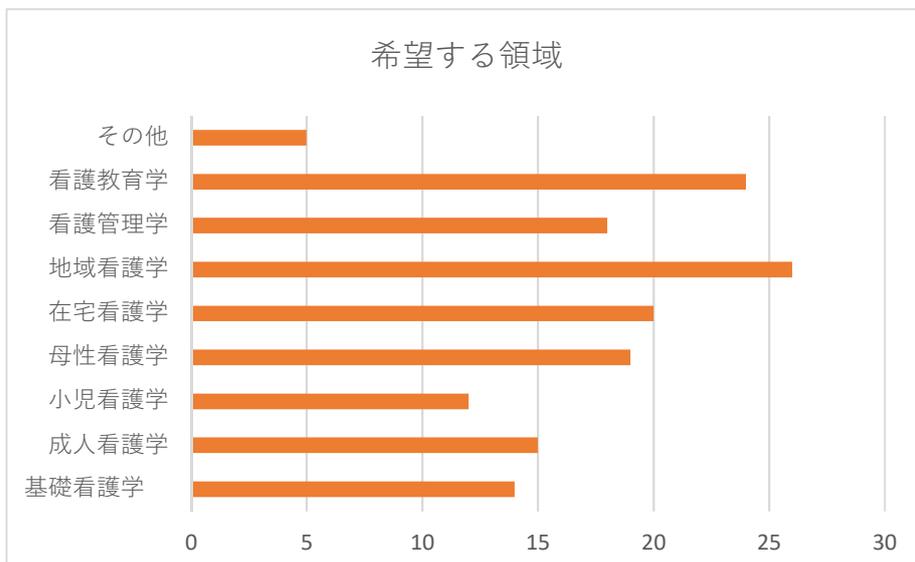
N = 76

No.	カテゴリ	件数	%
1	学業に専念	33	43.4%
2	仕事をしながら勉強	43	23.8%
3	その他	0	0.0%
	合計	76	42.0%



問.9 希望する領域 (複数回答)

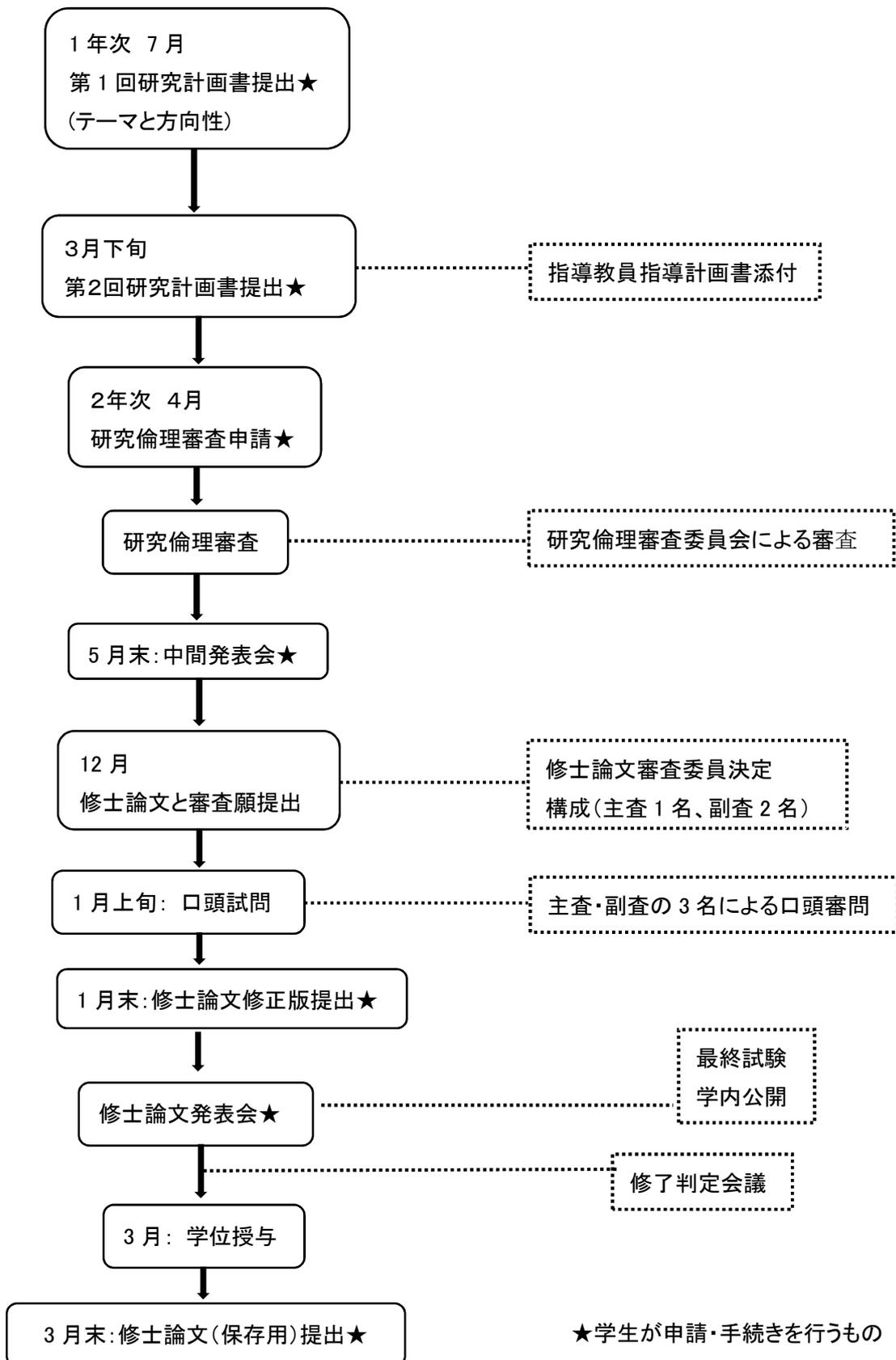
No.	カテゴリ	件数
1	基礎看護学	14
2	成人看護学	15
3	小児看護学	12
4	母性看護学	19
5	在宅看護学	20
6	地域看護学	26
7	看護管理学	18
8	看護教育学	24
9	その他	5



## 履修指導・研究指導計画

科目の履修指導計画		年 期	月/日	特別研究の指導計画
共通科目	専門科目			
指導教員と相談して履修科目を決定 		1 年 前 期	<入学>	(入学時オリエンテーション)
			4月	修士論文作成・審査までのプロセスの説明
		1 年 後 期	6月	研究計画書作成に関する説明
			7月	第1回研究計画書提出(テーマと方向性)
		1 年 後 期	10月	文献検討、研究課題の焦点化
			3月下旬	第2回研究計画書提出 (指導教員指導計画書添付)
		2 年 前 期	4月	(2年次オリエンテーション)
			5月末 6月	修士論文作成に関する説明 倫理審査 中間発表会 データ収集・分析
		2 年 後 期	10月	論文作成
			12月	修士論文審査委員決定(主査1名、副査2名) 修士論文審査願い、修士論文(審査用)提出
			1月	口頭審問
			1月末	修士論文(本論文)提出
			2月中旬	修士論文発表会
			2月下旬	修了判定会議
			3月初旬 3月末	学位授与式 修士論文(保存用)提出
				<終了>

【修士論文作成・審査までのプロセス】



## 三育学院大学研究倫理審査規程

### (目的)

第1条 この規程は、三育学院大学（以下、本学）において、人を対象として行われる研究に関し、ヘルシンキ宣言（世界医師会）、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」ならびに「看護者の倫理綱領（日本看護協会）」等に基づき、研究が適正に行われるよう必要な事項を定める。

### (申請)

第2条 前条の研究を行おうとする三育学院大学の教職員は、研究倫理審査委員会の審査を受けなければならない。本学での研究倫理審査委員会に申請できる研究は、三育学院大学教職員が研究員に含まれている研究とする。

- 2 前条の研究を行おうとする者は、倫理審査申請書（別紙様式 1-1）、研究計画書（別紙様式 2）および必要時間関係資料を学長に提出し、研究の計画および実施の適否について倫理上の審査を受けることができる。
- 3 申請にあたり、研究者全員が研究倫理講習を受講し、倫理講習会の受講証明書に記載された番号を倫理審査申請書（様式 1-1）に記入する。

### (審査)

第3条 前条の倫理審査申請書および研究計画書が提出された場合、学長は委員会に対し、倫理的および科学的観点から審査するよう諮問しなければならない。

### (委員会の設置)

第4条 前条の規定される審査を行うため、学長は本学に倫理審査委員会（以下、委員会）を設置する。

- 2 委員会の運営については、別に定める。

### (委員会の構成)

第5条 委員会の構成は、次の者に定める。

- ① 本学の教員
- ② 学外の有識者
- ③ 学外の一般の立場を代表する者
- ④ 学長が必要と定める者
- 2 委員は5名以上とする。なお、以下の要件を満たす者を委員の中を含むものとする。
  - ① 医学・医療の専門家等、自然科学の有識者
  - ② 倫理学・法律学の専門家等、人文・社会科学の有識者
- 3 委員は男女両性で構成する。
- 4 委員は、学長が任命する。
- 5 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 6 欠員により新たに委員となった者の任期は前任者の残任期間とする。

### (委員長等)

第6条 委員会に委員長および副委員長を置き、学長が委員の中から委員長を指名し、委員長は委員の中から副委員長を指名する。

- 2 副委員長は委員長を補佐し、委員長が何らかの理由により職務を遂行できない場合、その職務を代行する。

### (臨時委員)

第7条 委員会は、必要と認めるときは、高度な専門知識を有する者を臨時委員として審査に加えることができる。

- 2 前項の委員は、委員会の議を経て、学長が任期を定めて任命する。

(委員会の職務)

第8条 委員会は、学長の諮問を受けて、研究の計画および実施の適否について、倫理的および科学的観点から、研究機関および研究者等の利益相反に関する情報も含めて中立的かつ公正に審査を行う。

(議事)

第9条 委員会は、委員の2分の1以上が出席し、かつ第5条第1項①から1名以上の出席をもって会議を開催する。

2 委員が審査を申請する場合、審査に加わることができない。

3 委員会が必要と認めた場合、申請者の出席を認め、説明または意見を聴取することができる。

(判定)

第10条 審査結果の判定は、出席委員の全員による合意を原則とする。次に掲げる表示のいずれかとなる。

① 承認：倫理上の問題がないもの

② 条件付承認：倫理指針に基本的に反しないが、実施に際し配慮を必要とするもの

③ 不承認：倫理指針に明らかに反するもの

④ 非該当：審査対象に該当しないもの

2 第1項②に該当する場合は、研究計画を修正、または変更した部分について1か月以内に委員会の再審査を受ける。

(迅速審査)

第11条 申請者は、理由を記載した申請書(別紙様式1-1)を提出し、委員長ならびに委員長が指名した数名の委員により、次に掲げる場合に適応される。

① 研究計画の軽微な変更

② 共同研究であり既に主たる研究機関において倫理審査委員会の承認を受けた研究計画の審査

③ 侵襲を伴わない研究であって、介入を行わないものに関する審査

④ 軽微な侵襲を伴うものであって、介入を行わないものに関する審査

⑤ 緊急性を要すると判断された場合

2 迅速審査を行う場合、委員長は数名の委員を招集し、定例委員会を待たずに審査および判定を行う。

3 審査結果の判定は、次に掲げる表示のいずれかとなる。

① 承認

② 条件付承認

③ 不承認

④ 非該当

4 委員長は、迅速審査結果を、次回の倫理審査委員会で報告する。

(判定結果の通知)

第12条 委員長は、審査終了後速やかにその判定結果を倫理審査結果答申書(別紙様式3)により、学長に答申しなければならない。

2 審査の判定結果が第10条②③④のいずれかに該当する場合、委員長は前項の通知書に、その理由等を明記しなければならない。

3 学長は、本条第1項の答申を受けた後、その判定結果を倫理審査結果通知書(別紙様式4)により申請者に通知しなければならない。

4 学長は、審査の判定結果が第10条②③④のいずれかに該当する場合、委員長に対し前項の通知書にその理由等を明記させる。

(再審査)

- 第 13 条 申請者は、前条の通知書に示される審査結果に対し異議のある場合には、理由を添えて再審査を申請することができる。
- 2 前項の再審査を申請する者は、倫理審査結果通知書を受領した日の翌日から 14 日以内に、再審査を申請しなければならない。
- 3 審査の判定結果が第 10 条②に該当し修正案が提出された場合、および前項の申請書が提出された場合は、再審査申請書（別紙様式 1-2）を学長に提出する。
- 4 第 2 項および第 3 項により、再審査申請書が提出された場合、学長は改めて審査の手続きをとる。

(審査記録の保管)

- 第 14 条 研究者は、審査の経過および判定結果の記録を、研究の終了または中止日の翌日から 5 年間保存しなければならない。
- 2 侵襲（軽微な侵襲を除く）を伴う研究であって介入を行うものを実施する場合は、少なくとも、当該研究の終了について報告された日から 5 年を経過した日または当該研究の結果の最終公表について報告された日から 3 年間のいずれか遅い日までの期間、保管しなければならない。

(審査の公表)

- 第 15 条 学長は委員会の開催状況および審査の概要について公表できる。ただし、委員会の判断により、研究の対象者等の人権保護を必要とする内容は非公開とすることができる。

(研究計画の変更)

- 第 16 条 倫理審査申請書または再審査申請書を提出した後に研究の実施計画を変更しなければならない場合は、速やかに研究計画変更届（別紙様式 5）を学長に届けなければならない。
- 2 前項の申請があった場合、学長は改めて審査の手続きをとる。

(研究者の責務)

- 第 17 条 研究者は、第 2 条に規定される研究計画書を作成するにあたり、試料や情報の提供者に予想される影響および危険性に鑑み、提供者等に対する不利益を防止するため、研究の必要性等を十分考慮しなければならない。
- 2 研究者は、試料および情報の提供者の人権が守られるよう、事前に十分な説明を行い、提供者の自由意思に基づくものであることを確認できる文書による同意を得たうえで、試料および情報の提供を受ける。
- 3 研究者は、研究期間中、毎年 3 月 31 日および委員会の指定する回数による研究の進捗状況に関する報告書（別紙様式 6）を作成し、学長に報告しなければならない。
- 4 研究者は、研究を終了したとき、研究の対象者が識別されないよう措置を講じた上で、当該研究の結果を公表しなければならない。
- 5 研究者は、研究を終了した場合、速やかに研究終了報告書（別紙様式 7）を学長に届け出なければならない。
- 6 研究を実施中に万が一重篤な有害事象が発生した場合、研究者は有害事象を最小限に留めるため速やかに対応しなければならない。また、重篤な有害事象発生時の報告書（別紙様式 8）を学長に届け出なければならない。

(遵守義務)

- 第 18 条 委員会の委員および研究者は、職務上知り得た個人情報を正当な理由なく他者に漏えいして

はならない。研究が終了した後、または研究を中止した後も同様とする。

(雑則)

第 19 条 この規程に定めるものの他、倫理審査の実施にあたり必要な事項は、委員会が別に定め、学長の承認を得るものとする。

(規程の改定)

第 20 条 この規程を改定しようとする場合は、委員会の議を経て、教授会で決定する。

附則

この規程は、2008 年 4 月 1 日から施行する。

この規定の改正は、2015 年 10 月 1 日から施行する。

この規定の改正は、2018 年 4 月 1 日から施行する。

## 研究倫理審査手順書

2018年4月1日  
三育学院大学  
研究倫理審査委員会

### [目的]

三育学院大学において、人を対象として行われる研究に関し、「ヘルシンキ宣言（世界医師会）」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」ならびに「看護者の倫理綱領（日本看護協会）」等に基づき、研究が適正に行われるよう研究倫理審査を実施する。

### [申請]

人を対象とした研究を行おうとする教職員は、研究倫理審査委員会の審査を受けなければならない。本学での研究倫理審査委員会に申請できる研究は、三育学院大学教職員が研究員に含まれている研究とする。人を対象とした研究を行おうとする者は、「倫理審査申請書」、「研究計画書」ほか関係資料を提出し、倫理上の審査を受けることができる。申請にあたり、研究者全員が研究倫理講習を受講し、倫理講習会の受講証明書に記載された番号を倫理審査申請書に記入する。

### [判定]

審査結果の判定は、出席委員の全員による合意を原則とする。次に掲げる表示のいずれかとなる。

- ① **承認**：倫理上の問題がないもの
- ② **条件付承認**：倫理指針に基本的に反しないが、実施に際し配慮を必要とするもの
- ③ **不承認**：倫理指針に明らかに反するもの
- ④ **非該当**：審査対象に該当しないもの

上記②に該当する場合は、研究計画を修正、または変更した部分について1か月以内に委員会の再審査を受ける。

### [迅速審査]

迅速審査については、申請者は理由を記載した申請書を提出し、委員長ならびに委員長が指名した数名の委員により、次に掲げる場合に実施される。

- ① 研究計画の軽微な変更
- ② 共同研究であり既に主たる研究機関において倫理審査委員会の承認を受けた研究計画の審査
- ③ 侵襲を伴わない研究であって、介入を行わないものに関する審査
- ④ 軽微な侵襲を伴うものであって、介入を行わないものに関する審査
- ⑤ 緊急性を要すると判断された場合

迅速審査を行う場合、委員長は数名の委員を招集し、定例委員会を待たずに審査および判定を行う。

### [判定結果の通知]

委員長は、審査終了後速やかにその判定結果を倫理審査結果答申書により、学長に答申する。審査の判定結果が上記の判定②③④のいずれかに該当する場合、その理由等を明記する。学長は答申を受けた後、その判定結果を倫理審査結果通知書により申請者に通知する。承認された場合、申請者は、審査結果通知書に記載された通知日をもって研究を開始することができる。

### **[再審査]**

申請者は、通知書に示される審査結果に対し異議のある場合には、理由を添えて再審査を申請することができる。再審査を申請する者は、倫理審査結果通知書を受領した日の翌日から 14 日以内に、再審査を申請しなければならない。

### **[審査記録の保管]**

研究者は、審査の経過および判定結果の記録を、研究の終了または中止日の翌日から 5 年間保存しなければならない。侵襲（軽微な侵襲を除く）を伴う研究であって介入を行うものを実施する場合は、少なくとも、当該研究の終了について報告された日から 5 年を経過した日または当該研究の結果の最終公表について報告された日から 3 年間のいずれか遅い日までの期間、保管しなければならない。

### **[審査の公表]**

学長は委員会の開催状況および審査の概要について公表できる。ただし、委員会の判断により、研究の対象者等の人権保護を必要とする内容は非公開とすることができる。

### **[研究計画の変更]**

倫理審査申請書または再審査申請書を提出した後に研究の実施計画を変更しなければならない場合は、速やかに研究計画変更届を学長に届けなければならない。

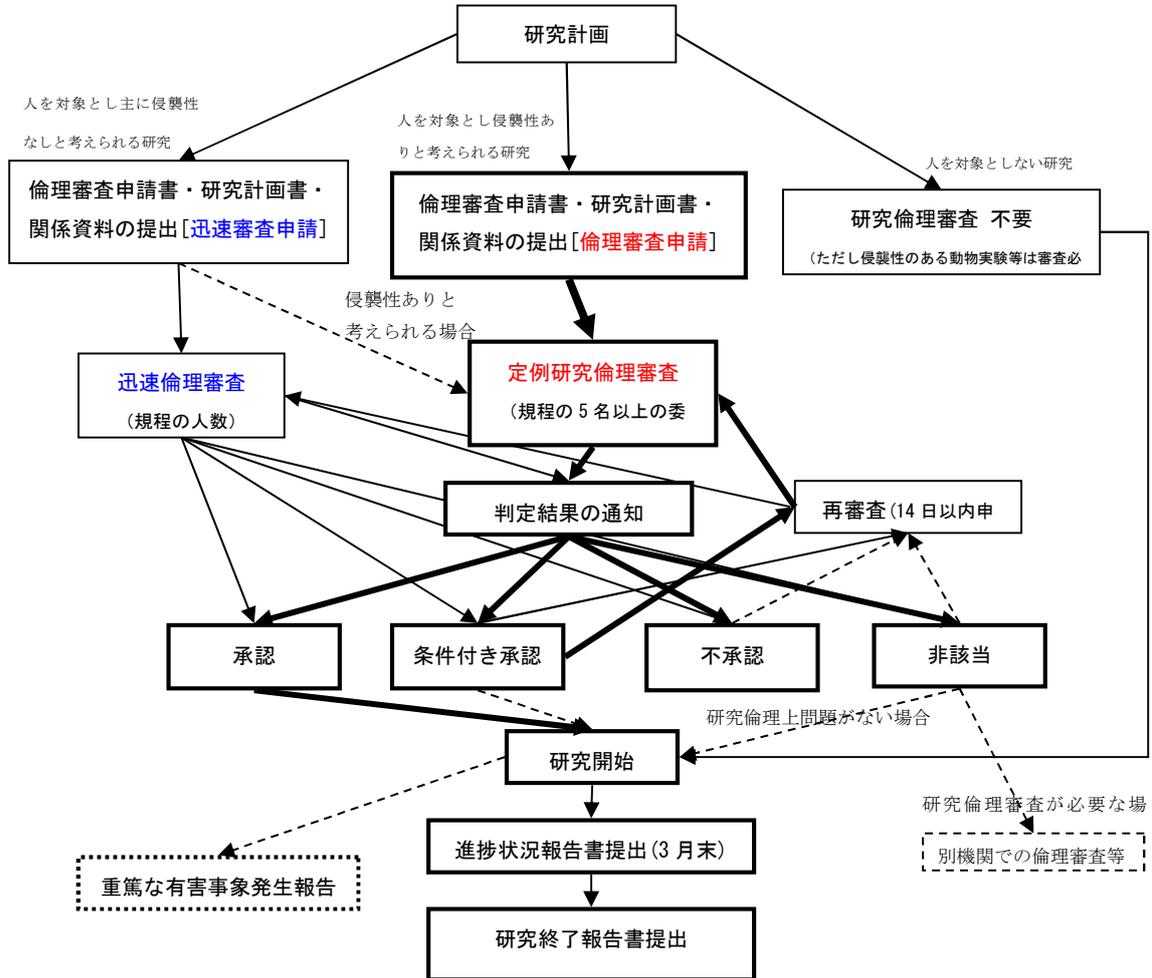
### **[研究者の責務]**

①「進捗状況報告書」：研究者は、研究期間中、毎年 3 月 31 日および委員会の指定する回数による研究の進捗状況に関する報告書を作成し、学長に報告しなければならない。

②「研究終了報告書」：研究者は、研究を終了したとき、研究の対象者が識別されないよう措置を講じた上で、当該研究の結果を公表しなければならない。研究者は、研究を終了した場合、速やかに研究終了報告書を学長に届け出なければならない。

③「重篤な有害事象発生報告書」：研究を実施中に万が一重篤な有害事象が発生した場合、研究者は有害事象を最小限に留めるため速やかに対応しなければならない。また、重篤な有害事象発生の報告書（別紙様式 8）を学長に届け出なければならない。

## 研究倫理審査の手順



# 育成する人材像と3ポリシー

## 目指す人材像

### ◆看護教育者・研究者

各専攻分野の看護学を精深し、臨床経験による実践知をより高度の知識で知見を高め、看護現象にある本質を見出し、課題を研究的に発展させる能力を有する教育者・研究者を育成する。

### ◆指導的看護実践者

実践の場で抱いた問題意識や実践の根拠について、研究的に発展させ、実践と研究が融和する高度の実践能力を有する指導的看護実践者を育成する。

## アドミッションポリシー

- AP①ホリスティック・ナーシング（全人的回復をめざす看護）実践に関心と学習意欲のある者
- AP②看護実践能力の向上に関心と学習意欲のある者
- AP③看護教育能力の向上に関心と学習意欲のある者
- AP④看護研究能力の修得に学習意欲のある者
- AP⑤看護学の基礎的知識を有する者

## ディプロマポリシー

- DP①専攻した専門性において、ホリスティック・ナーシングの視点で理論や最新の知見を論理的・倫理的に看護に活用する能力
- DP②多職種との連携協働を牽引し、看護実践の質向上に指導的役割を果たせる能力
- DP③看護の実践や研究における課題解決に向けて、科学的根拠に基づき多角的に取り組む能力
- DP④看護現象に高い関心を持ち、看護学の発展に寄与する教育・研究能力
- DP⑤高度看護専門職者として、生涯自己研鑽を継続し、社会に貢献する能力

## カリキュラムポリシー

- CP①看護実践・教育・研究にホリスティック・ナーシングの視点を備えた人材を育成するために、共通科目に「キリスト教人間学」、専門科目に「スピリチュアルケア」を置く。
- CP②専攻する看護学の専門性や看護教育能力を高める理論・概念・最新の知見等の基礎的及び高度の知識を修得するために、共通科目及び専門科目に講義として「特論」科目を置く。
- CP③多職種との連携協働に関する基礎知識の学修と多角的にその必要性を理解するために「保健医療福祉連携特論」、また「成育看護学特論」「成人看護学特論」「高齢者看護学特論」「地域看護学特論」科目の学修を通して対象に適した連携協働の在り方や可能性を探究する。
- CP④「基盤看護学演習Ⅰ-AとⅠ-B」「実践看護学演習Ⅰ-AとⅠ-B」を置き、「特論」などの講義科目で学修した知識を活用応用レベルまで深化し、課題解決に取り組む能力を育成する。
- CP⑤研究の基礎的知識「看護研究方法ⅠとⅡ」、研究論文のクリティーク「基盤看護学演習Ⅱ」「実践看護学演習Ⅱ」、研究の一連のプロセスを踏む「特別研究ⅠとⅡ」の科目を置き、研究能力を育成する。
- CP⑥修了後のキャリア・デザインに基づき、各自の専門性に沿って引き続き探究し、社会に貢献することを可能にするために、2つの研究分野と8つの特論科目で構成する。

## キャリアパス

- ◆危機・悲嘆の状態にある患者・家族、高齢者や終末期にある患者への包括的ケアを実施できる高度の実践能力を有し、指導的看護実践者として、医療・福祉施設や訪問ステーション、保健師として行政機関での活躍が期待できる。
- ◆医療現場や生活の場において、急性期、慢性期、回復期にある患者・病者・障がい者とその家族への高度な看護ケアが実践できる、指導的看護実践者として、医療・福祉施設や訪問ステーションでの活躍が期待できる。
- ◆看護学生に対する臨床実習指導、看護師に対する教育的役割を果たす看護師として、また、基礎教育および継続教育を担当する教育者として、医療施設や看護系大学等での活躍が期待できる。
- ◆対象の健康課題を多角的に捉え、看護課題の解決策を探究することを通じて、看護の研究開発に寄与できる素養を備えた研究者として、看護系大学での活躍が期待できるほか、博士課程へ進学し教育研究者としての活躍も期待できる。



人材育成の目標（三育学院大学大学院）			育成する人材像								
<p>本学大学院は、キリスト教精神を基盤とした建学の理念に則り看護学の深奥を究めるために、学術の理論並びに応用を教授研究し、もって人類の保健医療福祉分野に貢献する人材を育成することを目的とする。（三育学院大学大学院学則より）</p> <p>以上を受けて、三育学院大学大学院看護学研究科看護学専攻では、右記の人材育成を目指す。</p>			<p>1) 指導的看護実践者 実践の場で抱いた問題意識や実践の根拠について、研究的に発展させ、実践と研究が融和する高度の実践能力を有する指導的看護実践者を育成する。</p> <p>2) 看護学教育者・研究者 各専攻分野の看護学を精深し、臨床経験による実践知をより高度の知識で知見を高め、看護現象にある本質を見出し、課題を研究的に発展させる能力を有する教育者・研究者を育成する。</p>								
科目名	配当年次単位	修了要件 (計30単位以上)	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	DP ⑤	ディプロマ・ポリシー (DP：学位授与方針)			
共通科目	キリスト教人間学	1前 2【必修】	必修として 計8単位	◎				○	DP① 専攻した専門性において、ホリスティック・ナーシングの視点で理論や最新の知見を論理的・倫理的に看護に活用する能力  DP② 多職種との連携協働を牽引し、看護実践の質向上に指導的役割を果たせる能力  DP③ 看護の実践や研究における課題解決に向けて、科学的根拠に基づき多角的に取り組む能力  DP④ 看護現象に高い関心を持ち、看護学の発展に寄与する教育・研究能力  DP⑤ 高度看護専門職者として、生涯自己研鑽を継続し、社会に貢献する能力		
	保健医療福祉連携特論	1後 2【必修】		○	◎		○	○			
	看護研究方法論Ⅰ (総論)	1前 2【必修】					◎	○			
	看護研究方法論Ⅱ (量的研究・質的研究)	1後 2【必修】					◎	○			
	看護理論	1・2前 2【選択】		共通科目【選択】 から2単位以上選択	◎		○	○		○	
	看護管理学	1・2後 2【選択】			○	◎		○		○	
	実験的行動分析学特論	1・2後 2【選択】			◎	○				○	
専門科目	普遍実践看護学分野	スピリチュアルケア特論	主として専攻する科目の特論、演習ⅠA、演習ⅠBと演習Ⅱの計10単位	又は	主として専攻する特論が含まれる分野以外の講義科目から2単位以上	◎		○	◎	○	
		看護教育学特論				1・2前 2【選択】	◎		○	◎	○
		看護技術特論				1・2前 2【選択】	◎		○	◎	○
		感染看護学特論				1・2前 2【選択】	◎		○	◎	○
		普遍実践看護学演習ⅠA (事例分析)				1前 2【選択】	○	○	◎	○	○
		普遍実践看護学演習ⅠB (フィールドワーク)				1後 2【選択】	○	○	◎	○	○
		普遍実践看護学演習Ⅱ (文献講読)				1通 4【選択】	○		◎	○	○
	特定実践看護学分野	成育看護学特論	1・2前 2【選択】	◎	○	○	◎	○			
		成人看護学特論	1・2前 2【選択】	◎	○	○	◎	○			
		高齢者看護学特論	1・2前 2【選択】	◎	○	○	◎	○			
		地域看護学特論	1・2前 2【選択】	◎	○	○	◎	○			
		特定実践看護学演習ⅠA (事例分析)	1前 2【選択】	○	○	◎	○	○			
		特定実践看護学演習ⅠB (フィールドワーク)	1後 2【選択】	○	○	◎	○	○			
		特定実践看護学演習Ⅱ (文献講読)	1通 4【選択】	○		◎	○	○			
研究科目	特別研究Ⅰ	1通 4【必修】	必修として 計8単位	○		○	◎	○			
	特別研究Ⅱ	2通 4【必修】		○		○	◎	○			

◎：DPに関する能力形成に特に関与、○：DPに関する能力形成に関与

## 看護学研究科看護学専攻（修士課程）履修モデル

## 1. 指導的看護実践者育成のための履修モデル

## 1-1) 指導的看護実践者育成のための履修モデル (1)

修学目的：回復期リハビリテーション病棟に勤務する看護師が、脳血管疾患の成人患者と家族を対象とした包括的リハビリテーション展開上の課題と課題解決のための看護介入を探究する。

研究テーマ「脳血管疾患患者と家族への包括的リハビリテーション看護支援体制に関する研究」

特定実践看護学分野		成人看護学特論					
<履修科目> 共通科目では、必修の4科目に加えて、組織における看護職者の人材育成を図る「看護管理学」を選択する。専門科目では、<特定実践看護学分野>の「成人看護学特論」を専攻し、成人看護学の対象である患者・病者・障がい者と家族を理解するための理論・概念を学修し、急性期、慢性期、回復期（リハビリテーション看護）の各病期に必要な支援について探究する。同時に、「スピリチュアルケア特論」を選択し、障がい者、がん患者、終末期患者を対象としたスピリチュアルケアの諸概念や理論について、事例や最新の知見に基づき体系的に学ぶ。科目（特論）のグループを選択し、文献講読や討論を通して自らの研究テーマの焦点化を行い「特別研究Ⅰ」、「特別研究Ⅱ」の実施につなげる。							
科目区分	授業科目	単位		1年次		2年次	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期
共通科目	キリスト教人間学	2		○			
	保健医療福祉連携特論	2			○		
	看護研究方法論Ⅰ（総論）	2		○			
	看護研究方法論Ⅱ（量的研究・質的研究）	2			○		
	看護管理学		2		○		
専門科目	看護学分野 普遍実践						
	スピリチュアルケア特論		2	○			
	特定実践看護学分野						
	成人看護学特論		2	○			
	特定実践看護学演習ⅠA（事例分析）【成人看護学】		2		○		
	特定実践看護学演習ⅠB（フィールドワーク）【成人看護学】		2	○	○		
	特定実践看護学演習Ⅱ（文献講読）【成人看護学】		4	○			
科目研究	特別研究Ⅰ	4		○	○		
	特別研究Ⅱ	4				○	○
小計		16	14				
計		30単位					
修了後の進路	医療・福祉施設や療養生活の場において、急性期、慢性期、回復期にある患者・病者・障がい者とその家族への包括的リハビリテーション看護実践において、多職種との連携を牽引できる指導的看護実践者としての活躍、さらには、中途障がい者へのスピリチュアルケアにおいても指導的活躍が期待できる。						

1-2) 指導的看護実践者育成のための履修モデル (2)

修学目的：小児病棟に勤務する看護師が、小児がん患者の感染予防のための効果的な看護介入を探索する。

研究テーマ「小児がん患者の感染予防行動の獲得に関する研究」

特定実践看護学分野		成育看護学特論					
<p>&lt;履修科目&gt;</p> <p>共通科目では、必修の4科目に加えて、行動変容の理論の基礎となる「実験的行動分析学特論」を選択する。専門科目では、特定実践看護学分野の「成育看護学特論」を専攻し、子どもと家族の理解のための諸概念や理論について最新の知見に基づき体系的に学修するとともに、「感染看護学特論」を選択し、感染予防対策および感染看護のために必要な知識・技術を学ぶ。「特定看護学演習ⅠA（事例分析）」・「演習ⅠB（フィールドワーク）」・「演習Ⅱ（文献講読）」では、子どもと家族の健康課題とケアについて実践事例を探索する科目（特論）のグループを選択し、文献講読や討論を通して自らの研究テーマの焦点化を行い「特別研究Ⅰ」、「特別研究Ⅱ」の実施につなげる。</p>							
科目区分	授業科目	単位		1年次		2年次	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期
共通科目	キリスト教人間学	2		○			
	保健医療福祉連携特論	2			○		
	看護研究方法論Ⅰ（総論）	2		○			
	看護研究方法論Ⅱ（量的研究・質的研究）	2			○		
	実験的行動分析学特論		2	○			
専門科目	看護学分野 普遍実践		2	○			
	特定実践看護学分野	成育看護学特論		2	○		
		特定実践看護学演習ⅠA（事例分析）【成育看護学】		2	○		
		特定実践看護学演習ⅠB（フィールドワーク）【成育看護学】		2		○	
	特定実践看護学演習Ⅱ（文献講読）【成育看護学】		4	○	○		
科目研究	特別研究Ⅰ	4		○	○		
	特別研究Ⅱ	4				○	○
小計		16	14				
計		30単位					
修了後の進路	子どもと家族の健康課題を多角的に捉え、子どもと家族の発達を支援するための方策を探索することを通じて、実践現場において実践と研究を融合させ、看護ケアの向上に寄与できる素養を備えた看護実践者として、また、後輩育成・指導を担える指導的看護実践者としての活躍が期待できる。						

## 2. 教育者・研究者育成のための履修モデル

### 2-1) 教育者・研究者育成のための履修モデル (1)

修学目的：病院看護部において教育担当を担う看護師が、ラダー段階に応じた教育プログラムを開発・実施できる能力を修得する。

研究テーマ「新人看護師に対する院内教育プログラムの評価に関する研究」

普遍実践看護学分野		看護教育学特論					
<p>&lt;履修科目&gt;</p> <p>共通科目では、必修の4科目に加えて、組織における人材育成を図る「看護管理学」を選択する。専門科目では、普遍実践看護学分野の「看護教育学特論」を専攻し、教育的機能発揮および教育評価のための知識・技術を学修する。同時に、「成人看護学特論」を選択し、成人期の発達上の特徴を反映した教育的支援について探求する。「普遍実践看護学演習ⅠA（事例分析）」、「演習ⅠB（フィールドワーク）」、「演習Ⅱ（文献講読）」では、成人を対象とした授業展開や教育評価に必要な理論・概念の活用を探求する科目（特論）のグループを選択し、文献講読や討論を通して自らの研究テーマの焦点化を行い「特別研究Ⅰ」、「特別研究Ⅱ」の実施につなげる。</p>							
科目区分	授業科目	単位		1年次		2年次	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期
共通科目	キリスト教人間学	2		○			
	保健医療福祉連携特論	2			○		
	看護研究方法論Ⅰ（総論）	2		○			
	看護研究方法論Ⅱ（量的研究・質的研究）	2			○		
	看護管理学		2		○		
専門科目	普遍実践看護学分野	看護教育学特論		2	○		
		普遍実践看護学演習ⅠA（事例分析）【看護教育学】		2	○		
		普遍実践看護学演習ⅠB（フィールドワーク）【看護教育学】		2		○	
		普遍実践看護学演習Ⅱ（文献講読）【看護教育学】		4	○	○	
	看護学分野 特定実践	成人看護学特論		2	○		
科目研究	特別研究Ⅰ	4		○	○		
	特別研究Ⅱ	4				○	○
小計		16	14				
計		30単位					
修了後の進路	<p>医療や福祉施設では、看護学生に対する臨床実習指導、看護師に対する教育的役割を果たす看護師として、または、継続教育として院内教育プログラムの企画運営の担当者として、さらには、看護系大学で基礎教育を担当する教育者としての活躍が期待できる。</p>						

2-2) 教育者・研究者育成のための履修モデル (2)

修学目的：高齢者施設で勤務する看護師が、入所者の誤嚥性肺炎を予防するための効果的な看護技術を探求し、教育力および研究力を高める。

研究テーマ「高齢者の誤嚥予防に有効な食事支援プログラムの開発に関する研究」

普遍実践看護学分野		看護技術特論					
<p>&lt;履修科目&gt;</p> <p>共通科目では、必修の4科目に加えて、看護実践研究の基礎となる「看護理論」を選択する。専門科目では、普遍実践看護学分野の「看護技術特論」を専攻し、学術的な根拠に裏付けられた看護技術の実際を学ぶとともに、「高齢者看護学特論」を選択し、高齢者の生活と健康を包括的に理解する方法を学ぶ。「普遍実践看護学演習ⅠA（事例分析）」・「演習ⅠB（フィールドワーク）」・「演習Ⅱ（文献講読）」では、技術開発や技術教育を支える理論・概念を実践に活用するための科目（特論）のグループを選択し、文献講読や討論を通して自らの研究テーマの焦点化を行い「特別研究Ⅰ」、「特別研究Ⅱ」の実施につなげる。</p>							
科目区分	授業科目	単位		1年次		2年次	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期
共通科目	キリスト教人間学	2		○			
	保健医療福祉連携特論	2			○		
	看護研究方法論Ⅰ（総論）	2		○			
	看護研究方法論Ⅱ（量的研究・質的研究）	2			○		
	看護理論		2		○		
専門科目	普遍実践看護学分野		2	○			
	看護技術特論		2	○			
	普遍実践看護学演習ⅠA（事例分析）【看護技術】		2	○			
	普遍実践看護学演習ⅠB（フィールドワーク）【看護技術】		2		○		
看護学分野	特定実践		4	○	○		
	高齢者看護学特論		2	○			
研究科目	特別研究Ⅰ	4		○	○		
	特別研究Ⅱ	4				○	○
小計		16	14				
計		30単位					
修了後の進路	<p>学術的な根拠に裏付けられた看護技術を実践現場において実践し、看護の研究開発に寄与できる素養を備えた研究者として、また、基礎教育および継続教育における研究指導者としての活躍が期待できる。さらには博士後期課程に進学することで研究者として活躍することも期待できる。</p>						

令和2年度 看護学研究科看護学専攻時間割(案)

前期

	月	火	水	木	金	土
1		看護学演習Ⅱ (文献講読)	看護学演習ⅠA (事例分析)		キリスト教人間学	
2		看護学演習Ⅱ (文献講読)	看護学演習ⅠA (事例分析)		看護研究方法論Ⅰ (総論)	
3			看護理論			
4			「専門科目」特論			
5						
6	看護理論	看護学演習Ⅱ (文献講読)	看護学演習ⅠA (事例分析)	キリスト教人間学		
7	「専門科目」特論	看護学演習Ⅱ (文献講読)	看護学演習ⅠA (事例分析)	看護研究方法論Ⅰ (総論)		

後期

	月	火	水	木	金	土
1		実験的行動分析特論	看護学演習ⅠB (フィールドワーク)		保健医療福祉連携 特論	
2		看護管理学	看護学演習ⅠB (フィールドワーク)		看護研究方法論Ⅱ (量的研究・質的研究)	
3			看護学演習Ⅱ (文献講読)			
4			看護学演習Ⅱ (文献講読)			
5						
6	実験的行動分析特論	看護学演習Ⅱ (文献講読)	看護学演習ⅠB (フィールドワーク)	保健医療福祉連携 特論		
7	看護管理学	看護学演習Ⅱ (文献講読)	看護学演習ⅠB (フィールドワーク)	看護研究方法論Ⅱ (量的研究・質的研究)		

※本学大学院学則より、金曜日の4時限以降と土曜日は授業を行わない。

授業時間	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限
	8:50~10:20	10:30~12:00	12:50~14:20	14:30~16:20	16:10~17:40	17:50~19:20	19:30~21:00

2校地において教育を行う教員の時間割表

1 市川光代 【前期】

□ : 大学院(東京校舎)

■ : 学部(東京校舎)

■ : 学部《大多喜》

	月	火	水	木	金	土			
1	老年看護方法論Ⅱ 15/15	看護学演習Ⅱ (文献講読)					※卒業研究は学生の一部が大多喜キャンパスのため、その場合はスカイプ等使用し遠隔指導。前期ではほぼ終了し、後期は論文執筆の指導。 ※大学院における研究指導では、教員が大多喜キャンパスで授業や会議の場合、スカイプ等の遠隔指導を実施。		
2		看護学演習Ⅱ (文献講読)			基礎学習セミナー 《大多喜》 10/15				
3				老年看護学概論 ◇《大多喜》 8/8					
4			高齢者看護学特論 3/15						
5									
6			看護学演習ⅠA (事例分析)						
7	高齢者看護学特論 3/15		看護学演習ⅠA (事例分析)						
・ 大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・ 大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇ : 8回授業、※ : オムニバス又は共同科目。 ・ 講義科目の担当割合 : 担当授業回数/全授業回数							学部	大学院	
							講義科目	1単位※	4単位※
							演習科目	3単位※	4単位※
							実習科目	2単位※	—
							研究科目	2単位※	4単位※

2校地において教育を行う教員の時間割表

1 市川光代 【後期】

□ : 大学院(東京校舎)      ■ : 学部(東京校舎)      ▣ : 学部《大多喜》

	月	火	水	木	金	土																
1			看護学演習ⅠB (フィールドワーク)		老年看護方法論Ⅰ 15/15		※老年看護学実習は3週間、東京校舎の近隣で実施。教員は助教2名を含む3名体制、オリエンテーションとカンファレンス。 ※卒業研究は学生の一部が大多喜キャンパスのため、その場合はスカイプ等使用し遠隔指導。前期ではほぼ終了し、後期は論文執筆の指導。 ※大学院における研究指導では、教員が大多喜キャンパスで授業や会議の場合、スカイプ等の遠隔指導を実施。															
2			看護学演習ⅠB (フィールドワーク)																			
3																						
4																						
5																						
6		看護学演習Ⅱ (文献講読)																				
7		看護学演習Ⅱ (文献講読)																				
・ 大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・ 大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇ : 8回授業、※ : オムニバス又は共同科目。 ・ 講義科目の担当割合 : 担当授業回数/全授業回数							<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学部</th> <th>大学院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講義科目</td> <td>1単位</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>演習科目</td> <td>2単位※</td> <td>4単位※</td> </tr> <tr> <td>実習科目</td> <td>3単位※</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>研究科目</td> <td>2単位※</td> <td>4単位※</td> </tr> </tbody> </table>		学部	大学院	講義科目	1単位	—	演習科目	2単位※	4単位※	実習科目	3単位※	—	研究科目	2単位※	4単位※
	学部	大学院																				
講義科目	1単位	—																				
演習科目	2単位※	4単位※																				
実習科目	3単位※	—																				
研究科目	2単位※	4単位※																				

【看護学部】		【大学院看護学研究科】	
老年看護学概論(看2)(1単位)◇	前期	高齢者看護学特論(M1・M2)※(2単位)	前期
老年看護方法論Ⅰ(看2)(1単位)	後期	実践看護学演習ⅠA(M1)(2単位)	前期
老年看護方法論Ⅱ(看3)(2単位)	前期	実践看護学演習ⅠB(M1)(2単位)	後期
老年看護学実習(看3)(3単位)※	後期	実践看護学演習Ⅱ(M1)(4単位)	通年
総合看護実習(看4)(2単位)※	後期	特別研究Ⅰ(M1)(4単位)	通年
卒業研究(看4)(4単位)※	通年	特別研究Ⅱ(M2)(4単位)	通年

2校地において教育を行う教員の時間割表

5 後藤佳子 【前期】

□ : 大学院(東京校舎)

■ : 学部(東京校舎)

■ : 学部《大多喜》

	月	火	水	木	金	土			
1		看護学演習Ⅱ (文献講読)			看護技術概論 ◇ 《大多喜》8/8		※基礎看護実習Ⅰでは、東京校舎近郊の施設。全領域が指導に参加する実習であり、統括の役割。 ※卒業研究は学生の一部が大多喜キャンパスのため、その場合はスカイプ等使用し遠隔指導。前期ではほぼ終了し、後期は論文執筆の指導。 ※大学院における研究指導では、教員が大多喜キャンパスで授業や会議の場合、スカイプ等の遠隔指導を実施。		
2		看護学演習Ⅱ (文献講読)		看護学概論 ※ 《大多喜》15/15					
3									
4			看護技術特論 5/15						
5									
6			看護学演習ⅠA (事例分析)						
7	看護技術特論 5/15		看護学演習ⅠA (事例分析)						
・ 大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・ 大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇ : 8回授業、※ : オムニバス又は共同科目。 ・ 講義科目の担当割合 : 担当授業回数/全授業回数							学部	大学院	
							講義科目	2単位※	4単位※
							演習科目	4単位※	8単位※
							実習科目	3単位※	—
							研究科目	2単位※	4単位※

2校地において教育を行う教員の時間割表

5 後藤佳子 【後期】

□ : 大学院(東京校舎)

■ : 学部(東京校舎)

■ : 学部《大多喜》

	月	火	水	木	金	土	
1			看護学演習ⅠB (フィールドワーク)				※基礎看護実習Ⅱでは、東京校舎近郊の施設。全領域が指導に参加する実習であり、統括の役割。 ※卒業研究は学生の一部が大多喜キャンパスのため、その場合はスカイプ等使用し遠隔指導。前期でほぼ終了し、後期は論文執筆の指導。 ※大学院における研究指導では、教員が大多喜キャンパスで授業や会議の場合、スカイプ等の遠隔指導を実施。
2			看護学演習ⅠB (フィールドワーク)		看護教育学◇ 《大多喜》8/8		
3							
4							
5							
6		看護学演習Ⅱ (文献講読)					
7		看護学演習Ⅱ (文献講読)					

- ・ 大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。
- ・ 大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。
- ◇ : 8回授業、※ : オムニバス又は共同科目。
- ・ 講義科目の担当割合 : 担当授業回数/全授業回数

	学部	大学院
講義科目	1単位	—
演習科目	2単位※	8単位※
実習科目	2単位※	—
研究科目	2単位※	4単位※

【看護学部】		【大学院看護学研究科】	
看護学概論(看1)(2単位演習)※11コマ	前期	看護技術特論(M1・M2)※(2単位)	前期
看護技術概論(看1)(1単位)◇	前期	基盤看護学演習ⅠA(M1)(2単位)	前期
基礎看護実習Ⅰ(看1)(1単位)※	前期	基盤看護学演習ⅠB(M1)(2単位)	後期
基礎看護実習Ⅱ(看2)(2単位)※	後期	基盤看護学演習Ⅱ(M1)(4単位)	通年
看護教育学(看4)(1単位)◇	後期	特別研究Ⅰ(M1)(4単位)	通年
総合看護実習(看4)(2単位)※	後期	特別研究Ⅱ(M2)(4単位)	通年
卒業研究(看4)(4単位演習)※	通年		

2校地において教育を行う教員の時間割表

7 篠原清夫 【前期】

□ : 大学院(東京校舎)

■ : 学部(東京校舎)

■ : 学部《大多喜》

	月	火	水	木	金	土		
1	情報科学A:通年 《大多喜》15/15				保健統計演習 ※ 《大多喜》15/30		※卒業研究は、学生が東京キャンパスの場合にはスカイプ等使用し遠隔指導。大多喜キャンパスの学生を受け持つことが多く、その場合は比較的時間をかけて指導できる。	
2	情報科学B:通年 《大多喜》15/15				基礎学習セミナー ※ 《大多喜》10/15			
3			保健医療社会学 ◇ 8/8					
4								
5	社会学 《大多喜》15/15							
6								
7								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。</li> <li>・大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。</li> </ul> <p>◇ : 8回授業、※ : オムニバス又は共同科目。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義科目の担当割合 : 担当授業回数/全授業回数</li> </ul>						学部	大学院	
						講義科目	3単位	—
						演習科目	5単位	—
						実習科目	—	—
						研究科目	2単位※	4単位※

2校地において教育を行う教員の時間割表

7 篠原清夫 【後期】

□ : 大学院(東京校舎)

■ : 学部(東京校舎)

■ : 学部《大多喜》

	月	火	水	木	金	土		
1	情報科学A:通年 《大多喜》15/15		統計学 《大多喜》15/15		保健医療福祉連携 特論 7/15		※卒業研究は、学生が東京キャンパスの場合にはスカイプ等使用し遠隔指導。大多喜キャンパスの学生を受け持つことが多く、その場合は比較的時間をかけて指導できる。	
2	情報科学B:通年 《大多喜》15/15		保健医療福祉論 ※通年 《大多喜》5/15		看護研究方法論Ⅱ (量的・質的研究)8/15			
3								
4								
5								
6				保健医療福祉連携 特論 7/15				
7				看護研究方法論Ⅱ (量的・質的研				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。</li> <li>・ 大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。</li> </ul>						学部	大学院	
◇ : 8回授業、※ : オムニバス又は共同科目。						講義科目	3単位	8単位※
・ 講義科目の担当割合 : 担当授業回数/全授業回数						演習科目	4単位	—
						実習科目	—	—
						研究科目	2単位※	4単位※

【看護学部】		【大学院看護学研究科】	
社会学(看1)(2単位)	前期	保健医療福祉連携特論(M1)※(2単位)	後期
情報科学A(看1)(2単位演習)	通年	看護研究方法論Ⅱ(M1)(2単位)※	後期
情報科学B(看1)(2単位演習)	通年	特別研究Ⅰ(M1)(4単位)	
統計学(看1)(2単位)	後期	特別研究Ⅱ(M2)(4単位)	
保健統計演習(看2)(2単位)※15コマ	前期		
保健医療福祉論(看2)(2単位)※5コマ	通年		
保健医療社会学(看3)(1単位)◇	前期		
卒業研究(看4)(4単位)※	通年		

2校地において教育を行う教員の時間割表

9 鈴木美和 【前期】

□ : 大学院(東京校舎)

■ : 学部(東京校舎)

■ : 学部《大多喜》

	月	火	水	木	金	土		
1		看護学演習Ⅱ (文献講読)					※卒業研究は学生の一部が大多喜キャンパスのため、その場合はスカイプ等使用し遠隔指導。前期でほぼ終了し、後期は論文執筆の指導。 ※大学院における研究指導では、教員が大多喜キャンパスで授業や会議の場合、スカイプ等の遠隔指導を実施。	
2		看護学演習Ⅱ (文献講読)		家族看護学 《大多喜》 8/8				
3								
4			看護教育学特論 15/15					
5								
6			看護学演習ⅠA (事例分析)					
7	看護教育学特論 15/15		看護学演習ⅠA (事例分析)					
・ 大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・ 大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇ : 8回授業、※ : オムニバス又は共同科目。 ・ 講義科目の担当割合 : 担当授業回数/全授業回数								
							学部	大学院
						講義科目	2単位	4単位※
						演習科目	—	8単位※
						実習科目	2単位※	—
						研究科目	2単位※	4単位※

2校地において教育を行う教員の時間割表

□ : 大学院(東京校舎)

■ : 学部(東京校舎)

■ : 学部《大多喜》

	月	火	水	木	金	土																
1			看護学演習ⅠB (フィールドワーク)	対象別支援技術論 ※ 10/30			※在宅看護学実習は2週間、東京校舎の近隣で実施。教員は助教2名を含む3名体制、オリエンテーションとカンファレンス中心。 ※卒業研究は学生の一部が大多喜キャンパスのため、その場合はスカイプ等使用し遠隔指導。前期ではほぼ終了し、後期は論文執筆の指導。 ※大学院における研究指導では、教員が大多喜キャンパスで授業や会議の場合、スカイプ等の遠隔指導を実施。															
2			看護学演習ⅠB (フィールドワーク)																			
3																						
4																						
5																						
6		看護学演習Ⅱ (文献講読)																				
7		看護学演習Ⅱ (文献講読)																				
・ 大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・ 大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇ : 8回授業、※ : オムニバス又は共同科目。 ・ 講義科目の担当割合 : 担当授業回数/全授業回数							<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学部</th> <th>大学院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講義科目</td> <td>2単位※</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>演習科目</td> <td>2単位※</td> <td>8単位※</td> </tr> <tr> <td>実習科目</td> <td>2単位※</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>研究科目</td> <td>2単位※</td> <td>4単位※</td> </tr> </tbody> </table>		学部	大学院	講義科目	2単位※	—	演習科目	2単位※	8単位※	実習科目	2単位※	—	研究科目	2単位※	4単位※
	学部	大学院																				
講義科目	2単位※	—																				
演習科目	2単位※	8単位※																				
実習科目	2単位※	—																				
研究科目	2単位※	4単位※																				

【看護学部】		【大学院看護学研究科】	
家族看護学(看2)(1単位)◇	前期	看護教育学特論(M1・M2)※(2単位)	前期
在宅看護論(看2)(2単位)演習)	後期	基盤看護学演習ⅠA(M1)(2単位)	前期
在宅看護実習(看3)(2単位)	後期	基盤看護学演習ⅠB(M1)(2単位)	後期
対象別支援技術論(看3)(2単位)※	前期	基盤看護学演習Ⅱ(M1)(4単位)	通年
総合看護実習(看4)(2単位)※	後期	特別研究Ⅰ(M1)(4単位)	通年
卒業研究(看4)(4単位)※	通年	特別研究Ⅱ(M2)(4単位)	通年

2校地において教育を行う教員の時間割表

14 今野玲子 【前期】

□ : 大学院(東京校舎)

■ : 学部(東京校舎)

■ : 学部《大多喜》

	月	火	水	木	金	土																
1		看護学演習Ⅱ (文献講読)					※基礎看護実習Ⅰでは、東京校舎近郊の施設。全領域が指導に参加する実習であり、成人領域からの参加。 ※卒業研究は学生の一部が大多喜キャンパスのため、その場合はスカイプ等使用し遠隔指導。前期でほぼ終了し、後期は論文執筆の指導。 ※大学院における研究指導では、教員が大多喜キャンパスで授業や会議の場合、スカイプ等の遠隔指導を実施。															
2		看護学演習Ⅱ (文献講読)																				
3	成人看護方法論Ⅱ 《大多喜》7/15																					
4			成人看護学特論 2/15																			
5																						
6			看護学演習ⅠA (事例分析)																			
7	成人看護学特論		看護学演習ⅠA (事例分析)																			
・ 大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・ 大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇ : 8回授業、※ : オムニバス又は共同科目。 ・ 講義科目の担当割合 : 担当授業回数/全授業回数							<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学部</th> <th>大学院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講義科目</td> <td>1単位</td> <td>4単位※</td> </tr> <tr> <td>演習科目</td> <td>—</td> <td>8単位※</td> </tr> <tr> <td>実習科目</td> <td>3単位※</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>研究科目</td> <td>2単位※</td> <td>4単位※</td> </tr> </tbody> </table>		学部	大学院	講義科目	1単位	4単位※	演習科目	—	8単位※	実習科目	3単位※	—	研究科目	2単位※	4単位※
	学部	大学院																				
講義科目	1単位	4単位※																				
演習科目	—	8単位※																				
実習科目	3単位※	—																				
研究科目	2単位※	4単位※																				

□ : 大学院(東京校舎)

■ : 学部(東京校舎)

■ : 学部《大多喜》

	月	火	水	木	金	土																
1	看護研究の基礎 15/15		看護学演習ⅠB (フィールドワーク)				※基礎看護実習Ⅱでは、東京校舎近郊の施設。全領域が指導に参加する実習であり、成人領域からの参加。 ※卒業研究は学生の一部が大多喜キャンパスのため、その場合はスカイプ等使用し遠隔指導。前期でほぼ終了し、後期は論文執筆の指導。 ※大学院における研究指導では、教員が大多喜キャンパスで授業や会議の場合、スカイプ等の遠隔指導を実施。															
2	成人看護方法論Ⅰ ※ 4/15		看護学演習ⅠB (フィールドワーク)	成人看護学概論◇ ※ 《大多喜》 5/8																		
3																						
4																						
5																						
6		看護学演習Ⅱ (文献講読)																				
7		看護学演習Ⅱ (文献講読)																				
・ 大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・ 大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇ : 8回授業、※ : オムニバス又は共同科目。 ・ 講義科目の担当割合 : 担当授業回数/全授業回数							<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学部</th> <th>大学院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講義科目</td> <td>3単位※</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>演習科目</td> <td>2単位</td> <td>8単位※</td> </tr> <tr> <td>実習科目</td> <td>2単位※</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>研究科目</td> <td>2単位※</td> <td>4単位※</td> </tr> </tbody> </table>		学部	大学院	講義科目	3単位※	—	演習科目	2単位	8単位※	実習科目	2単位※	—	研究科目	2単位※	4単位※
	学部	大学院																				
講義科目	3単位※	—																				
演習科目	2単位	8単位※																				
実習科目	2単位※	—																				
研究科目	2単位※	4単位※																				

【看護学部】		【大学院看護学研究科】	
成人看護学概論(看1)(1単位)◇※4コマ	後期	成人看護学特論(M1・M2)※(2単位)	前期
基礎看護実習Ⅰ(看1)(1単位)※	前期	実践看護学演習ⅠA(M1)(2単位)	前期
基礎看護実習Ⅱ(看2)(2単位)※	後期	実践看護学演習ⅠB(M1)(2単位)	後期
成人看護方法論Ⅰ(看2)(2単位)※4コマ	後期	実践看護学演習Ⅱ(M1)(4単位)	通年
成人看護方法論Ⅱ(看2)(2単位)※7コマ	前期	特別研究Ⅰ(M1)(4単位)	通年
看護研究の基礎(看2)(2単位)	後期	特別研究Ⅱ(M2)(4単位)	通年
総合看護実習(看4)(2単位)※	後期		
卒業研究(看4)(4単位)※	通年		

2校地において教育を行う教員の時間割表

15 松崎敦子 【前期】

□ : 大学院(東京校舎)

■ : 学部(東京校舎)

■ : 学部《大多喜》

	月	火	水	木	金	土			
1		看護学演習Ⅱ (文献講読)		小児看護学方法論Ⅱ 13/15			※卒業研究は学生の一部が大多喜キャンパスのため、その場合はスカイプ等使用し遠隔指導。前期でほぼ終了し、後期は論文執筆の指導。 ※大学院における研究指導では、教員が大多喜キャンパスで授業や会議の場合、スカイプ等の遠隔指導を実施。		
2		看護学演習Ⅱ (文献講読)							
3				小児看護学概論◇ 《大多喜》8/8					
4			成育看護学特論 6/15						
5									
6			看護学演習ⅠA (事例分析)						
7	成育看護学特論		看護学演習ⅠA (事例分析)						
・ 大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・ 大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇ : 8回授業、※ : オムニバス又は共同科目。 ・ 講義科目の担当割合 : 担当授業回数/全授業回数							学部	大学院	
							講義科目	3単位	4単位※
							演習科目	—	8単位※
							実習科目	2単位※	—
							研究科目	2単位※	4単位※

2校地において教育を行う教員の時間割表

15 松崎敦子 【後期】

□ : 大学院(東京校舎)

■ : 学部(東京校舎)

■ : 学部《大多喜》

	月	火	水	木	金	土																
1			看護学演習ⅠB (フィールドワーク)	小児看護方法論Ⅰ 13/15			※小児看護学実習は2週間、東京校舎の近隣で実施。教授1助教1を含む3名体制、オリエンテーションとカンファレンス中心。 ※卒業研究は学生の一部が大多喜キャンパスのため、その場合はスカイプ等使用し遠隔指導。前期ではほぼ終了し、後期は論文執筆の指導。 ※大学院における研究指導では、教員が大多喜キャンパスで授業や会議の場合、スカイプ等の遠隔指導を実施。															
2			看護学演習ⅠB (フィールドワーク)																			
3																						
4																						
5																						
6		看護学演習Ⅱ (文献講読)																				
7		看護学演習Ⅱ (文献講読)																				
・ 大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。 ・ 大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。 ◇ : 8回授業、※ : オムニバス又は共同科目。 ・ 講義科目の担当割合 : 担当授業回数/全授業回数							<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学部</th> <th>大学院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講義科目</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>演習科目</td> <td>1単位※</td> <td>8単位※</td> </tr> <tr> <td>実習科目</td> <td>2単位※</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>研究科目</td> <td>2単位※</td> <td>4単位※</td> </tr> </tbody> </table>		学部	大学院	講義科目	—	—	演習科目	1単位※	8単位※	実習科目	2単位※	—	研究科目	2単位※	4単位※
	学部	大学院																				
講義科目	—	—																				
演習科目	1単位※	8単位※																				
実習科目	2単位※	—																				
研究科目	2単位※	4単位※																				

【看護学部】		【大学院看護学研究科】	
小児看護学概論(看2)(1単位)	前期	成育看護学特論(M1・M2)※(2単位)	前期
小児看護方法論Ⅰ(看2)(1単位)	後期	実践看護学演習ⅠA(M1)(2単位)	前期
小児看護方法論Ⅱ(看3)(2単位)	前期	実践看護学演習ⅠB(M1)(2単位)	後期
小児看護実習(看3)(2単位)※	後期	実践看護学演習Ⅱ(M1)(4単位)	通年
総合看護実習(看4)(2単位)※	後期	特別研究Ⅰ(M1)(4単位)	通年
卒業研究(看4)(4単位)※	通年	特別研究Ⅱ(M2)(4単位)	通年

2校地において教育を行う教員の時間割表

16 松本浩幸 【前期】

□ : 大学院(東京校舎)

■ : 学部(東京校舎)

■ : 学部《大多喜》

	月	火	水	木	金	土			
1		看護学演習Ⅱ (文献講読)					※卒業研究は、学生が東京校舎の場合にはスカイプ等使用し遠隔指導。大多喜キャンパスの学生を受け持つことが多く、その場合は比較的時間をかけて指導できる。		
2		看護学演習Ⅱ (文献講読)			精神看護学概論◇ 《大多喜》8/8				
3	精神看護方法論Ⅱ 15/15								
4			地域看護学特論 2/15						
5									
6			看護学演習ⅠA (事例分析)						
7	地域看護学特論 2/15		看護学演習ⅠA (事例分析)						
<p>・ 大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。                  ・ 大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。                  ◇ : 8回授業、※ : オムニバス又は共同科目。</p>							学部	大学院	
							講義科目	5単位	2単位※
							演習科目	2単位※	4単位※
							実習科目	2単位※	—
							研究科目	2単位※	—

2校地において教育を行う教員の時間割表

16 松本浩幸 【後期】

□ : 大学院(東京校舎)

■ : 学部(東京校舎)

■ : 学部《大多喜》

	月	火	水	木	金	土	
1			看護学演習ⅠB (フィールドワーク)	対象別支援技術論 ※ 4/30			※精神看護学実習は2週間、東京校舎近隣で実施。助教1を含む2名体制、オリエンテーションとラウンド、カンファレンスの参加。 ※卒業研究は学生の一部が大多喜キャンパスのため、その場合はスカイプ等使用し遠隔指導。前期でほぼ終了し、後期は論文執筆の指導。
2			看護学演習ⅠB (フィールドワーク)				
3	精神看護方法論Ⅰ ◇ 8/8						
4							
5							
6		看護学演習Ⅱ (文献講読)					
7		看護学演習Ⅱ (文献講読)					

・大学院の授業は全て東京校舎で、学部の授業は大多喜キャンパス(千葉県大多喜町)と東京校舎で行う。

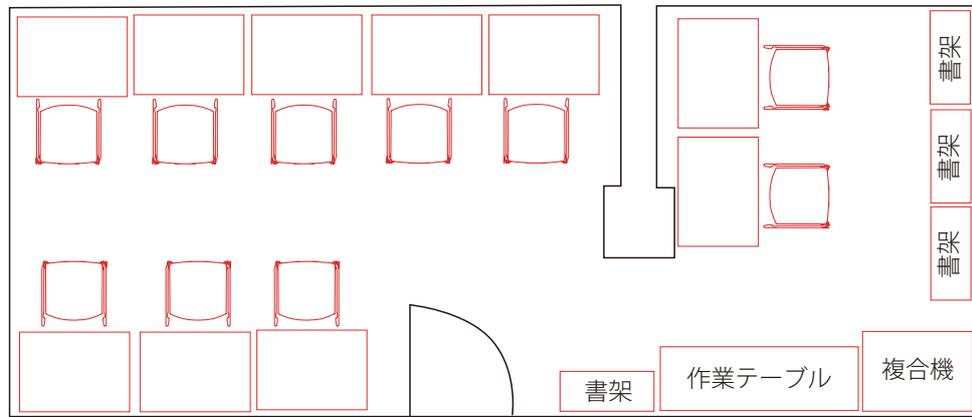
・大学院の授業は昼夜開講制により、講義科目を昼1回と夜1回の2回開講する。

◇ : 8回授業、※ : オムニバス又は共同科目。

	学部	大学院
講義科目	2単位	—
演習科目	2単位※	4単位※
実習科目	2単位※	—
研究科目	2単位※	—

【看護学部】		【大学院看護学研究科】	
精神看護学概論(看2)(1単位)◇	前期	地域看護学特論(M1・M2)※(2単位)	前期
精神看護方法論Ⅰ(看2)(1単位)◇	後期	実践看護学演習ⅠA(M1)(2単位)	前期
精神看護方法論Ⅱ(看3)(2単位)	前期	実践看護学演習ⅠB(M1)(2単位)	後期
精神看護実習(看3)(2単位)※	後期	特別研究Ⅰ(M1)(4単位)	通年
総合看護実習(看4)(2単位)※	後期	特別研究Ⅱ(M2)(4単位)	通年
卒業研究(看4)(4単位)※	通年		

# 看護学研究科講義室及び大学院生室レイアウト



大学院生室

出入口

30.00 m<sup>2</sup>

席数：10 席

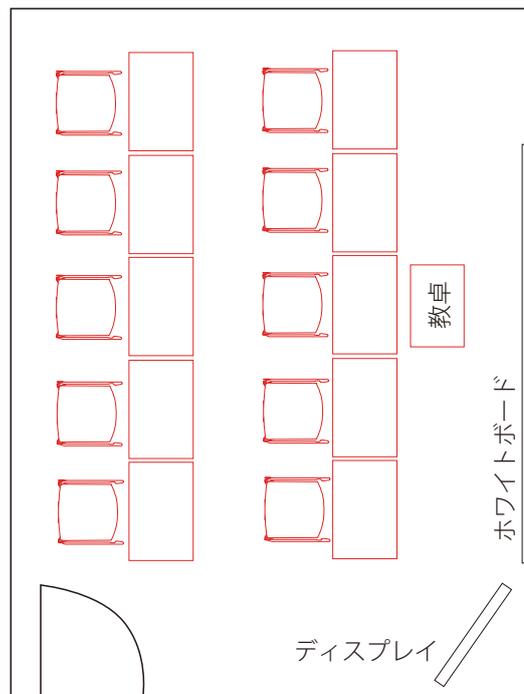
看護学部 5 号館 3 階

看護学研究科講義室

27.16 m<sup>2</sup>

席数：10 席

看護学部 6 号館 1 階



出入口

## 購入予定図書

品目	共通科目	専門科目	研究科目	合計
内国書	48	113	29	190
外国書	57	97	37	191
合計	105	210	66	381

(冊数)

・内国書1～内国書5

・外国書1～外国書7

No	区分	書名	著者名	出版社	出版年月
1	共通科目	応用行動分析から対人援助学へ:その軌跡をめぐって	望月昭:武藤崇	晃洋書房	201602
2	共通科目	行動分析家の倫理:責任ある実践へのガイドライン	ジョン・S. ベイリー:メリー・R. バーチ	二瓶社	201503
3	共通科目	応用行動分析学	ジョン・O. クーパー:ティモシー・E. ヘロン	明石書店	201306
4	共通科目	感情とはそもそも何なのか:現代科学で読み解く感情のしくみと障害	乾敏郎	ミネルヴァ書房	201809
5	共通科目	感情心理学:感情研究の基礎とその展開	今田純雄:中村真(心理学)	培風館	201805
6	共通科目	心の治療における感情:科学から臨床実践へ	ステファン・G・ホフマン:有光興記	北大路書房	201802
7	共通科目	アタッチメントと臨床領域	数井みゆき:遠藤利彦	ミネルヴァ書房	200710
8	共通科目	こどものこころの環境:現代のクライン派家族論	ドナルド・メルツァー:マーサ・ハリス	金剛出版	201812
9	共通科目	行動科学の展開:人的資源の活用	ポール・ハーシー:ケン・ブランチャード	生産性出版	200006
10	共通科目	グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践:質的研究への誘い	木下康仁	弘文堂	200308
11	共通科目	敵とのコラボレーション:賛同できない人、好きではない人、信頼できない人と協	アダム・カヘン:小田理一郎	英治出版	201810
12	共通科目	リサーチの技法	ウェリン・C. ブース:グレゴリー・G. コロンブ	ソシム	201807
13	共通科目	グラウンデッド・セオリー	V. B. マーティン:A. ユンニルド	ミネルヴァ書房	201702
14	共通科目	グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いたデータ収集法	戈木クレイグヒル滋子	新曜社	201402
15	共通科目	世界のホリスティック教育:もうひとつの持続可能な未来へ	吉田敦彦	日本評論社	200908
16	共通科目	薬学・看護学・保健学に役立つ生物統計・疫学・臨床研究デザインテキストブック	山田浩(神経内科学):大野ゆう子	メディカル・パブリケーションズ	201811
17	共通科目	いのち学&セルフケア:医学・医療原論	渡邊勝之:小坂橋喜久代	錦房	201611
18	共通科目	医学統計学ハンドブック	丹後俊郎:松井茂之	朝倉書店	201807
19	共通科目	ベイツ診察法	リン・S. ピクリー:ピーター・G. シラジー	メディカル・サイエンス・インターナショナル	201502
20	共通科目	ヘンダーソンからの贈り物:響き合い広がる看護をめざして	川嶋みどり	看護の科学社	201810
21	共通科目	看護学のための多変量解析入門	中山和弘	医学書院	201801
22	共通科目	看護に活かすスピリチュアルケアの手引き	田村恵子:河正子	青海社	201706
23	共通科目	シシリー・ソンドース初期論文集:1958-1966:トータルペイン緩和ケアの源流をもとめて	シシリー・ソンドース:小森康永	北大路書房	201705
24	共通科目	ベナー看護実践における専門性:達人になるための思考と行動	バトリシア・ベナー:クリスティン・A. タナー	医学書院	201510
25	共通科目	看護研究入門:評価・統合・エビデンスの生成	スーザン・K. グローブ:ナンシー・バーンズ	エルゼビア・ジャパン	201509
26	共通科目	看護理論集:より高度な看護実践のために	ジュリア・B. ジョージ:南裕子	日本看護協会出版会	201303
27	共通科目	医療の質国際指標:OECD医療の質指標プロジェクト報告書. 2	経済協力開発機構:児玉知子	明石書店	201103
28	共通科目	文献・インタビュー調査から学ぶ会話データ分析の広がり軌跡:研究から実践まで	中井陽子:大場美和子	ナカニシヤ出版	201709
29	専門科目	精神分析的アプローチの理解と実践:アセスメントから介入の技術まで	吾妻社	岩崎学術出版社	201811
30	専門科目	精神分析的な人格理論の基礎:心理療法を始める前に	馬場礼子	岩崎学術出版社	201603
31	専門科目	子どものアートセラピー実践ガイド:発達理論と事例を通して読み解く	アネット・ショア:高橋依子	金剛出版	201809
32	専門科目	高齢者のマインドフルネス認知療法:うつ、緩和ケア、介護者のストレス低減など	黒川由紀子:フォーク阿部まり子	誠信書房	201804
33	専門科目	救貧看護とフィラソピア:古代キリスト教におけるフィラソピア論の生成	土井健司	創文社(千代田区)(発売:創文社出版販売)	201603
34	専門科目	アクションリサーチ・イン・アクション:共同当事者・時間・データ	矢守克也	新曜社	201803
35	専門科目	障害学のアイデンティティ:日本における障害者運動の歴史から	堀智久	生活書院	201403
36	専門科目	子ども虐待予防の新たな戦略	上田礼子	医学書院	200909
37	専門科目	学習障害(幼)児の学習意欲と遊び学習の支援:川村秀忠選集	川村秀忠	慶応義塾大学出版会	201106
38	専門科目	視覚に障害のある乳幼児の育ちを支える	猪平眞理	慶応義塾大学出版会	201802
39	専門科目	これからの健康管理と医療的ケア	日本肢体不自由教育研究会	慶応義塾大学出版会	200811
40	専門科目	肢体不自由教育の基本とその展開	日本肢体不自由教育研究会	慶応義塾大学出版会	200708

No	区分	書名	著者名	出版社	出版年月
41	専門科目	ナース・スケジュールリング:問題把握とモデリング	池上敦子	近代科学社	201802
42	専門科目	スピリチュアルケア研究:基礎の構築から実践へ	窪寺俊之	聖学院大学出版会	201711
43	専門科目	スピリチュアル・コミュニケーション:医療者のための5つの準備・7つの心得・8つのポイント	岡本拓也	医学書院	201602
44	専門科目	スピリチュアルケア学概説	窪寺俊之	三輪書店	200803
45	専門科目	緩和ケアレジデントマニュアル	西智弘:松本禎久	医学書院	201607
46	専門科目	脳の機能解剖と画像診断	ハインリッヒ・ランフェルマン:ピーター・ラープ	医学書院	201810
47	専門科目	語りかける身体:看護ケアの現象学	西村ユミ:鷺田清一	講談社	201810
48	専門科目	アセスメントに強くなる看護診断:事例でわかる 中範困理論でわかる 監査の視点でわか	黒田裕子	医歯薬出版	201810
49	専門科目	看護に活かす基準・指針・ガイドライン集. 2018	日本看護協会	日本看護協会出版会	201810
50	専門科目	看護必要度データから始まる臨床看護マネジメント:医療機関における患者評価と体制整備/DVD付き	嶋森好子:筒井孝子	サイオ出版	201809
51	専門科目	集中治療看護師のための臨床実践テキスト 疾患・病態編	日本集中治療医学会看護テキスト作成ワーキ	真興交易医書出版部	201808
52	専門科目	看護実践にいかすエンド・オブ・ライフケア	長江弘子	日本看護協会出版会	201806
53	専門科目	看護師の倫理調整力:専門看護師の実践に学ぶ	鶴若麻里:長瀬雅子	日本看護協会出版会	201805
54	専門科目	看護マネジャー意思決定フレームワーク	佐藤美香子	日総研出版	201804
55	専門科目	国際看護学:看護の統合と実践/開発途上国への看護実践を踏まえて	柳澤理子	PILAR PRESS	201708
56	専門科目	ナーシングマッサージ入門:日々のケアにプラスして患者の安楽性を促す	看護における指圧マッサージ研究会:小板橋喜久代	日本看護協会出版会	201612
57	専門科目	経験型実習教育:看護師をはぐくむ理論と実践	安酸史子	医学書院	201511
58	専門科目	高度看護OSCE:高度な臨床スキル評価成功へのガイド	ヘレン・ウオード:ジュリアン・パラット	へるす出版	201412
59	専門科目	現象学的看護研究:理論と分析の実際	松葉祥一:西村ユミ	医学書院	201411
60	専門科目	エビデンスに基づく看護実践のためのシステムティックレビュー	牧本清子	日本看護協会出版会	201312
61	専門科目	看護のためのクリティカルケア場面の問題解決ガイド:基礎からわかる臨床に活かす倫理調整	江川幸二:山勢博彰	三輪書店	201310
62	専門科目	リラクゼーション法入門:セルフケアから臨床実践へとつなげるホリスティックナ	小板橋喜久代:荒川唱子	日本看護協会出版会	201308
63	専門科目	看護OSCE	中村恵子(看護学)	メヂカルフレンド社	201104
64	専門科目	スピリチュアルケア:看護のための理論・研究・実践	エリザベス・ジョンストン・テイラー:江本愛子	医学書院	200712
65	専門科目	ナレッジマネジメント:創造的な看護管理のための12章	大串正樹	医学書院	200706
66	専門科目	ホリスティック・ナーシング:全人的な癒しへの看護アプローチ	バーバラ・モンゴメリー・ドッシー:リン・キーガン	エルゼビア・ジャパン	200611
67	専門科目	全人的視点にもとづく精神看護過程	白石壽美子:武政奈保子	医歯薬出版	201404
68	専門科目	新たな全人的ケア:医療と教育のパラダイムシフト	トム・A. ハッチンソン:恒藤暁	青海社	201605
69	専門科目	慢性疾患を生きる:ケアとクオリティ・ライフの接点	アンセルム・L. シュトラウス:南裕子	医学書院	198705
70	専門科目	心不全の緩和ケア:心不全患者の人生に寄り添う医療	大石醒悟:高田弥寿子	南山堂	201406
71	専門科目	精神障害を哲学する:分類から対話へ	石原孝二	東京大学出版会	201809
72	専門科目	シュリンクス:誰も語らなかった精神医学の真実	ジェフリー・A・リーバーマン:オギ・オーガス	金剛出版	201808
73	専門科目	標準精神医学	尾崎紀夫:三村将	医学書院	201803
74	専門科目	精神診療プラチナマニュアルGrande	松崎朝樹	メディカル・サイエンス・インターナショナル	201811
75	専門科目	精神科身体合併症マニュアル	野村総一郎:本田明(医師)	医学書院	201806
76	専門科目	発達障害支援の実際:診療の基本から多様な困難事例への対応まで	内山登紀夫	医学書院	201711
77	専門科目	オープンダイアローグを実践する	ヤーコ・セイックラ:トム・エーリク・アーンキル	日本評論社	201609
78	専門科目	DSM時代における精神療法のエッセンス:こころと生活をみつめる視点と臨床モデルの確立に向け	広沢正孝	医学書院	201605
79	専門科目	オープンダイアローグ	ヤーコ・セイックラ:トム・エーリク・アーンキル	日本評論社	201603
80	専門科目	ナラティブ・セラピー:社会構成主義の実践	シーラ・マクナミー:ケネス・J. ガーゲン	遠見書房	201412
81	専門科目	危機介入の理論と実際:医療・看護・福祉のために	ドナ・C. アグレア:小松源助	川島書店	199705
82	専門科目	摂食障害のセルフヘルプ援助:患者の力を生かすアプローチ	西園マーハ文	医学書院	201005
83	専門科目	回想アクティビティハンドブック	バーニー・アリゴ:梅本充子	ずびか書房	201806

No	区分	書名	著者名	出版社	出版年月
84	専門科目	うつ病治療ガイドライン	日本うつ病学会：気分障害の治療ガイドライン作成委員会	医学書院	201706
85	専門科目	シュロスバークの臨床感染症学	デビット・シュロスバーク：岩田健太郎	メディカル・サイエンス・インターナショナル	201809
86	専門科目	サンフォード感染症治療ガイド：日本語版．2018	デーヴィッド・N. ギルバート：ヘンリー・F. チェンバース	ライフサイエンス出版	201807
87	専門科目	感染症診療ゴールデンハンドブック	藤田次郎：喜舎場朝和	南江堂	201806
88	専門科目	人類と感染症の歴史：未知なる恐怖を超えて	加藤茂孝	丸善出版	201303
89	専門科目	発達障害のリハビリテーション：多職種アプローチの実際	宮尾益知：橋本圭司	医学書院	201703
90	専門科目	脳性まひ児の家庭療育	エヴァ・パウアー：上杉雅之	医歯薬出版	201409
91	専門科目	子どものこころの不思議：児童精神科の診療室から	村田豊久	慶応義塾大学出版会	200907
92	専門科目	がんリハビリテーション：原則と実践完全ガイド	マイケル・D・スタブフィールド：マイケル・W・オデール	ガイアブックス	201801
93	専門科目	行動変容を促すヘルス・コミュニケーション：根拠に基づく健康情報の伝え方	チャールズ・エイブラハム：マリー・カ・クールズ	北大路書房	201808
94	専門科目	看護職のキャリア開発：転換期のヒューマンリソースマネジメント	平井さよ子	日本看護協会出版会	200905
95	専門科目	感染症と法の社会史：病がつくる社会	西迫大祐	新曜社	201808
96	専門科目	病院感染対策ガイドライン．2018年版	国立大学附属病院感染対策協議会	じほう	201808
97	専門科目	在宅医療・介護における感染管理ハンドブック	メ谷直人：高橋峰子	克誠堂出版	201805
98	専門科目	続：人類と感染症の歴史：新たな恐怖に備える	加藤茂孝	丸善出版	201805
99	専門科目	ホリスティック・マネジメント：環境マネジメントと意識マネジメントの哲学	石井薫	創成社	201308
100	専門科目	祈り：NICU、小児病棟、在宅介護を越えて	扇ゆうこ	文芸社	201305
101	専門科目	看護師の注意義務と責任：Q&Aと事故事例の解説	加藤済仁：蒔田覚	新日本法規出版	201811
102	専門科目	ケアの実践とは何か：現象学からの質的研究アプローチ	西村ユミ：榊原哲也	ナカニシヤ出版	201709
103	研究科目	ペタゴジーからアンドラゴジーへ：教育の社会的・実践的研究	加澤恒雄	大学教育出版	200405
104	研究科目	科学者の研究倫理：化学・ライフサイエンスを中心に	田中智之：小出隆規	東京化学同人	201806
105	研究科目	医学論文執筆のための臨床研究と医療統計：まずはここからはじめよう！	神田英一郎	メジカルビュー社	201602
106	研究科目	臨床研究の道標：7つのステップで学ぶ研究デザイン．上巻	福原俊一	健康医療評価研究機構	201707
107	研究科目	臨床研究の道標：7つのステップで学ぶ研究デザイン．下巻	福原俊一	健康医療評価研究機構	201707
108	研究科目	トム・ラングの医学論文「執筆・出版・発表」実践ガイド	トーマス・A. ラング：宮崎貴久子	シナジー（渋谷区）	201201
109	研究科目	流れがわかる学会発表・論文作成How To：症例報告、何をどうやって準備する？	佐藤雅昭	メディカルレビュー社	201103
110	研究科目	医学研究・臨床試験の倫理 わが国の事例に学ぶ	井上悠輔：一家綱邦	日本評論社	201809
111	研究科目	看護教育学研究：発見・創造・証明の過程／実践・教育の質向上を目指す	舟島なをみ	医学書院	201809
112	研究科目	看護成果分類（NOC）：成果測定のための指標・測定尺度	スー・ムアヘッド：エリザベス・スワンソン	エルゼビア・ジャパン	201803
113	研究科目	看護介入分類（NIC）	ハワード・K. ブッチャー：グロリア・M. プレチェク	エルゼビア・ジャパン	201803
114	研究科目	「尺度」を使った看護研究のキホンとコツ：看護研究の精度向上・時間短縮のために	鳩野洋子：長聡子	日本看護協会出版会	201608
115	研究科目	よくわかる質的研究の進め方・まとめ方：看護研究のエキスパートをめざして	ミスズ・グレッグ：麻原きよみ	医歯薬出版	201603
116	研究科目	質的研究法ゼミナール：グラウンデッド・セオリー・アプローチを学ぶ	戈木クレイグヒル滋子	医学書院	201308
117	研究科目	質的研究のための理論入門：ポスト実証主義の諸系譜	ブシュカラ・プラサド：箕浦康子	ナカニシヤ出版	201801
118	研究科目	高度実践看護：統合的アプローチ	中村美鈴：江川幸二	へるす出版	201706
119	研究科目	医学論文のための研究デザインと統計解析：査読者が教える	森本剛	中山書店	201704
120	研究科目	医療の質の定義と評価方法	アヴェディス・ドナベディアン：東尚弘	健康医療評価研究機構	200711
121	専門科目	看護の原理：ケアすることの本質と魅力	菱沼典子：井上智子	ライフサポート社	200907
122	専門科目	看護技術の基礎理論	川島みどり（看護学）	ライフサポート社	201010
123	専門科目	実践へつなぐ看護技術教育	阿曾洋子	医歯薬出版	200609
124	共通科目	大学教員のためのルーブリック評価入門	ダネル・D. スティーブンス：アントニア・J. レビ	玉川大学出版部	201403
125	専門科目	教えることの基本となるもの：「看護」と「教育」の同形性	目黒悟	メデカルフレンド社	201608

No	区分	書名	著者名	出版社	出版年月
126	専門科目	川島みどりと黒田裕子の考える看護のエビデンス	川島みどり(看護学):黒田裕子	中山書店	200504
127	専門科目	臨床実践力を育てる!看護のためのシミュレーション教育	阿部幸恵:板橋綾香	医学書院	201308
128	共通科目	人文学概論:人文知の新たな構築をめざして	安酸敏真	知泉書館	201804
129	共通科目	人間学としての哲学	金子晴勇	世界思想社	199501
130	共通科目	現代ヨーロッパの人間学:精神と生命の問題をめぐる	金子晴勇	知泉書館	201005
131	共通科目	キリスト教神学基本用語集	フスト・L. ゴンサレス:鈴木浩(神学)	教文館	201010
132	共通科目	宗教とは何か	テリ・イーグルトン:大橋洋一(英文学)	青土社	201005
133	共通科目	人間の学としての倫理学	和辻哲郎	岩波書店	200706
134	共通科目	日本思想全史	清水正之	筑摩書房	201411
135	共通科目	人間の運命:キリスト教的歴史解釈	ラインホルド・ニーバー:高橋義文	聖学院大学出版会	201703
136	共通科目	パンセ	パスカル:前田陽一	中央公論新社	201807
137	共通科目	キリスト者の自由:訳と注解	マルティン・ルター:徳善義和	教文館	201105
138	共通科目	アガペーとエロース	アンダース・テーオドル・サミュエル・ニ:岸千年	新教出版社	199502
139	共通科目	ボンヘッファーとキング:抵抗に生きたキリスト者	J. デイオティス・ロバーツ:島田由紀	日本基督教団出版局	200811
140	研究科目	クリティカルケア看護完全ガイド	黒田裕子:林みよ子	医歯薬出版	201309
141	研究科目	これから論文を書く若者のために	酒井聡樹	共立出版	201504
142	研究科目	看護の重要コンセプト20:看護分野における概念分析の試み	ジョン・R. カトクリフ:ヒュー・P. マッケナ	エルゼビア・ジャパン	200810
143	研究科目	看護実践の語り:言葉にならない営みを言葉にする	西村ユミ	新曜社	201603
144	研究科目	概念モデルをつくる:研究課題を目に見える形に	松村真司:福原俊一	健康医療評価研究機構	200809
145	研究科目	エンドオブライフケア看護学:基礎と実践	小笠原知枝	ヌーヴェルヒロカワ	201812
146	研究科目	認知症のりびとの看護	中島紀恵子:太田喜久子	医歯薬出版	201702
147	研究科目	ライブ講義・質的研究とは何か:研究の着想からデータ収集、分析、モデル構築まで. SCQRMベーシック編	西條剛央	新曜社	200709
148	研究科目	ライブ講義・質的研究とは何か. SCQRMアドバンス編	西條剛央	新曜社	200805
149	研究科目	研究以前のモンダイ看護研究で迷わないための超入門講座	西條剛央	医学書院	200909
150	研究科目	質的テキスト分析法:基本原理・分析技法・ソフトウェア	ウド・クカート:佐藤郁哉	新曜社	201803
151	共通科目	自殺論	デュルケーム:宮島喬	中央公論新社	201809
152	共通科目	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神	マックス・ヴェーバー:中山元	日経BP社(発売:日経BPマーケティング)	201001
153	共通科目	社会疫学. 上	リサ・F. バークマン:イチロー・カワチ	大修館書店	201709
154	共通科目	社会疫学. 下	リサ・F. バークマン:イチロー・カワチ	大修館書店	201709
155	共通科目	現代社会学事典	大澤真幸:吉見俊哉	弘文堂	201212
156	共通科目	社会調査の基礎:社会調査士A・B・C・D科目対応	篠原清夫:清水強志	弘文堂	201002
157	共通科目	大学生のための社会学入門:日本学術会議参照基準対応	篠原清夫:栗田真樹	晃洋書房	201607
158	専門科目	高齢者の生活機能の総合的評価	鳥羽研二	新興医学出版社	201010
159	専門科目	急性期病院で治療を受ける認知症高齢者のケア:パーソン・センタードな視点から進める	鈴木みずえ	日本看護協会出版会	201312
160	専門科目	認知症ケアの手引き:多職種チームで取り組む	鈴木みずえ	日本看護協会出版会	201703
161	専門科目	認知症疾患診療ガイドライン2017	日本神経学会:「認知症疾患診療ガイドライン」作成委員会	医学書院	201708
162	専門科目	質的研究入門:(人間の科学)のための方法論	ウヴェ・フリック:小田博志	春秋社	201102
163	専門科目	メッセージ分析の技法:「内容分析」への招待	クラウス・クリッペンドルフ:三上俊治	勁草書房	198908
164	専門科目	質的データ分析法:原理・方法・実践	佐藤郁哉	新曜社	200803
165	専門科目	テーマティック・アナリシス法:インタビューデータ分析のためのコーディングの基礎	土屋雅子	ナカニシヤ出版	201610
166	専門科目	グループ・インタビューの技法	シャロン・ヴォーン:田部井潤	慶応義塾大学出版会	199902
167	専門科目	医薬研究者のための評価スケールの使い方と統計処理	奥田千恵子(医療統計学)	金芳堂	200705
168	専門科目	看護研究:原理と方法	デニス・F. ポーリット:シェリル・タティノ・ベック	医学書院	201003
169	専門科目	医療機器の基礎知識	医療機器センター	薬事日報社	200812
170	専門科目	イノベーションの普及	エヴァレット・M. ロジャーズ:三藤利雄	翔泳社	200710
171	専門科目	看護理工学	真田弘美:森武俊	東京大学出版会	201510

No	区分	書名	著者名	出版社	出版年月
172	専門科目	看護実践・教育のための測定用具ファイル:開発過程から活用の実際まで	亀岡智美:舟島なをみ	医学書院	201510
173	専門科目	看護学教育における授業展開:質の高い講義・演習・実習の実現に向けて	舟島なをみ	医学書院	201301
174	専門科目	院内教育プログラムの立案・実施・評価	定廣和香子:舟島なをみ	医学書院	201512
175	専門科目	心理測定尺度集. 1	堀洋道	サイエンス社	200106
176	専門科目	心理測定尺度集. 2	堀洋道	サイエンス社	200106
177	専門科目	心理測定尺度集. 3	堀洋道	サイエンス社	200108
178	専門科目	心理測定尺度集. 4	堀洋道	サイエンス社	200704
179	専門科目	心理測定尺度集. 5	堀洋道	サイエンス社	201103
180	専門科目	心理測定尺度集. 6	堀洋道	サイエンス社	201103
181	専門科目	クリエイティブ・トレーニング・テクニック・ハンドブック:研修&セミナーで教える人のための	ロバート・W. パイク:中村文子	日本能率協会マネジメントセンター	200809
182	専門科目	ローバー・ローガン・ティアニー看護モデル:生活行為に基づくイギリスの看護	ナンシー・ローパー:ウィニフレッド・ローガン	日本看護協会出版会	200601
183	専門科目	コミュニティアズパートナー:地域看護学の理論と実際	エリザベス・T. アンダーソン:ジュディス・M. マックファーレン	医学書院	200701
184	専門科目	ローバー・ローガン・ティアニー看護モデルの実際:生活行為に基づく看護過程	久間圭子	メディカ出版	200710
185	専門科目	ナイチンゲール著作集. 第1巻	フローレンス・ナイチンゲール:薄井坦子	現代社(新宿区)	198302
186	専門科目	ナイチンゲール著作集. 第2巻	フローレンス・ナイチンゲール:薄井坦子	現代社(新宿区)	197409
187	専門科目	ナイチンゲール著作集. 第3巻	フローレンス・ナイチンゲール:薄井坦子	現代社(新宿区)	197707
188	専門科目	神の痛みの神学	北森嘉蔵	教文館	200901
189	専門科目	夜と霧	ヴィクトル・エミール・フランクル:池田香代子	みすず書房	200211
190	専門科目	死と愛:実存分析入門	ヴィクトル・エミール・フランクル:霜山徳爾	みすず書房	198505

No	区分	書名	著者名	版次	出版社名	出版年月
1	共通科目	Making Sense of Statistics : A Conceptual Overview	Pyrzczak, Fred/ Oh, Deborah M	7TH	Routledge	201806
2	共通科目	Key Concepts in Mental Health (Sage Key Concepts)	Pilgrim, David	4TH	Sage Pubns Ltd	201706
3	共通科目	Research Methods for the Behavioral Sciences	Privitera, Gregory J.	3RD	Sage Pubns	201902
4	共通科目	Quantitative Psychological Research : The Complete Student's Companion	Clark-Carter, David	4TH	Routledge	201812
5	共通科目	Critical Thinking for Helping Professionals : A Skills-based Workbook	Gambrill, Eileen/ Gibbs, Leonard	4 Workbook	Oxford Univ Pr	201705
6	共通科目	The Limit of Responsibility : Engaging Dietrich Bonhoeffer in a Globalizing Era (T&t Clark Enquiries in Theological Ethics)	Reed, Esther D.		Bloomsbury T & T Clark	201808
7	共通科目	The Warrior and the Pacifist : Competing Motifs in Buddhism, Judaism, Christianity, and Islam	Kurtz, Lester R. (EDT)		Routledge	201805
8	共通科目	Poverty in the Early Church and Today : A Conversation	Walton, Steve (EDT)/ Swithinbank, Hannah (EDT)		Bloomsbury T & T Clark	201901
9	共通科目	Prayer : A Guide for the Perplexed (Guides for the Perplexed)	Cocksworth, Ashley		Bloomsbury T & T Clark	201807
10	共通科目	The Cambridge Companion to Quakerism (Cambridge Companions to Religion)	Angell, Stephen W. (EDT)/ Dandelion, Pink (EDT)		Cambridge Univ Pr	201806
11	共通科目	The SAGE Handbook of Current Developments in Grounded Theory	Bryant, Antony (EDT)/ Charmaz, Kathy (EDT)	2ND	Sage	201904
12	共通科目	Quantitative Social Science Data with R : An Introduction	Fogarty, Brian J.		Sage Pubns Ltd	201901
13	共通科目	Researching Society and Culture	Seale, Clive (EDT)	4 HAR/PSC	Sage Pubns Ltd	201804
14	共通科目	What Is Qualitative Longitudinal Research? (What Is? Research Methods)	Neale, Bren		Bloomsbury USA Academic	201812
15	共通科目	Ethnography (Understanding Qualitative Research)	Kwame Harrison, Anthony		Oxford Univ Pr	201805
16	共通科目	Sociology of Religion : A Reader	Mirola, William A. (EDT)/ Emerson, Michael O. (EDT)/ Monahan, Susanne	3RD	Routledge	201812
17	共通科目	Peter L. Berger and the Sociology of Religion : 50 Years after the Sacred Canopy	Hjelm, Titus (EDT)		Bloomsbury USA Academic	201808
18	共通科目	A Critical Approach to Surrogacy : Reproductive Desires and Demands (Critical Approaches to Health)	Riggs, Damien W./ Due, Clemence		Routledge	201706
19	共通科目	Death, Dying, and Bereavement in a Changing World	Kemp, Alan R.	2ND	Routledge	201811
20	共通科目	Death, Society, and Human Experience	Kastenbaum, Robert/ Moreman, Christopher M.	12TH	Routledge	201804
21	共通科目	Comparative Health Policy	Blank, Robert/ Burau, Viola/ Kuhlmann, Ellen	5TH	Palgrave	201710
22	共通科目	Memmler's the Human Body in Health and Disease	Hull, Kerry L., Ph.D./ Cohen, Barbara Janson	14TH	Wolters Kluwer Health	201812
23	共通科目	Legal and Ethical Issues for Health Professions	Nguyen, Jaime, M.D.	4TH	Elsevier Science Health Science	201810
24	共通科目	Engaging with Social Work : A Critical Introduction	Morley, Christine/ Ablett, Phillip/ Macfarlane, Selma	2 Critical	Cambridge Univ Pr	201903
25	共通科目	What Is Social Work? : Contexts and Perspectives (Transforming Social Work Practice)	Horner, Nigel	5TH	Learning Matters	201812
26	共通科目	In Whose Interest? : The privatisation of child protection and social Wwrk	Jones, Ray		Policy Pr	201812
27	共通科目	Social Work and Social Welfare : A Human Rights Foundation	Van Wormer, Katherine/ Link, Rosemary J.		Oxford Univ Pr	201806
28	共通科目	Social Work in Context : Theory and Concepts	Parrott, Lester/ Maguinness, Noreen		Sage Pubns Ltd	201711
29	共通科目	Social Work & Human Development (Transforming Social Work Practice)	Walker, Janet	5TH	Learning Matters	201708
30	共通科目	Social Work and Mental Health (Transforming Social Work Practice)	Golightley, Malcolm/ Goemans, Robert	6TH	Learning Matters	201706
31	共通科目	Decision Making, Assessment and Risk in Social Work (Post-qualifying Social Work Practice)	Taylor, Brian J.	3RD	Learning Matters	201705

No	区分	書名	著者名	版次	出版社名	出版年月
32	共通科目	Values & Ethics in Social Work	Beckett, Chris/ Maynard, Andrew/ Jordan, Peter	3RD	Sage Pubns Ltd	201705
33	共通科目	Introduction to Social Work : An Advocacy-Based Profession	Cox, Lisa E./ Tice, Carolyn J./ Long, Dennis D.	2ND	Sage Pubns	201801
34	共通科目	Sage Guide to Social Work Careers : Your Journey to Advocacy	Bird, Melissa		Sage Pubns	201804
35	共通科目	Medical Sociology	Cockerham, William C.	14TH	Taylor & Francis	201704
36	共通科目	What Is Rhythmanalysis? (What Is? Research Methods)	Lyon, Dawn		Bloomsbury USA Academic	201811
37	共通科目	International Handbook of Holistic Education	Miller, John P. (EDT)/ Nigh, Kelli (EDT)/ Binder, Marni J. (EDT)/ Nova		Routledge	201809
38	共通科目	Qualitative Longitudinal Methods : Researching Implementation and Change (Qualitative Research Methods)	Derrington, Mary Lynne		Sage Pubns	201812
39	共通科目	Statistical Modeling in Clinical Trials (Iste)	Anisimov, Vladimir/ Fedorov, Valerii V.		Iste/Herme s Science Pub	201905
40	共通科目	Applied Univariate, Bivariate, and Multivariate Statistics Using SPSS	Denis, Daniel J.		Wiley	201810
41	共通科目	Statistics for the Social Sciences : A General Linear Model Approach	Warne, Russell T.		Cambridge Univ Pr	201803
42	共通科目	Core Statistical Concepts with Excel : An Interactive Modular Approach	Privitera, Gregory J./ Mayeaux, Darryl J.		Sage Pubns	201901
43	共通科目	Medical Math for the Health Care Profession Made Incredibly Easy (Incredibly Easy Series)	Rissel-muscarella	SPI	Lippincott Williams & Wilkins	201908
44	共通科目	Kinn's Medical Assisting Fundamentals : Administrative and Clinical Competencies with Anatomy & Physiology	Niedzwiecki, Brigitte, R.N./ Pepper, Julie/ Weaver, P. Ann	1 PAP/ PSC	Elsevier Science Health Science	201809
45	共通科目	A Dictionary of Nursing (Oxford Quick Reference)	McFerran, Tanya A. (CON)/ McFerran, Tanya A. (EDT)	7TH	Oxford Univ Pr	201707
46	共通科目	Holistic Healthcare : Possibilities and Challenges	George, Anne, M.D. (EDT)/ Oluwafemi, Oluwatobi Samuel, Ph.D. (EDT)/ Jo		Apple Academic Pr Inc	201703
47	共通科目	The Complete Medical Assistant	Sesser, Janet R./ Westervelt, Deborah L.	1 HAR/ PSC	Lippincott Williams & Wilkins	201708
48	共通科目	Introduction to Anatomy and Physiology for Healthcare Students	Sturgeon, David		Routledge	201803
49	共通科目	Respiratory Care Anatomy and Physiology : Foundations for Clinical Practice	Beachey, Will, Ph.D.	4TH	Elsevier Science Health Science	201704
50	共通科目	Health Geographies : A Critical Introduction (Critical Introductions to Geography)	Brown, Tim/ Andrews, Gavin J./ Cummins, Steven/ Greenhough, Beth/ Lewi		Blackwell Pub	201707
51	共通科目	NANDA International Nursing Diagnoses : Definitions & Classification 2018-2020	Herdman, T. Heather (EDT)/ Kamitsuru, Shigemi (EDT)	11TH	Thieme	201706
52	共通科目	Cognitive-Behavioral Therapy for Sexual Dysfunction	Metz, Michael E./ Epstein, Norman B./ McCarthy, Barry		Routledge	201711
53	共通科目	Innovations in Cognitive Behavioral Therapy : Strategic Interventions for Creative Practice	Wenzel, Amy		Routledge	201706
54	共通科目	Burton's Microbiology for the Health Sciences	Fader, Robert C., Ph.D./ Engelkirk, Paul G., Ph.D./ Duben-engelkirk, J	11 PAP/ PSC	Wolters Kluwer Health	201810
55	専門科目	Group and Team Coaching : The Secret Life of Groups (Essential Coaching Skills and Knowledge)	Thornton, Christine	2 Revised	Routledge	201605
56	専門科目	Nursing Ethics : Across the Curriculum and into Practice	Butts, Janie B., Ph.D., R.N./ Rich, Karen L., Ph.D., R.N.	5 PAP/ PSC	Jones & Bartlett Learning	201902
57	専門科目	Spirituality and Social Work (Contemporary Social Work Studies)	Crisp, Beth R.		Ashgate Pub Co	201008

No	区分	書名	著者名	版次	出版社名	出版年月
58	専門科目	The Routledge International Handbook of Spirituality in Society and the Professions (Routledge International Handbooks)	Zsolnai, Laszlo (EDT)/ Flanagan, Bernadette (EDT)		Taylor & Francis	201903
59	専門科目	Theological Neuroethics : Christian Ethics Meets the Science of the Human Brain (T&t Clark Enquiries in Theological Ethics)	Messer, Neil		Bloomsbury T & T Clark	201710
60	専門科目	Childhood Studies : Making Young Subjects (Short Introductions)	Wells, Karen		Polity Pr	201712
61	専門科目	Adult Health Nursing	Cooper, Kim, R.N./ Gosnell, Kelly, R.N.	8 PAP/ PSC	Elsevier Science Health Science	201811
62	専門科目	Leading and Managing in Nursing	Yoder-Wise, Patricia S., R.N.	7 PAP/ PSC	Mosby Inc	201811
63	専門科目	The Strategic Management of Healthcare Organizations	Ginter, Peter M./ Duncan, Jack/ Swayne, Linda E.	8TH	Wiley	201801
64	専門科目	Person-Centred Healthcare Research	McCormack, Brendan (EDT)/ Van Dulmen, Sandra (EDT)/ Eide, Hilde (EDT)/		Blackwell Pub	201709
65	専門科目	Management and Leadership for Nurse Administrators	Roussel, Linda, Ph.D., R.N. (EDT)/ Thomas, Patricia L., Ph.D., R.N. (E	8TH	Jones & Bartlett Learning	201809
66	専門科目	The Encyclopedia of Elder Care : The Comprehensive Resource on Geriatric Health and Social Care	Capezuti, Elizabeth A., Ph.D., R.N. (EDT)/ Malone, Michael L., M.D. (E	4TH	Springer Pub Co	201712
67	専門科目	The Wiley Handbook of What Works in Child Maltreatment : An Evidence-Based Approach to Assessment and Intervention in Child Protection	Dixon, Louise (EDT)/ Perkins, Daniel F. (EDT)/ Hamilton-Giachritsis, C. (EDT)		Wiley- Blackwell	201706
68	専門科目	Correctional Counseling and Rehabilitation	Van Voorhis, Patricia/ Salisbury, Emily J.	9TH	Routledge	201605
69	専門科目	Modeling the Psychopathological Dimensions of Schizophrenia : From Molecules to Behavior (Handbook of Behavioral Neuroscience)	Pletnikov, Mikhail V. (EDT)/ Waddington, John L. (EDT)		Academic Pr	201601
70	専門科目	Zika Virus and Diseases : From Molecular Biology to Epidemiology	Da Silva, Suzane R./ Cheng, Fan/ Gao, Shou- Jiang		Wiley	201804
71	専門科目	Fenner and White's Medical Virology	Burrell, Christopher J./ Howard, Colin R./ Murphy, Frederick A.	5TH	Academic Pr	201611
72	専門科目	Atlas of Clinically Important Fungi	Sciortino, Carmen V., Jr.		Blackwell Pub	201704
73	専門科目	Advanced Health Assessment & Clinical Diagnosis in Primary Care	Dains, Joyce E./ Baumann, Linda Ciofu/ Scheibel, Pamela	6TH	Mosby Inc	201903
74	専門科目	Nursing Interventions & Clinical Skills	Perry, Anne Griffin/ Potter, Patricia Ann/ Ostendorf, Wendy	7TH	Mosby Inc	201903
75	専門科目	Making Sense of Research in Nursing, Health and Social Care	Moule, Pam	6TH	Sage Pubns Ltd	201802
76	専門科目	Critical Pedagogy in Nursing : Transformational Approaches to Nurse Education in a Globalized World	Dyson, Sue		Palgrave Macmillan	201709
77	専門科目	Nursing Theorists and Their Work (Nursing Theorists and Their Work)	Allgood, Martha Raile, Ph.D., R.N.	9TH	Elsevier Science Health Science	201708
78	専門科目	Psychiatric and Mental Health Nursing : The Craft of Caring	Chambers, Mary (EDT)	3RD	CRC Pr I Llc	201705
79	専門科目	Complementary, Alternative, and Integrative Health : A Multicultural Perspective	Pinzon-perez, Helda (EDT)/ Perez, Miguel A. (EDT)		Jossey- Bass Inc Pub	201607
80	専門科目	Nursing Care Plans : Guidelines for Individualizing Client Care Across the Life Span (Nursing Care Plans)	Doenges, Marilyn E./ Moorhouse, Mary Frances, R.N./ Murr, Alice C., R	10 PAP/ PSC	F A Davis	201901
81	専門科目	Taylor's Clinical Nursing Skills : A Nursing Process Approach (Taylor's Clinical Nursing Skills)	Lynn, Pamela, R.N.	5TH	Lippincott Williams & Wilkins	201811

No	区分	書名	著者名	版次	出版社名	出版年月
82	専門科目	Leininger's Transcultural Nursing : Concepts, Theories, Research & Practice	McFarland, Marilyn R., Ph.D., R.N./ Wehbe-Alamah, Hiba B., Ph.D., R.N.	4TH	McGraw-Hill	201804
83	専門科目	Complementary and Alternative Therapies in Nursing	Lindquist, Ruth, Ph.D., R.N. (EDT)/ Tracy, Mary Fran, Ph.D. R.N. (EDT)	8TH	Springer Pub Co	201803
84	専門科目	Health Assessment in Nursing (Health Assessment in Nursing)	Weber, Janet R., R.N./ Kelley, Jane H., R.N., Ph.D.	6 HAR/PSC	Lippincott Williams & Wilkins	201712
85	専門科目	Evidence-Based Nursing	Brown, Sarah Jo, Ph.D., R.N.	4 PAP/PSC	Jones & Bartlett Learning	201611
86	専門科目	Textbook of Basic Nursing : 50th Anniversary Edition	Rosdahl, Caroline Bunker/ Kowalski, Mary T., R.N.	11 HAR/PSC	Lippincott Williams & Wilkins	201610
87	専門科目	Nursing Diagnosis : Application to Clinical Practice (Nursing Diagnosis Application to Clinical Practice)	Carpenito, Lynda Juall	15 PAP/PSC	Lippincott Williams & Wilkins	201608
88	専門科目	Fundamentals of Nursing : Human Health and Function	Craven, Ruth F., R.N./ Hirnle, Constance J./ Henshaw, Christine M.	8TH	Lippincott Williams & Wilkins	201602
89	専門科目	Fundamentals of Nursing + Evolve Website (Fundamentals of Nursing)	Potter, Patricia A., RN, Ph.D./ Perry, Anne Griffin, Rn/ Stockert, Pat	9TH	Mosby Inc	201602
90	専門科目	Critical Thinking, Clinical Reasoning, and Clinical Judgment : A Practical Approach	Alfaro-Lefevre, Rosalinda, R. N.	6TH	W B Saunders Co	201601
91	専門科目	Winningham's Critical Thinking Cases in Nursing : Medical-Surgical, Pediatric, Maternity, and Psychiatric	Harding, Mariann M., Ph.D., RN/ Snyder, Julie S./ Preusser, Barbara, P	6TH	Mosby Inc	201501
92	専門科目	Middle Range Theory for Nursing	Smith, Mary Jane, Ph.D., R.N. (EDT)/ Liehr, Patricia R., Ph.D., R.N. (	4 PAP/PSC	Springer Pub Co	201803
93	専門科目	Spirituality in Nursing : Standing on Holy Ground	O'Brien, Mary Elizabeth, Ph.D., R.N.	6TH	Jones & Bartlett Learning	201703
94	専門科目	Theoretical Nursing : Development and Progress	Meleis, Afaf Ibrahim, Ph.D.	6 HAR/PSC	Lippincott Williams & Wilkins	201701
95	専門科目	Person-Centred Nursing : Theory and Practice	McCormack, Brendan/ Mccance, Tanya		Blackwell Pub	201009
96	専門科目	Clinical Analytics and Data Management for the DNP	Sylvia, Martha L., Ph.D., R.N./ Terhaar, Mary F., R.N.	2 PAP/PSC	Springer Pub Co	201803
97	専門科目	Statistics for Evidence-Based Practice in Nursing	Kim, MyoungJin, Ph.D./ Mallory, Caroline, Ph.D., R.N.	2 PAP/PSC	Jones & Bartlett Learning	201608
98	専門科目	Neurotheology : How Science Can Enlighten Us about Spirituality	Newberg, Andrew		Columbia Univ Pr	201803
99	専門科目	Atlas of Refugees, Displaced Populations, and Epidemic Diseases : Decoding Global Geographical Patterns and Processes since 1901	Smallman-Raynor, Matthew/ Cliff, Andrew		Oxford Univ Pr	201802
100	専門科目	Ebola : Clinical Patterns, Public Health Concerns	Masci, Joseph R., M.D./ Bass, Elizabeth		CRC Pr I Llc	201708
101	専門科目	Nursing Diagnosis Handbook : An Evidence-based Guide to Planning Care (Nursing Diagnosis Handbook)	Ackley, Betty J./ Ladwig, Gail B./ Makic, Mary Beth Flynn/ Martinez-kr	12 Reprint	Mosby Inc	201903
102	専門科目	Interpersonal Relationships : Professional Communication Skills for Nurses	Arnold, Elizabeth C./ Boggs, Kathleen Underman	8TH	W B Saunders Co	201902
103	専門科目	Reflective Writing in Counselling and Psychotherapy	Wright, Jeannie	2ND	Sage Pubns Ltd	201810
104	専門科目	Experiencing Compassion-Focused Therapy from the inside Out : A Self-Practice/Self-Reflection Workbook for Therapists (Self-practice/self-reflection G	Kolts, Russell L./ Bell, Tobyn/ Bennett-Levy, James/ Irons, Chris/ Gil	1 CSM WKB	Guilford Pubn	201805
105	専門科目	Medical Microbiology : A Guide to Microbial Infections: Pathogenesis, Immunity, Laboratory Investigation and Control	Barer, Michael R. (EDT)/ Irving, Will (EDT)/ Swann, Andrew (EDT)/ Pere	19 PAP/PSC	Elsevier Science Health Science	201803
106	専門科目	Counselling Psychology : A Textbook for Study and Practice (Bps Textbooks in Psychology)	Murphy, David (EDT)		Blackwell Pub	201709
107	専門科目	Hospice and Palliative Care : The Essential Guide	Connor, Stephen R.	3RD	Routledge	201707

No	区分	書名	著者名	版次	出版社名	出版年月
108	専門科目	Breaking Negative Relationship Patterns : A Schema Therapy Self-Help and Support Book	Stevens, Bruce A./ Roediger, Eckhard		Wiley- Blackwell	201611
109	専門科目	Infectious Diseases	Cohen, Jonathan/ Powderly, William G./ Opal, Steven M.	4 HAR/ PSC	Elsevier Science Health Science	201607
110	専門科目	The Washington Manual of Critical Care	Kollef, Marin H., M.D./ Isakow, Warren, M.D./ Burks, A. Cole, M.D./ De	3RD	Lippincott Williams & Wilkins	201712
111	専門科目	Critical Care Nursing : A Holistic Approach	Morton, Patricia Gonce, R.N., Ph.D./ Fontaine, Dorrie K., R.N., Ph.D.	11 HAR/ PSC	Lippincott Williams & Wilkins	201702
112	専門科目	Critical Care Nursing : Diagnosis and Management (Critical Care Nursing Diagnosis)	Urden, Linda D., R.N./ Stacy, Kathleen M., Ph.D., R.N./ Lough, Mary E.	8TH	Mosby Inc	201702
113	専門科目	Sparks & Taylor's Nursing Diagnosis Reference Manual (Nursing Diagnosis Reference Manual)	Phelps, Linda Lee, R.N.	10 PAP/ PSC	Lippincott Williams & Wilkins	201702
114	専門科目	Bates' Nursing Guide to Physical Examination and History Taking	Hogan-Quigley, Beth, R.N./ Palm, Mary Louise, R.N./ Bickley, Lynn S.,	2 HAR/ PSC	Lippincott Williams & Wilkins	201610
115	専門科目	Janeway's Immunobiology (ISE)	Murphy, Kenneth/ Weaver, Casey	9TH	Norton	201603
116	専門科目	Mindfulness-Based Cognitive Therapy for Posttraumatic Stress Disorder	Sears, Richard W./ Chard, Kathleen M./ Segal, Zindel V. (FRW)		Wiley- Blackwell	201605
117	専門科目	Psychiatric Nursing	Keltner, Norman L., R.N./ Steele, Debbie, Ph.D., R.N.	8TH	Mosby Inc	201808
118	専門科目	Spirituality in Counseling and Psychotherapy : An Integrative Approach That Empowers Clients	Johnson, Rick		Wiley	201303
119	専門科目	The Evolution of Cognitive Behavior Therapy : A Personal and Professional Journey with Don Meichenbaum	Meichenbaum, Donald		Routledge	201702
120	専門科目	Trial-Based Cognitive Therapy : Distinctive Features (Cbt Distinctive Features)	De Oliveira, Irismar Reis		Routledge	201606
121	専門科目	Helping Couples and Families Navigate Illness and Disability : An Integrated Approach	Rolland, John S.		Guilford Pubn	201805
122	専門科目	Spiritual Resources in Family Therapy	Walsh, Froma (EDT)	2ND	Guilford Pubn	201003
123	専門科目	Communicable Disease Control and Health Protection Handbook	Hawker, Jeremy/ Begg, Norman/ Reintjes, Ralf	4TH	Wiley- Blackwell	201902
124	専門科目	Oxford Handbook of Infectious Diseases and Microbiology (Oxford Handbooks)	Torok, M. Estee, Dr./ Moran, Ed, Dr./ Cooke, Fiona J., Dr.	2ND	Oxford Univ Pr	201702
125	専門科目	Mims' Pathogenesis of Infectious Disease	Nash, Anthony A./ Dalziel, Robert G./ Fitzgerald, J. Ross	6TH	Academic Pr	201501
126	専門科目	The Human Microbiota and Chronic Disease : Dysbiosis as a Cause of Human Pathology	Nibali, Luigi (EDT)/ Henderson, Brian (EDT)		Blackwell Pub	201609
127	専門科目	A Brief History of Bacteria : The Everlasting Game between Humans and Bacteria	Chen, Daijie/ Qian, Xiuping/ Hu, Qingli (TRN)/ Hu, Youjia (TRN)/ Xue,		World Scientific Pub Co Inc	201712
128	専門科目	Mindfulness : A Kindly Approach to Being with Cancer	Bartley, Trish	1 HAR/ PSC	Wiley- Blackwell	201611
129	専門科目	Clinical Reasoning Cases in Nursing	Harding, Mariann, Ph.D., R.N./ Snyder, Julie S.	7TH	Mosby Inc	201901
130	専門科目	Children & Young People's Nursing Skills at a Glance (At a Glance Nursing and Healthcare)	Gormley-Fleming, Elizabeth/ Deborah, Martin		Blackwell Pub	201801
131	専門科目	Nursing Key Topics Review : Pediatrics	Elsevier (COR)		Elsevier Science Health Science	201610
132	専門科目	Maternal & Child Health Nursing : Care of the Childbearing & Childbearing Family	Silbert-Flagg, JoAnne/ Pillitteri, Adele, Ph.D., R.N.	8 HAR/ PSC	Lippincott Williams & Wilkins	201712
133	専門科目	Spiritual Interventions in Child and Adolescent Psychotherapy	Walker, Donald F. (EDT)/ Hathaway, William L. (EDT)		Amer Psychologic al Assn	201211
134	専門科目	Moffet's Pediatric Infectious Diseases : A Problem- oriented Approach	Fisher, Randall G., M.D./ Boyce, Thomas G., M.D./ Correa, Armando G.,	5TH	Lippincott Williams & Wilkins	201703

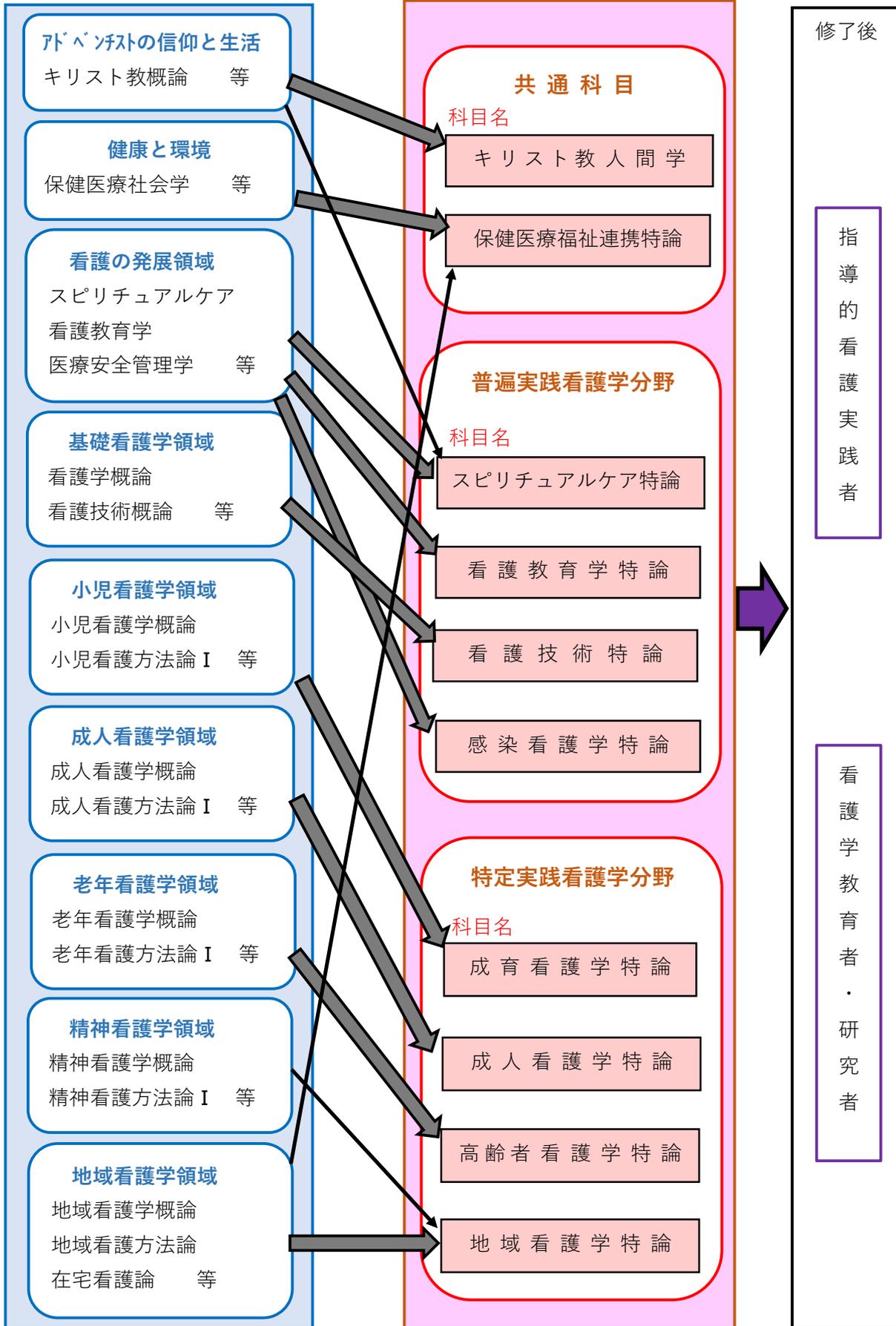
No	区分	書名	著者名	版次	出版社名	出版年月
135	専門科目	Memmler's the Human Body in Health and Disease -- Paperback / softback	Cohen, Barbara Janson, Ba, Msed	Fourth	Wolters Kluwer Health	201901
136	専門科目	Fundamentals of Nursing 9e (Int Ed) Cb -- Hardback	Doe, John		Wolters Kluwer Law & Business	201811
137	専門科目	Viral Infections of Humans : Epidemiology and Control	Kaslow, R. A. (EDT)/ Stanberry, L. R. (EDT)/ LeDuc, J. W. (EDT)	5TH	Springer	201411
138	専門科目	The Foundations of Modern Nursing in America (ES Series : Primary Sources of History of Nursing and Public Health)	Reverby, Susan M. (EDT)		Edition Synapse	200812
139	研究科目	Evaluating Research in Academic Journals : A Practical Guide to Realistic Evaluation	Pyrczak, Fred/ Tchernibuzzeo, Maria	7TH	Routledge	201810
140	研究科目	Qualitative Comparative Analysis in Mixed Methods Research and Evaluation (Sage Mixed Methods Research)	Kahwati, Leila C./ Kane, Heather L.		Sage Pubns	201901
141	研究科目	Using and Interpreting Statistics in the Social, Behavioral, and Health Sciences	Wagner, William E., III/ Gillespie, Brian Joseph		Sage Pubns	201804
142	研究科目	Ageing and Development : Social and Emotional Perspectives (International Texts in Developmental Psychology)	Coleman, Peter G./ O'Hanlon, Ann	2ND	Routledge	201702
143	研究科目	Psychology of Aging 101 (Psych 101)	Youdin, Robert, Ph.D.		Springer Pub Co	201602
144	研究科目	Measuring and Adjusting for Survey Nonresponse (Quantitative Applications in the Social Sciences)			Sage Pubns	201910
145	研究科目	The Sage Handbook of Qualitative Research	Denzin, Norman K. (EDT)/ Lincoln, Yvonna S. (EDT)	5TH	Sage	201705
146	研究科目	Doing Survey Research : A Guide to Quantitative Methods	Nardi, Peter M.	4TH	Routledge	201801
147	研究科目	Social Theory for Social Work : Ideas and Applications (Student Social Work)	Thorpe, Christopher		Routledge	201705
148	研究科目	Plugged in : How Media Attract and Affect Youth	Valkenburg, Patti M./ Piotrowski, Jessica Taylor		Yale Univ Pr	201704
149	研究科目	Gerontology (The Basics)	Sasser, Jennifer R./ Moody, Harry R.		Routledge	201804
150	研究科目	Issues in Aging	Novak, Mark	4TH	Routledge	201802
151	研究科目	Handbook of Gerontology Research Methods : Understanding Successful Aging (Research Methods in Developmental Psychology)	Riby, Leigh (EDT)		Routledge	201611
152	研究科目	Ageing and Diversity : An Active Learning Experience	Mehrotra, Chandra M./ Wagner, Lisa S.	3RD	Routledge	201808
153	研究科目	Ageism : Stereotyping and Prejudice against Older Persons	Nelson, Todd D. (EDT)	2ND	Mit Pr	201705
154	研究科目	Dementia Care : A Practical Approach	Smith, Grahame Michael (EDT)		CRC Pr I Llc	201606
155	研究科目	Community Resources for Older Adults : Programs and Services in an Era of Change	Wacker, Robbyn R./ Roberto, Karen A.	5TH	Sage Pubns	201807
156	研究科目	Family Resource Management	Moore, Tami James/ Asay, Sylvia M.	3RD	Sage Pubns	201711
157	研究科目	Comfort Theory and Practice : A Vision for Holistic Health Care and Research	Kolcaba, Katharine		Springer Pub Co	200212
158	研究科目	Lippincott Manual of Nursing Practice (Lippincott Manual of Nursing Practice)	Nettina, Sandra M.	11 HAR/ PSC	Wolters Kluwer Health	201811
159	研究科目	Hamric and Hanson's Advanced Practice Nursing : An Integrative Approach	Tracy, Mary Fran, Ph.D., R.N./ O'Grady, Eileen T., Ph.D., R.N.	6TH	W B Saunders Co	201801
160	研究科目	Philosophies & Theories for Advanced Nursing Practice	Butts, Janie B., Ph.D., R.N. (EDT)/ Rich, Karen L., Ph.D., R.N. (EDT)	3RD	Jones & Bartlett Learning	201703
161	研究科目	Outcome Assessment in Advanced Practice Nursing	Kleinpell, Ruth M., Ph.D. (EDT)	4 PAP/ PSC	Springer Pub Co	201706
162	研究科目	Practice-Based Clinical Inquiry in Nursing for DNP and PhD Research : Looking Beyond Traditional Methods	Bloch, Joan R., Ph.d. (EDT)/ Courtney, Maureen R., Ph.d. (EDT)/ Clark,		Springer Pub Co	201602
163	研究科目	The Doctor of Nursing Practice : A Guidebook for Role Development and Professional Issues	Chism, Lisa Astalos (EDT)	4TH	Jones & Bartlett Learning	201710

No	区分	書名	著者名	版次	出版社名	出版年月
164	研究科目	DNP Role Development for Doctoral Advanced Nursing Practice	Dreher, H. Michael, Ph.D., R.N. (EDT)/ Glasgow, Mary Ellen Smith, Ph.D	2ND	Springer Pub Co	201612
165	研究科目	Counselling Skills and Studies	Dykes, Fiona Ballantine/ Postings, Traci/ Kopp, Barry/ Crouch, Anthony	2ND	Sage Pubns Ltd	201707
166	研究科目	Dementia Care at a Glance (At a Glance)	Jenkins, Catharine/ Ginesi, Laura/ Keenan, Bernie		Blackwell Pub	201601
167	研究科目	Control of Communicable Diseases Manual (Control of Communicable Diseases Manual)	Heymann, David L., M.D.	20TH	Amer Public Health Assn	201410
168	研究科目	Advanced Practice Palliative Nursing	Dahlin, Constance (EDT)/ Coyne, Patrick J. (EDT)/ Ferrell, Betty R., P		Oxford Univ Pr	201603
169	研究科目	Practical Dementia Care	Rabins, Peter V. (EDT)/ Lyketsos, Constantine G. (EDT)/ Steele, Cynthi	3 Reprint	Oxford Univ Pr	201604
170	研究科目	Psychiatric Case Studies for Advanced Practice	Prendergast, Kathleen M./ Jackman, Kasey B., Ph.D., R.N.	1 PAP/ PSC	Lippincott Williams & Wilkins	201805
171	研究科目	Women and Positive Aging : An International Perspective	Hollis-Sawyer, Lisa/ Dykema-engblade, Amanda		Academic Pr	201603
172	研究科目	Integrative Geriatric Medicine (Weil Integrative Medicine Library)	Kogan, Mikhail, M.D. (EDT)		Oxford Univ Pr	201712
173	研究科目	Caring for Dependent Older Persons	Seng, Tan Jit/ Yuen, Teo Shing		World Scientific Pub Co Inc	201811
174	研究科目	Evidence-based Practice in Nursing & Healthcare : A Guide to Best Practice -- Paperback / softback	Melynk, Bernadette/ Fineout-overholt, Ellen, Phd, Rn, Fnap, Faan	Fourth, In	Lippincott Williams and Wilkins	201812
175	研究科目	Nutrition Essentials for Nursing Practice -- Paperback / softback	Dudek, Susan G.	Eighth, In	Lippincott Williams and Wilkins	201706
176	専門科目	Fundamentals of Nursing : The Art and Science of Person-centered Care	Taylor, Carol, Ph.D., R.N./ Lynn, Pamela, R.N./ Bartlett, Jennifer L.,	9 HAR/ PSC	Lippincott Williams & Wilkins	201811
177	専門科目	Nursing Research Critiques : A Model for Excellence	Bauce, Karen, R.N./ Fitzpatrick, Joyce J., Ph.D., R.N. (EDT)	1 PAP/ PSC	Springer Pub Co	201802
178	専門科目	Revealing Nursing Expertise through Practitioner Inquiry	Hardy, Sally (EDT)/ Titchen, Angie (EDT)/ McCormack, Brendan (EDT)/ Ma		Blackwell Pub	200906
179	共通科目	Handbook of Theories of Aging	Bengtson, Vern L., Ph.D. (EDT)/ Settersten, Richard A., Jr., Ph.D. (ED)	3RD	Springer Pub Co	201605
180	共通科目	The Living Well with Dementia Course : A Workbook for Facilitators	Cheston, Richard/ Marshall, Ann	Workb ook	Routledge	201905
181	共通科目	Sociology of Health and Health Care	Taylor, Steve (EDT)/ Field, David (EDT)	4TH	Blackwell Pub	200705
182	専門科目	Technology Acceptance Model a Complete Guide	Blokdyk, Gerardus		5starcooks	201807
183	専門科目	Spiritual Care : Nursing Theory, Research, and Practice	Taylor, Elizabeth Johnston		Pearson College Div	200107
184	専門科目	Called to Care : A Christian Worldview for Nursing	Shelly, Judith Allen/ Miller, Arlene B.	2ND	Ivp Academic	200602

# 看護学部と看護学研究科との関連図

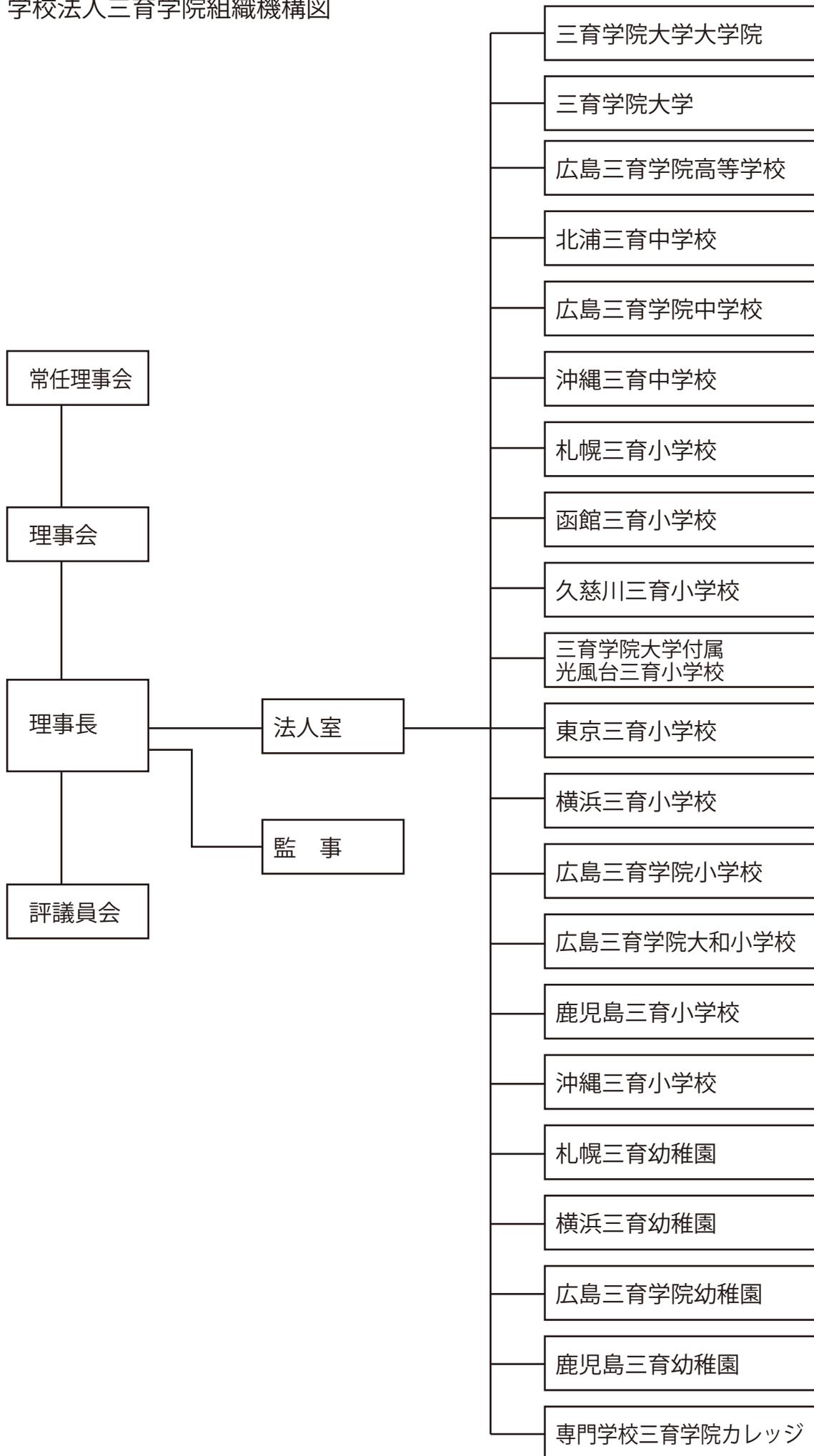
看護学部看護学科

看護学研究科看護学専攻



➡: 主の関連  
→: 従の関連

学校法人三育学院組織機構図



# III-01 就 業 規 則

2018 年度版

三育学院大学

# 就 業 規 則

## 序言

この規則は三育学院大学（以下「学院」という）がその設立の使命を達成するため、教職員の服務、および勤務条件等を定めたものである。教職員は、学院がセブンスデー・アドベンチスト教団を設置母体とする教育機関であることを認め、その発展を旨とし、かつ学院が示す諸原則および標準に一致した行動をとると共に、理事会および諸委員会の権威に従わなければならない。

## 第 1 章 総則

### （一般原則）

- 第 1 条 学院および教職員はこの規則を遵守し、各自の義務を忠実に履行しなければならない。
- 2 学院は常に教職員の健康と福祉を念頭におき、教職員の安全を守り、かつ、教職員の生計が学院に依存していることを認めなければならない。
  - 3 教職員は教育事業の進展が各自の献身にあることを自覚し、奉仕の精神をもって職務に精励しなければならない。
  - 4 教職員は、責任の地位にある者を尊敬し、その指示に従わなければならない。
  - 5 責任の地位にある者は、教職員の人格を尊重し、その建設的意見を聴取しなければならない。

### （教職員の種類）

- 第 2 条 この規則における教職員とは、第 2 章に定める手続きによって採用され、学院の職務に従事する者のことで、下記の 3 種類とする。
- (1) 教育職員
  - (2) 事務職員
  - (3) 技能職員

## 第 2 章 雇用

### （選考）

- 第 3 条 就職希望者は、下記の書類を提出しなければならない。
- (1) 就職申込書（自筆の履歴書-提出前一ヶ月以内の上半身正面脱帽の写真を添付のこと）
  - (2) 就職志望理由書
  - (3) 推薦状
  - (4) 健康診断書
  - (5) 最終出身校の卒業証明書または卒業見込証明書（卒業後直ちに卒業証明書を提出のこと）
  - (6) 資格免許証の写し（就職の際は原本持参のこと）
- 2 前項の書類の提出後、書類審査、書類選考および面接を経て、理事会において採用を決定する。

(提出書類)

第 4 条 採用を内定された者は下記の書類を提出しなければならない。

- (1) 誓約書 (学院所定のもの)
  - (2) 身元保証書 (身元保証人は、独立の生計を営む成年者でなければならない。)
  - (3) 住民票記載事項証明書
  - (4) その他学院が要求する書類
- 2 採用後、前条および前項により提出した書類の記載事項に変更があった場合、すみやかに人事担当者に届け出なければならない。

(試用期間)

第 5 条 新たに採用された教職員については、原則として 3 ヶ月の試用期間をおく。

- 2 試用期間中に本人の身元、健康状態、性格、勤務成績等を審査し、不適格と認められた場合、採用を取り消すことがある。
- 3 前項の試用期間は勤続年数に通算する。

### 第 3 章 服務規律

(服務規律)

第 6 条 教職員は、下記の事項を誠実に遵守しなければならない。これを遵守しない教職員は雇用継続の資格がないものとみなされ、退職を求められることがある。

- (1) 教職員は、定められた規則を遵守し、責任者や、上長の命令と指示に従わなければならない。
  - (2) 教職員は、学院が掲げる教育理念に一致する言動を取らなければならない。
  - (3) 教職員は、火気、その他の危険物を不注意に取り扱ってはならない。また、学院や他の教職員の安全を害したり、財産に損失を与えるようなことをしてはならない。
  - (4) 教職員は、責任者の許可なく施設、備品または資材等を無断借用したりあるいは移動持ち出しなどしてはならない。
  - (5) 教職員は、その地位または職権を利用して、個人の利益、特典を求めてはならない。
  - (6) 教職員は、学院の機密を漏らしてはならない。
  - (7) 教職員は、許可なく正規の勤務以外の職業に従事したり学校等に入学してはならない。
  - (8) 教職員が自己の不注意、もしくは過失によって学院に損害、損失を与えた場合、その弁償を要求されることがある。
  - (9) 教職員はセクシュアルハラスメントを行ってはならない。  
なお、セクシュアルハラスメントを防止するために教職員が遵守すべき事項、並びにセクシュアルハラスメントに起因する雇用管理上の措置等については、別に定める「セクシュアルハラスメントの防止に関する規則」による。
- 2 教職員は原則として学院の提供する住宅に居住するものとする。事情により承認をえて借家または持家に居住する場合、別に定めるところにより住宅手当を支給する。  
なお、退職する場合には、退職後速やかに退去しなければならない。

(人事異動)

第7条 教職員は理事会の決議により転勤・出向を求められることがある。この場合指定された日までに新しい任地へ移らなければならない。ただし旅行日に加えて2日間(荷物の整理の為)を用いる事ができる。

- 2 業務上の必要性があつて転勤、出向を命じられた場合、教職員は正当な理由なしにこれを拒んではならない。

(懲戒)

第8条 教職員は金銭の扱い、時間、交際において、つねに公明正大であつて人に非難されることなく、公私の区別をわきまえ、規則正しく勤務し満足な仕事をする事が期待されている。したがつて、前条の規律、行動の規準に反する場合、懲戒処分に付す。懲戒は下記の4種類とする。

なお、第6条第9号に係る懲戒の種類は、「セクシュアルハラスメントの防止に関する規則」に基づき決定する。

- (1) 譴責 あやまちを戒め、始末書を提出させる。
- (2) 昇給停止 次期の昇給を停止する。
- (3) 減給 基本給の10分の1を限度に減給する。
- (4) 懲戒解雇 予告期間を設けず、かつ予告手当および退職金を支給しないで解雇する。この場合、予告手当不支給(即時解雇)については行政官庁の認定を得るものとする。

(休職)

第9条 教職員が次の各号のひとつに該当したときは休職とし、休職願を学長に提出しなければならない。

- (1) 勤務外の傷病により、病欠欠勤が長期にわたり、日本私立学校振興・共済事業団(以下、「私学共済」という。)の傷病手当金を受給するとき。
  - (2) 前号の他、特別の事由により学院が認めたとき
- 2 休職期間中は無給とする。  
ただし、前項第1号の傷病手当金を受給する期間については、学院は受給資格を満たすための特別措置を講ずるものとする。
  - 3 休職期間は勤務年数に算入しない。  
ただし、第1項第2号の場合は、理事会の決定による。
  - 4 休職期間中の医療補助の適用については、次の各号による。
    - (1) 第1項第1号の場合は適用する。
    - (2) 第1項第2号の場合は理事会の決定による。
  - 5 休職期間中の家賃は徴収しない。

(休職期間および休職期間の延期)

第10条 前条の規定による休職期間は、次の通りとする。

- (1) 前条第1項第1号の場合は、原則として1年を限度とする。
- (2) 前条第1項第2号の場合は、学院が必要と認めた期間とする。
- (3) 前条第1項第1号の場合、休職期間の延長を希望する者は、休職期間満了の30日前までに、休職延期願を事務局長に提出しなければならない。  
理事会は、その休職延期願に基づき休職延期の可否を決定する。

(復職)

- 第 11 条 休職者が復職を希望する場合、復職願を事務局長に提出しなければならない。この決定は理事会において行う。ただし、理事会はその復職願に基づき次の各号を検討の上復職の可否を決定する。なお、復職に際しては休職前と異なる職務につかせることがある。
- (1) 復職の可否
  - (2) 復職後の職場、職責等
  - (3) 復職年月日
  - (4) 給与その他復職後の待遇
  - (5) その他必要と認める事項
- 2 休職期間満了前に復職し、復職後 6 ヶ月以内に同一傷病で休職した場合は、前の休職期間の残日数だけを休職とする。

(解雇)

- 第 12 条 学院は、教職員が次の各号のひとつに該当する場合、解雇することができる。その場合 30 日前に予告するか、または 30 日分の賃金を支払って解雇する。解雇の予告をする場合、同時に日数分の給与を支払えば、その日数だけ予告期間は短縮される。
- (1) 教職員が精神上・身体上の障害により、職務に耐えられないと認められた場合
  - (2) 技術または能力が著しく劣り、職務が満足に果たせないと認められた場合
  - (3) 勤務報告を怠り、または正当な手続きを経ずに就業しなかった場合
  - (4) 学院設立の精神、就業規則に反する言行のあった場合
  - (5) 学院運営規模の縮小やその他の止むを得ない理由により教職員の整理を要する場合
  - (6) その他、前各号に準ずるやむを得ない理由があるとき
- 2 解雇は、理事会の決議によつてのみなされる。

(退職)

- 第 13 条 教職員が次の各号のひとつに該当する場合、退職とする。
- (1) 定年に達したとき
  - (2) 死亡したとき
  - (3) 退職を願い出て承認されたとき
  - (4) 休職期間が満了しても復職が認められないとき
  - (5) 雇用期間の定めがあつてその期間が満了した場合
- 2 満 65 歳の誕生日の属する年度末日をもって定年とする。但し、満 60 歳から満 65 歳の間年度末退職も定年扱いとする。
- 3 ただし理事会が特に承認した場合、満 65 歳を越えても雇用の継続または新規採用をすることがある。この場合、75 才を限度とする。

(退職願)

- 第 14 条 自己の都合により退職を希望する場合、少なくとも 3 ヶ月前に退職願を上長を経て学長もしくは校長に提出しなければならない。課長・学科長以上の要職にある教職員は 6 ヶ月以上の期間において申し出るものとする。

(貸与金品の返還)

第 15 条 教職員は、解雇または退職の場合、身分証明書、私学共済事業団加入者証、および学院から貸与された金品を退職日までに返還しなければならない。学院の住宅に居住する教職員は退職または解雇の日より 2 週間以内に移転しなければならない。

(退職金)

第 16 条 勤続 3 年以上の教職員が退職する場合（懲戒解雇またはそれに準ずる退職の場合を除く）には別に定める退職金支給規則に基づき、退職金を支給する。

(年金制度)

第 17 条 年金はセデンスデー・アドベンチスト年金制度規程に定める通りとする。

## 第 4 章 勤務

(勤務時間及び休憩時間)

第 18 条 教育職員は原則として、週 4 日以上出校、週 12 時間以上の講義を担当し、定められた教育及び運営業務に従事するものとする。他は研究日として用いるものとする。

- 2 事務職員及び技能職員の勤務時間は 1 ヶ月を平均して週 40 時間とし、月平均労働時間は 166 時間とする（年労働時間 1,992 時間）。

始業時刻

月曜日から金曜日午前 8 時

終業時刻

月曜日から木曜日午後 5 時 50 分

金曜日午後 2 時 30 分

休憩時間 12 時から午後 1 時 10 分

ただし業務の都合により始業、終業の時刻または休憩時間を調整することがある。

- 3 寮監の勤務時間については、別に定める。
- 4 出張期間中は所定の勤務時間を就業したものとする。

(出張)

第 19 条 教職員は国内出張、又は海外出張を命じられることがある。海外出張をする場合には、原則として出張日の 1 ヶ月前までに海外出張申請の手続きを取るものとする。

(遅刻、早退、私用時間、私用外出の手続き)

第 20 条 止むを得ない理由によって遅刻、早退、または私用外出等をしようとする場合、あらかじめ所定の様式により、上長の許可を得て総務課に届け出なければならない。ただし、止むを得ない事由によりあらかじめ許可をうけることができない場合、出勤の際遅滞なく届け出て、その承認を受けなければならない。

(休日)

第 21 条 教職員の休日は下記の通りとする。

- (1) 土曜日および週間の 1 勤務日

- (2) 年末年始 12 月 30 日～1 月 4 日
  - (3) 国民の祝日
  - (4) 止むを得ない事由により、学長/校長が業務を休むと発表したとき。
- 2 勤務上必要ある場合、上記休日を他の日をもって振替日とすることができる。

(年次有給休暇)

第 22 条 就職日から起算して 3 ヶ月間継続勤務し全労働日の 8 割以上出勤した者に対しては、継続又は分割して 10 労働日の年次有給休暇を与える。

- 2 就職日から 1 年 3 ヶ月以上継続勤務し、過去 1 年間において全労働日の 8 割以上出勤した者には 1 年 3 ヶ月経過時に 11 労働日の年次有給休暇を与える。就職日から 1 年 3 ヶ月継続勤務後、最初に到来する 4 月 1 日にその期間の全労働日の 8 割以上出勤した者には 12 労働日の年次有給休暇を与える。その後の継続勤務に対しては過去 1 年間において全労働日の 8 割以上出勤した者に、1 年増すごとに前年付与年次有給休暇日数に 2 労働日を加算した年次有給休暇を 4 月 1 日に与える。

年次有給休暇は 20 労働日を限度とする。

有給休暇の残余日数は 1 年に限り翌年度に繰越すことができる。

(注：基準日付与以外の者は付与の日から 2 年で請求権がなくなる。)

また、パートタイマー等から変更した場合には、変更日前日の年次有給休暇残数を有給休暇として与える。

- 3 年間出勤日数の計算に際し、有給休暇の日数、業務上の負傷、疾病による療養のための休業、産前産後の女性が休業した期間、育児休業及び介護休業をした期間は出勤したものとみなす。
- 4 年間出勤日数が全労働日の 8 割に満たない者に対しては、その出勤日数を 1 ヶ月平均労働日で除して得た月数に応じ（この場合端数は 1 ヶ月とする。）、1 ヶ月につき 1 日の有給休暇を与える。
- 5 有給休暇は、教職員の要求する時季に与えなければならない。  
ただし、業務の正常な運営を妨げると認められる場合は、他の時季に変更することがある。
- 6 年次有給休暇を受けようとする者は、必ず届書に記入し、所属長の承認を得るものとする。
- 7 欠勤は、本人から申出のあった場合には、残存有給休暇日数の限度において、有給休暇に振替えることができる。
- 8 年次有給休暇の取得に当たり、午前と午後の半日労働日の取得を許可する。金曜日の取得は 1 労働日とする。

(特別有給休暇)

第 23 条 教職員が下記の各項の一つに該当する場合、それぞれ次の日数の特別有給休暇をとることができる。なお、原則事由発生の翌日から起算する。

- |                       |     |
|-----------------------|-----|
| (1) 本人が結婚する場合         | 3 日 |
| (2) 配偶者及び一親等の者が死亡した場合 | 4 日 |
| (3) 二親等の者が死亡した場合      | 2 日 |

上記 (2) 及び (3) の場合は姻族を含むものとする。

- |                       |     |
|-----------------------|-----|
| (4) 転任・転勤・出向に伴う転居の場合  | 2 日 |
| (5) 裁判員制度により裁判所に赴いたとき | 実日数 |

なお、詳細は裁判員制度規則にて定める。

(病気有給休暇)

- 第 24 条 1 年度に 10 労働日までの病気有給休暇を認める。勤務期間が 1 年未満の場合は勤務した日数に比例するものとし、端数は切り捨てる。  
ただし病気有給休暇の取得は育児・介護休業等に関する規則に定める子の看護休暇の振替えの場合を除き、年次有給休暇を全て取得した場合に限るものとする。
- 2 病気有給休暇をとる場合は届書に記入し、所属長の承認を得るものとする。  
なお、3 日以上続けて病気欠勤する場合には、届書に必ず医師の診断書を添付しなければならない。
  - 3 病気欠勤が第 1 項に定める年次有給休暇の日数を超える場合、その超えた日数は病気有給休暇から充当するものとする。病気欠勤が上記の日数を超える場合は事故欠勤扱いとする。
  - 4 医師の診断により、同一傷病のために連続して 20 日以上長期療養をとるよう指示された場合、前項の規定にかかわらず、病気有給休暇、及び年次有給休暇に充当後、3 ヶ月間は給与全額を支給し、その後は私学共済事業団による傷病手当金の受給を申請するものとする。ただし 3 ヶ月の給与全額支給は、原則として病気有給休暇及び年次有給休暇を充当後の最初の日から遡って 2 ヶ年以上継続勤務した教職員に与えられる。

(事故欠勤)

- 第 25 条 自己の都合、または止むを得ない事由により欠勤する場合、あらかじめ事故欠勤願を上長に提出しなければならない。止むを得ない場合、まず電話連絡し、出勤時に事務手続きをしなければならない。
- 2 事故欠勤は 20 労働日以内とする。
  - 3 事故欠勤が引き続き 20 労働日を超えることが予想される場合、休職の取り扱いをする。
  - 4 事故欠勤は無給とする。

(母性健康管理)

- 第 26 条 妊娠中の女性及び出産後 1 年を経過しない女性は、母子保健法に定める健康診査又は保健指導を受診するための時間並びに医師等の指導事項を遵守するための勤務時間の短縮その他の必要な措置を請求することができる。
- 2 前項により、妊娠中の女性及び出産後 1 年を経過しない女性が請求することができる各措置の内容、請求の手続きなどについては、別に定める母性健康管理規則による。

(産前産後休業)

- 第 27 条 産前産後の休業として、産前は請求により 6 週間(多胎妊娠の場合は 14 週間)、産後は請求なくして 8 週間の休業を認める。ただし、産後 6 週間を経過した場合には、請求により、医師が支障ないと認めた業務につくことができる。
- 2 前項の休業期間は無給とする。ただし、産休の期間中に期末手当支給基準日が到来した場合、その算定対象期間(前期分 1 月～6 月、後期分 7 月～12 月)に実際に働いた月数に応じて、復職後に支給する。
  - 3 第 1 項の休業期間中の私学共済事業団保険料等の被保険者負担分は本人負担とする。

(育児・介護休業等及び保育時間の適用)

第 28 条 育児又は介護を必要とする教職員は、学院に申し出て、別に定める育児・介護休業等に関する規則に基づき、育児・介護休業、子の看護休暇、介護休暇、育児のための所定外労働の免除、育児・介護のための時間外労働及び深夜業の制限並びに育児・介護短時間勤務、保育時間等を受けることができる。

(生理休暇)

第 29 条 女性教職員は生理日の勤務が著しく困難な場合、請求により必要日数の生理休暇を受けることができる。この休暇中は無給とする。

## 第 5 章 給 与

(給与)

第 30 条 給与に関する事項は別に定める給与規則による。

## 第 6 章 福利厚生

(福利厚生)

第 31 条 教職員は、学校及び私立共済事業団及び三育学院職員会の行う福利厚生の利益を受けることができる。

- (1) 死亡弔慰金教職員またはその配偶者（設置母体の教団及び教団関係の諸機関の正規働き人を除く）が死亡した場合、死亡時の月額総合給与ベース相当額の弔慰金を支給する。
- (2) 施設の利用  
設置母体の福利厚生施設、私学共済事業団の行う福祉事業の施設を利用することができる。

(弔慰金)

第 32 条 教職員はその配偶者の死亡の場合、死亡時の月額総合給与ベース相当額の弔慰金を支給する。支給対象者は退職金支給規則に定める遺族の順位に準ずる。

## 第 7 章 安全・衛生

(安全)

第 33 条 教職員は学校施設、備品の保全、特に火気の取り扱いに十分留意しなければならない。火災、または非常災害、およびその他の異常を認めた場合、臨機の処置をとると共に直ちに責任者に報告しなければならない。

(保健衛生)

第 34 条 教職員は、保健、衛生に留意しなければならない。健康上注意を要する教職員には、勤務制限、治療、およびその他の保健衛生上必要な処置を命じることがある。

(定期健康診断)

第 35 条 教職員および世帯主である教職員の扶養対象配偶者は毎年本学準備する定期健康診断を受けるものとし、その費用は全額学院の負担とする。

- (1) 学院が準備する定期健康診断
  - (2) 検査基準
    - (a) 診察
    - (b) 測定 (身長、体重、体温、脈拍、血圧)
    - (c) 尿検査 (糖、蛋白、潜血)
    - (d) 便潜血検査
    - (e) 血液検査 (血色素、白血球、赤血球、赤沈、コレステロール (LDL)、善玉コレステロール (HDL) 中性脂肪、血糖、肝機能 (GOT, GPT、ガンマーGPT) 腎臓機能 (BUN、尿酸)
    - (f) 心電図検査
    - (g) 腹部超音波検査
    - (h) 胸部エックス線検査
    - (i) 胃部エックス線検査/胃カメラ検査
    - (j) HbA1c
    - (k) 眼底カメラ
    - (l) 前立腺ガン検査 (PSA) : 50 歳以上
    - (m) 婦人科検診
      - 1) 乳癌検診 (①か②のどちらかを選択)
        - ① 乳腺超音波検査
        - ② マンモグラフィ (乳房放射線検査) : 40 歳以上
      - (n) 子宮ガン検査 (頸部細胞診検査)
- 看護実習担当教員は下記の 2 項目をオプションとして追加することができる。
- (o) HBs 抗原検査 (血液検査)
  - (p) HCV 抗原検査 (血液検査)
- (4) 希望者は事前に総務課に申し出なければならない。

2 教職員の扶養家族の健康診断の費用については、医療費補助の対象とする。

## 第 8 章 災害補償

(災害補償)

第 36 条 教職員の業務上の事由による死亡および傷病に関しては、労働基準法及び労働者災害補償保険法に基づき通勤途上の災害に関しては労働者災害補償保険法に基づき、災害補償をする。

- 2 前項の場合は、第 24 条 (病気有給休暇) を適用しない。
- 3 業務上の災害に関して、1 項に加え、法定給付の上乗せ補償として下記の給付表に基づき災害補償をする者とする。

〔給付表〕

	等級	給付額（円）
死亡		10,000,000
後遺障害	1級	10,000,000
	2級	10,000,000
	3級	10,000,000
	4級	8,000,000
	5級	7,000,000
	6級	6,000,000
	7級	5,000,000
	8級	4,000,000
	9級	3,000,000
	10級	2,000,000
	11級	1,000,000
	12級	500,000
	13級	300,000
	14級	200,000

## 第 9 章 その他

（出張旅費及び移転費）

第 37 条 教職員が出張旅費及び移転費に関しては、別に定める旅費等支給規則による。

（私用自動車補助）

第 38 条 教職員が職務上使用する私用自動車に関しては、別に定める私用自動車補助支給規則による。

（住宅）

第 39 条 教職員の住宅に関しては、別に定める住宅管理規則による。

### 附則

本規則は 2008 年 4 月 1 日より改正施行する。 理事会決議 07-96  
 本規則は 2009 年 4 月 1 日より改正施行する。 理事会決議 08-51  
 本規則は 2010 年 4 月 1 日より改正施行する。 理事会決議 09-69  
 本規則は 2012 年 4 月 1 日より改正施行する。 理事会決議 11-57  
 本規則は 2013 年 4 月 1 日より改正施行する。 理事会決議 12-33  
 本規則は 2014 年 4 月 1 日より改正施行する。 理事会決議 13-19  
 本規則は 2015 年 4 月 1 日より改正施行する。 理事会決議 14-57  
 本規則は 2017 年 4 月 1 日より改正施行する。 理事会決議 16-46  
 本規則は 2018 年 4 月 1 日より改正施行する。 理事会決議 17-33

## 高齢者の採用に関する内規

制定 平成 31 年 3 月 18 日

### (目的)

第 1 条 この内規は、満 65 歳を超える者（以下「高齢者」という。）の採用について必要な事項を定めることを目的とする。

### (対象者)

第 2 条 高齢者は、卓越した学識経験を有するものであって次の各号のいずれかに該当する場合に採用できるものとする。

- (1) 開設予定の三育学院大学大学院看護学研究科における設置認可申請書に専任教員として記載し准教授以上の職位を予定している者
- (2) 学長が特に必要と認めた者

### (給与)

第 3 条 高齢者の給与については、別に定める。

### (雇用期間)

第 4 条 高齢者の雇用期間は、都度理事会の議を経て、最長で満 78 歳に達した年度末までとする。

### 附 則

この内規は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。